粉河町
粉川寺
十輪律院

粉河町——紀伊國那賀郡第一の町で大和街道の要衝に當り、酢は町の名によつて著はれてゐる。

粉川寺——驛の北八丁粉河町の北端にある、天臺宗、補陀洛山施音寺と號ふ、寶龜元年（凡そ千百五十年前）大伴孔子古の創建、本尊は童男行者作の千手觀世音で、西國第三番の靈場だ、

父母のめぐみも深き粉川寺、ほとけの誓ひたのもしの身や。　詠歌

寺傳によると昔大伴孔子古といふ獵師が山中で奇瑞に會ひ、發心して造佛の念を起して小堂を營みしに、或日童子が孔子古を訪ね來て佛像を作ることを約し、一週間の日切をして小堂に籠つた、約束により八日目の朝孔子古が小堂を開いて見ると童子の姿は見にずして目も眩しき觀音の像が置かれてあつたので孔子古大いに喜び、尊像を安置して供養を怠らなかつた、それが今の本尊であるといふ、本堂、六角堂、參籠所、常念佛室、行者堂、地藏堂、上宮太子堂、中島堂等の諸堂や諸坊が列び立つてゐる、池の坊の虎の彫物は左甚五郎の作で、童男堂、傳大士堂等の建築と共に當寺の名物になつてゐる、今の伽藍は享保五年（凡そ二百年前）の再建であるといふ、三月十八日の緣日、六月十八日の祭禮、八月十八日の曼陀羅會、十一月十八日の本尊出現の日は遠近の參詣者で雜沓を極める。粉川寺の本堂の北、寶釋地といふ靈地に十輪律院がある、俗に粉川寺の奥の院といはれてゐる、文政十二年（凡そ九十年前）紀州侯の建立、本堂は欅造りで中々精致を極めたものである。

長田觀音
岩出大宮
荒田神社
根來寺

長田觀音——驛の西十三丁別所にある、本尊の如意輪觀音は俗に厄除觀音といはれ、遠近から參詣する人が多い。次の▼打田驛省略。

▼岩出驛（王寺驛より四十六哩一分、到着時間約二時四十九分）

岩出大宮——驛の西五丁岩出町の西端にある、熱田神宮と三所權現を祀る、和銅三年（凡そ千二百十年前）の創建、境内に後鳥羽天皇の御遺髮を埋めた王塚がある、社域老樹繁茂し頗る閑寂な所だ。社の北方廿丁根來村字森に荒田神社がある應神天皇の皇女荒田郎子女を祀る式内の古社である。

根來寺——荒田神社の北十二丁西坂本にある、眞言宗眞義派總本山、一乘山大傳法院と號ふ、大治五年（凡そ七百九十年前）興敎大師の創建、本尊は身代り錐鑽不動といつて名高い弘法大師作の不動明王を安置してゐる、往昔は堂塔伽藍二千七百を數へ高野山と並稱された大伽藍で、又戰國時代の例によつて僧兵を養ひ横暴を逞くしたことが史上に見えてゐる、天正五年（凡そ三百四十年前）には信長に圍まれて降を乞ひ

同十三年に秀吉に攻められ兵火の爲に一山灰燼と化した、後淺野幸長や德川頼宣が再興に刀め大師堂、毘沙門堂、觀喜天堂、文殊堂、光明堂、護摩堂、開山密嚴堂等の今の諸堂が再建された、不動堂たけは創建當初の遺構を傳へたもので其他數多の坊舍が甍を列べてゐる、寺域頗る廣濶、老松古柏の間に千餘株の櫻樹が點綴して、その頃は非常に美しい。

「三月廿一日根來寺さして押寄せ給ふ。此時根來寺には剛勇の僧兵士は千石堀及び三所の砦に槓籠らせ彼所にて喰止むべしと思ひの外、或は討死し又は落失せ、爰に籠りたる者どもは老たる僧幼き童など物の用にも立つまじき者ばかり三百餘人殘り居れば、秀吉公の大軍押來るを見て防ぎ戰はんといふ者なく、我先にと落行く程に寺僧等初めの氣勢に引かへて、「此本尊如來はたれがしが背に負うて逃げ去れよ。それの經卷は此箱に取入れたれば、はやく持ちて寺を出でよ」と罵る所へ、秀吉公の先陣はや門外へ押寄せ、鯨波をどつと揚げたりける。（紵本大閤記）

次の▼舟戸驛▼布施屋驛省略。

▼田井の瀬驛　（王寺驛より五十一哩五分、到着時間約三時八分）

日前國懸神宮
山東鐵道
南海電車

日前國懸両神宮――驛の西南廿五丁秋月にある、詳しくは山東鐵道の項參照。（王寺驛より九十四哩三分、到着時間約二時十五分）

驛の東に山東經便鐵道の起點驛がある、詳しくは同線參照。

▼和歌山市驛　王寺驛より五十五哩三分、到着時間約三時廿分）

南海電車の接續點、和歌山市及和歌浦の名所舊蹟は同線其部參照。

▼紀伊の國は音無川の水上に、立たせ給ふはせんぎよく山、船玉十二社大明神、扨東國に至りては玉姫稻荷が三圍へ、狐の嫁入りお荷物を、擔ぐは剛刀稻荷樣、賴めば田町の袖摺も、さしづめ今宵は待女郎、コン〳〵チキヤ、コンチキヤ、媒人は眞先眞黑々な黑助いなりに、つまゝれて、子までなした ゐ信田妻。（端唄）

櫻井線

奈良——高田間

附初瀬軌道

櫻井——長谷間

此線は關西本線奈良驛から南に岐れて丹波市を經、櫻井驛に行つて初瀬軌道に接續し、更に西走して畝傍驛を過ぎ、高田驛に至つて和歌山線となり關西本線土寺驛に通じてゐる關西線の一支線である、奈良高山間一八哩二分王寺驛まで約一時五十分で着く橿原神宮や多武峰、長谷の觀音詣りは此線によればよいのだ

▼奈良驛（起點）

奈良市の名所舊蹟及び其他の詳細は關西本線奈良驛の部參照。次の奈良市の一驛▼京終驛省略。

▼帶解驛（奈良驛より二哩九分、到着時間約廿一分）

帶解寺——驛の東二丁にある、本尊は春日作の地藏尊で、俗に帶解地藏といつて安産に靈驗があるので知られてゐる、寺傳に文德帝の皇后梁殿が御懷胎せられて卅二ケ月に至つたが、御出産の模樣がなかつたので、春日明神の夢の御告げにて此地藏に祈願せられ、間もなくお生れなさつた皇子が清和天皇である、それで伽藍を建立し、今の寺號を賜はつたといふ、又帶解村は卽ち古の山村鄕で、新町村制定の時、寺の號を用ひて改稱したのであるといふ。

奈良市
帶解寺
圓照寺
正暦寺
柿本寺
弘仁寺
大軌電車
丹波市町

圓照寺——驛の東十六丁山村にある、寛文年間（凡そ二百五十年前）後水尾天皇の皇女の創建せられた所、代々皇族の尼公が住院して居られたので、山村御所の名がある。正暦寺圓照寺の東廿三丁菩提山にある、正暦年間（凡そ九百卅年前）僧兼俊の開基、本尊藥師如來を安置してゐる。

▼櫟本驛（奈良驛より四哩五分、到着時間約廿七分）

柿本寺——驛の東南三丁にある柿本人麿の建立、人麿の像を安置してゐる境内にその塚といふ歌塚がある

弘仁寺——驛の東北廿五丁字虛空藏にある、弘法大師の開基、本尊は日本三虛空藏の一といふ、大師作の虛空藏菩薩を安置してゐる、今の堂は寛永六年（凡そ三百年前）の再建、境内に枝垂櫻がある。

▼丹波市驛（奈良驛より六哩一分、到着時間約卅五分）

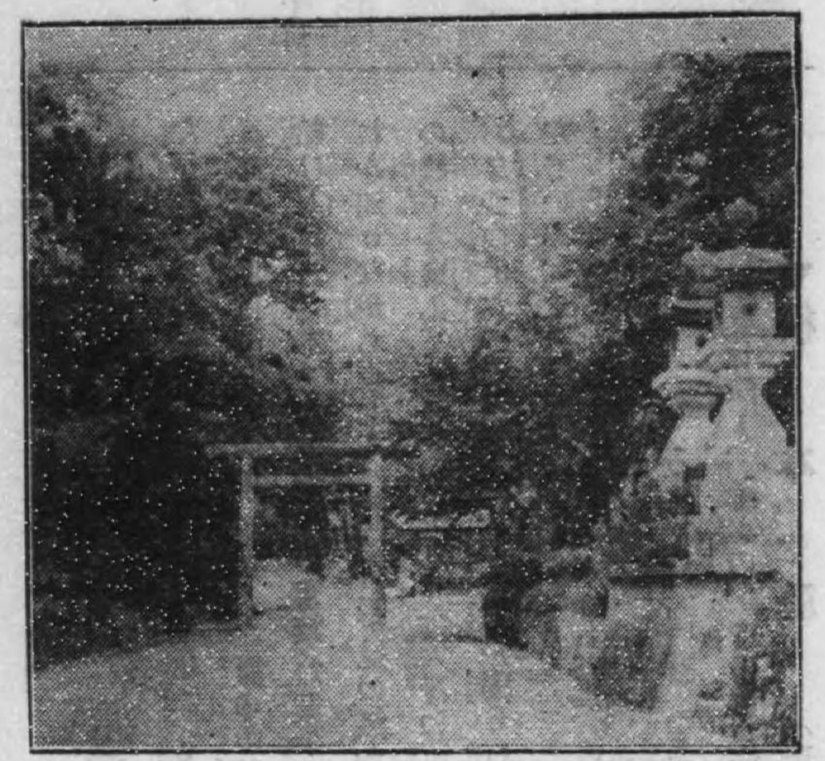
驛の近くに大軌電車の天理停留所がある。

丹波市町——大和山邊郡の町、古の石上鄕で古代は皇室の武器、寶藏を置かれた地であるといふ、明

治二十二年頃は山邊村といつて五十戸足らずの村であつたさうだが今は天理教の御隆でいゝ町になつた。

天理教本部——驛の東九丁、汽車の窓から見える大きな入母屋造の堂宇がそれた、教祖は人も知る中山おみき婆さん、信徒は全國に五百萬と稱せられてゐる、本部の建物は三年越に完成した壯麗なるもので、教殿、教廳、祖靈殿、教祖殿、管長邸、及其他教校、養德院、天理教中學等も經營され、附近に全國の各支部信徒の詰所寺が甍を列べてゐる、教祖の墓は本部の北六丁豐田山西の森にある、結構を盡したもので管長や教職等の墓碑も建て連つてゐる。

石上神宮——天理教本部の東南五丁丹波市町字布留にある、官幣大社、神武天皇が御東征の時に佩かせ給ふ布都御魂の劍と素盞嗚尊が出雲で八岐大蛇を御斬になつた天十握の劍を合祀せる社である、神武天皇が紀伊より大和に入らむと熊野に御着の時、邪神に惱まされ皇軍瘁れ臥せしに、武甕雷神、天照皇大神の神勅を受けて先に國土を平定せし布都御魂の神劍を高倉下命に降して天皇に献らしむ、皇軍忽ち醒め軍氣大いに奮ひ、直に邪神を誅戮し、遂に中州平定の大業を終へ給ふ、天皇深く御劍の靈德を尊び長み櫃原に都を奠めらるや、之れを殿内に齋き祀らしめ給ふ、後崇神天皇神威を瀆さむ事を恐れ給ひ、神殿を此



石上神宮

同本社

在原業平舊蹟

桃尾瀧

地に營み、石上大神と稱へ奉り齋き祀られたのが當社の起原である、本殿は大正二年に落成したものだが拜殿は永保元年（凡そ八百四十年前）宮中の神嘉殿を賜はりしもので樓門と共に特別保護建造物である又布留の地は謠曲井筒に「むかし在原の中將、年經てこゝに石上、ふりにし里も花の春、月の秋とて住み給ひしに」とある在原業平の舊蹟た業平が此處から河内の仇し女の許に通ふてゐたが、業平の夫人はそれを知りながら少しも怨む氣色が見に無かつたので、ドラの業平も少しは變に思つて、或夜庭園に隠れて妻の樣子を窺ふてゐると、折から一天冴に渡り月白く風清きに夫人は琴を彈きながら寢もやらず「風吹けはおきつ白浪たつた山、夜半にや君が獨り行くらむ、」と詠んだので流石の業平も妻の哀情を憐み行ひを改めたといふ、

川柳に　機嫌よく河内通ひの頭巾縫ひ。
　　ある井戸を置いて河内の水を汲み。

石上神宮の東廿餘丁、瀧本の山中に桃尾瀧（布留の瀧）がある。

▼柳本　驛　（奈良驛より八哩八分、到着時間約四十五分）

大和神社
長岳寺
崇神天皇陵
景行天皇陵
穴師兵主神社

大和神社――驛の北十二丁新泉にある、官幣大社、崇神天皇六年（凡そ二千十年前）の創建、倭大國神魂八千矛神、御年神を祀る、四月一日に執行される祭を俗にチヤン〳〵祭といつて有名だ。

長岳寺――驛の東十二丁にある、天長元年（凡そ千百年前）弘法大師の開基、俗に釜の口大師といはれ古は堂宇僧坊甍を列べたといふが今は二三の古堂が存じてゐるに過ぎない、鐘樓門は創建當初のもので境外の五智堂と共に特別保護建造物である、寺域四千餘坪、幽寂な古刹だ。

崇神天皇陵――驛の東七丁にある、山邊勾丘道陵といふ、規模宏大、濠水清く堤に數百の櫻樹があつて、その頃は極めて美しい、南數丁澁谷に景行天皇山邊道上陵がある。

穴師兵主神社――驛の東南廿七丁纒向村穴師にある、崇神天皇の御宇（凡そ二千年前）の創建、兵主神を祀る。纒向村の地は垂仁天皇の纒向珠城宮、景行天皇の纒向日代宮のあつた處、神社の西に當る地は野見宿禰が當麻蹶速と角力して投げた處といふ。

日にみかく玉城の宮の櫻花、春のひかりと植や置きけむ。　（續古今集）

▼三輪　驛　（奈良驛より十一哩一分、到着時間約五十三分）

三輪町

三輪山

大神々社

三輪町――大和磯城郡の町、中世は三輪市といつた驛舍で、酒と素麺の産で知られ殊に酒は古代から著名である、卽ち近松の題材冥途の飛脚に「無慚やな忠兵衛、我さへ浮世を忍ぶ身に、梅川が風俗の人の目立つを包みかね、借駕籠に日を送り、奈良の旅籠屋三輪の茶屋、五日三日夜を明し、廿日餘りに四十兩、遣ひ果して二分殘る、鐘も霞むや初瀨山」とお馴染の名文に唄ひこまれた三輪の茶屋は、その素麺と酒とを客に饗す茶店なのだ、

うま酒の三輪のいはひの山てらす、秋の紅葉は散らまくをしも。（萬葉集）

三輪山――驛の東北に峙つてゐる山がそれだ、三諸山、神並山といはれ、山上に不動、地藏、藥師の三石像がある、古事記や日本書記等にも見えてゐる由緒を持つた山だ。

三諸つく三輪山見れはこもりくのはつ瀨の檜原おもほゆるかも。（萬葉集）

大神神社――驛の東北五丁、三輪山の西麓にある、官幣大社、崇神七年（凡そ二千十年前）の創建、大物主命を祀る、大物主命は卽ち大國主命のことで出雲の大社の祭神である、神代は出雲を中心にその勢力は遠く中國から大和方面までに及んでゐたが、天祖の使者を受けて遂に國讓りせられたことは人の知る處である、社に拜殿はあるが本殿がない卽ち本殿は三輪山全體であるのだ、古來釀造の神として尊敬篤く、萬葉集にも「うま酒、三輪の山、青丹吉、奈良の山」等と詠まれてゐる、社域三百町歩、老樹繁茂、櫻樹點綴して春は美しい。社殿の石段の下に衣懸杉といふ老樹の大株がある。

我庵は三輪の山本戀しくはとむらひ來ませ杉立てる門。（古今集）

の詠があり、謠曲三輪に「不思議やな是なる杉の二本を見れは、有りつる女人に與へつる衣の懸りたるぞや」とある大杉で嘉永五年（凡そ七十年前）に落雷して胴中より裂かれたのである、昔社の附近に緒環塚といふがあつたさうだ、塚の由來は古事記に見えてゐるから左に載せよう。

「活玉依姫其容姿端正かりき、是に神壯夫ありて、其形姿威儀時に比ひ無きが、夜半に忽ち來つ故相愛で、共婚供住間に、幾時もあらねは、其美人姙身みぬ、爾に、父母其の姙身る事を怪しみて、其女に、汝は自ら姙めり、夫なきに、如由してかも姙身めると問へは、答曰へけらく、麗美しき壯夫の、其の姓名も知らぬが夕毎に來て、供住る間に、自然懷姙みぬといふ是を以て、其の父母、其の人を知らまく欲りて、女に誨へけらくは、赤土を床前に散らし、へそ紡麻を針に貫きて、其衣の襟に刺せとをし

櫻井町
阿部の文殊
崇峻天皇陵
音羽寺
談山神社

ふ。故教へし如くして、且時に見れば、針著けたりし廉は、戸の鈎穴より搾き通り出て、唯遺れる廉は三勾のみなりき。爾即に鈎穴より出し狀を知りて、絲のまに〳〵尋行きしかは、美和山に至りて、神社に留りにき。（中略）故其の廉の三勾遺れるに因りて、其地を美和とは謂ひける。（古事記）

▼櫻井驛（奈良驛より十二哩二分、到着時間約一時間）

初瀬軌道の接續點。**櫻井町**は初瀬街道の要衝に當り、古は櫻部といつた處、木材で知られゐる。

阿部の文殊——驛の西南十四丁阿部にある、崇敬寺と號ふ、大化五年（凡そ千二百八十年前）安倍倉橋大臣の草創、本尊は獅子に乘つた文殊菩薩で、陸奥の永井、丹後の切戸と共に日本三文殊といはれてゐる有名なものだ、境内にその文殊が出現されたといふ古窟がある、寺後の山に桃樹多く花の頃は美しい。

崇峻天皇陵——驛の南廿七丁倉橋にある倉梯岡陵といふ附近の地は同天皇の倉梯宮があつた處といふ。

音羽寺——倉橋の東南九丁、下居より更に山路十餘丁音羽山腹にある、一に善法寺と號ふ、天平勝寶元年（凡そ千百七十年前）沙門心融の創建、本尊千手觀音を安置してゐる、眼病に靈驗著しとて詣る人が多い

談山神社——倉橋の南約一里（岡寺の東卅餘丁）多武峰の中腹にある、別格官幣社、藤原鎌足を祀る、初め攝津の安威山に葬つたのを唐から歸朝した長子定慧が此處に改葬して、寺塔を建立したのが此社の創めで、爾後藤原氏一門の榮ゆるにつれて、愈〳〵繁昌し、今の社殿は世に關西の日光ささへいはれてゐる位に立派なものだ、樓門の前にある十三塔は高さ四丈三尺五寸、朱塗、檜皮葺で頗る美觀である、寶庫の後の森は談所の森といつて、天智天皇と鎌足が入鹿誅伐の相談をせられた所といふ、社域廣濶、滿山櫻楓の二樹多く、春秋の頃は頗る美しい。

尋ねきて此も櫻の峰つゞき、芳野泊瀬の花の中宿。　飛鳥井雅章
藤かつら絶ぬ根さしをとゝめける、跡もかしこき多武の山寺。　伴・蒿溪

初瀬軌道

——以下初瀬軌道——

▼初瀬驛（櫻井驛より三哩五分、到着時間約廿分）

此線は關西櫻井線櫻井驛を起點として、東に初瀬町に通じてゐる短線で、全哩數三哩五分、約廿分で着く、次の▼北口▼字陀ヶ辻▼慈恩寺▼黒崎の諸驛省略。

初瀬町——泊瀬山間の一小市で初瀬川に臨み、伊賀及宇陀郡より大和に通ずる要路で、有名な長谷寺があ

る御蔭で榮えてゐる町だ。

長谷寺

長谷寺――驛の東北數丁初瀬町の北端、初瀬山の半腹にある、眞言宗、新義派の總本山、白鳳三年（凡そ千二百五十年前）に今の奥の院の地に、三重の塔を建立し千體釋迦牟尼佛の銅板を安置したのが此寺の創始で、後聖武天皇天平五年（凡そ千二百年前）德道上人に勅して伽藍を營ませ給ひ、十一面觀音を安置せられたのである、丈二丈六尺、鎌倉の長谷觀音と同木であるといふ、西國第八番の靈場だ、

幾度もまゐる心ははつせ寺、山も暫ひも深き谷川。　詠歌

今の殿堂は慶長年間（凡そ三百卅年前）の再建で、その構造は京の清水寺に似てゐる頗る立派なものだ、其他仁王門、權現堂、藏王堂、馬頭夫人社、八幡社、住吉社、鐘樓、藥師堂、愛染堂、大師堂、大黑堂、護摩堂、地藏堂、大講堂等の諸堂宇數多の坊舍がある、山門からつゞく長い石段の廻廊は春日明神の社司中臣信淸が其子信近病氣平癒の御禮に建てたものといひ、上中下の三段に分れ、廻廊の兩側は有名な牡丹の花畑で、その壯觀は寺の名と共に鳴るところ、古來櫻の名所として知られてゐるだけに花の頃は頗る風情がある、舞臺から望むと

石走のたきち流るゝ泊瀬川、たゆる事なくまたも來て見む。　（萬葉集）

とある初瀬川を隔てゝ眞向ふに愛宕山、左に與喜山（寺の觀音山と共に三山鼎立の形）に相對し、四邊の風光と共に、春は櫻、夏は牡丹、秋は紅葉、冬は雪、四季の眺め佳ならざるはなく、吉野月ケ瀬と共にその名を謳はるゝ景勝の地である。

笈摺に卯の花さむしはつせやま。　去來

春の夜やこもりゆかしき堂のすみ。　芭蕉

榛原町――初瀬町の東一里餘、宇陀郡の西北隅にある、萩原に作り、往古神武天皇が天神を祭り給ふといふ鳥見山の靈時の地は詳でないが多分此附近から櫻井の東方外山（初瀬軌道宇陀ケ汁驛）に至る間を鳥見といつたのであるといふ。

室生寺――榛原の東二里餘、宇陀郡室生の山中にある（初瀬より伊賀名張町に通ふ乘合自動車の便をかつて、榛原の東北大野迄行けばそれから室生迄一里半餘である）、眞言宗、白鳳九年（凡そ千二百年前）天武天皇の勅願に依つて役小角が開いた處といふ、天長年間（凡そ千百年前）弘法大師これを再興、高野山の女

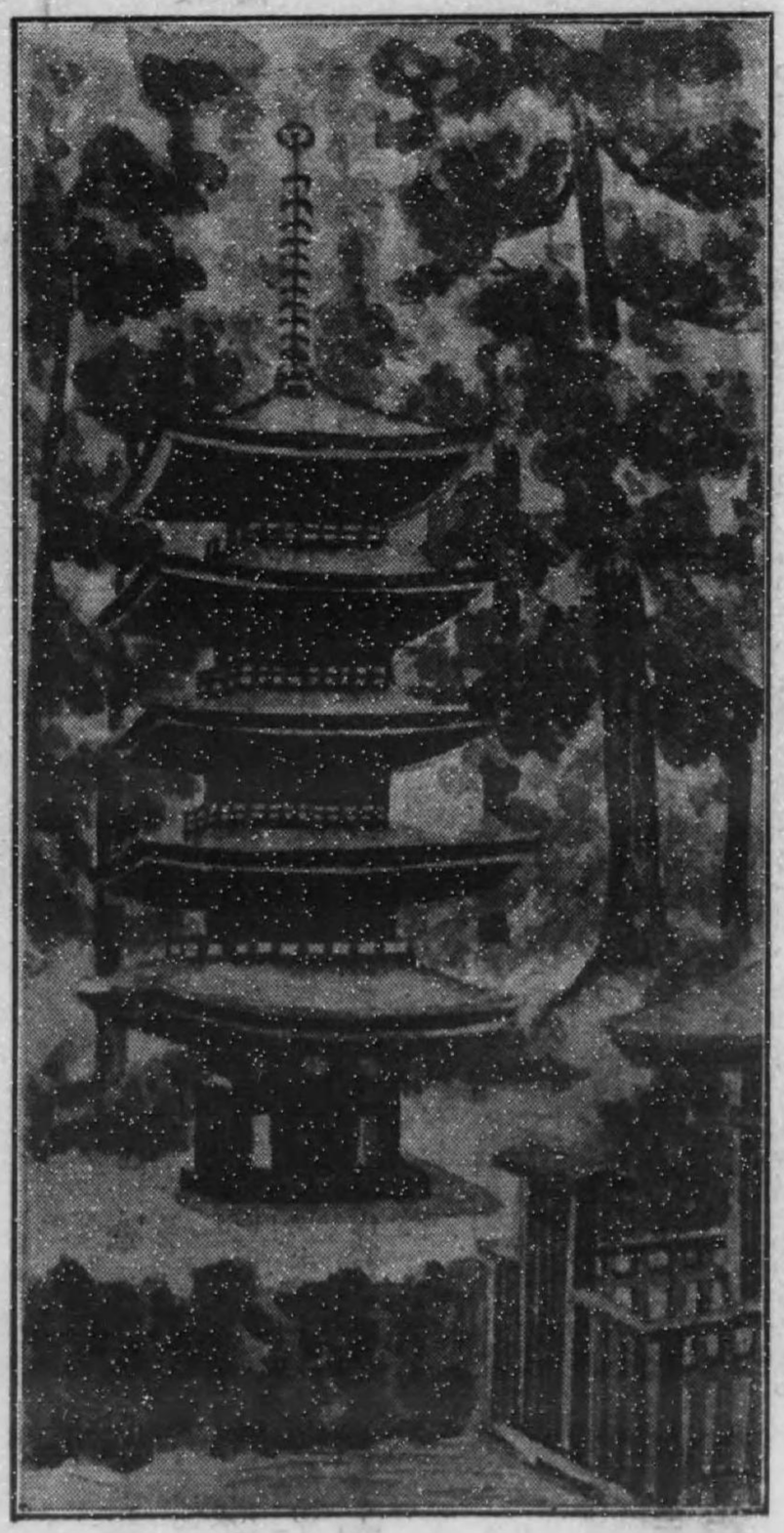
人禁制に對し、世に女人高野といはれた靈刹、金堂、五重塔、護摩堂、彌勒堂、灌頂堂、大師堂等何れも古色蒼然たるもので、中にも金堂と五重の塔は弘仁時代の遺物として美術史上尊重せられてゐる、其他は鎌倉時代の再建といひ大師堂の外は何れも特別保護建造物である、彌勒堂に支那將來といふ彌勒佛、金堂に弘法大師作といふ本尊釋迦、文殊、藥師、聖德太子作十一面觀世音、運慶作の十二神將を安じ、灌頂堂には弘法作如意輪觀音の尊像を安置してゐる、その佛像の多くは國寶で、五重の塔は俗に大師一夜造りの建立といひ他の塔に比して規模は小さいが屋根の勾配が緩いので非常に美しく見える、五重の塔から老杉古檜鬱々立つ間を八丁ばかりも辿ると奥の院で大師堂がある、本尊大師四十二歳の自作の像を安置してゐる。

▼畝傍驛（奈良驛より十五哩二分、到着時間約一時十七分）

——以上初瀬軌道——

八木町——大和高市郡の町で、中街道と初瀬街道の要衝に當り、「飛鳥川七瀬の淀にすむ鳥も」と萬葉集にある飛鳥川を隔てゝ今井町に接してゐる、町に小房積觀音がある（驛の東南五丁）、無量山觀音寺といひ、眞言宗高野派、本尊十一面觀音を安置してゐる、

八木町
小房積觀音



室生寺　春佳畫

たゞたのめ大慈大悲の觀世音、おぶさの里のあらん限りは。　詠歌

綏靖天皇陵——驛の西南八丁四條にある、桃花鳥田丘上陵といふ。

神武天皇陵——綏靖帝陵の西南數丁、畝傍山の東北麓にある、畝傍山東北陵といふ。謠曲に「南に見ゐたるはかぐ山、西に見ゐたるはうねみ山、此山みゝなしまでは三つの山」とあゝ**大和三山**は、畝傍山と其東方の天の香久山及び北東に見ゐる耳成山の三山をいふのである、何れも高くはないが古歌によく詠まれてゐる有名な山だ。

春すぎて夏來るらし白たへに、衣ほしたりあまの香久山。　（萬葉集）

みゝなしの山のくちなしにてしかな、思ひの色の下染にせん。　（古今集）

神代をもかけてそしのふたまたすぎ畝傍の山をけふし見つれば。　成章

橿原神宮——畝傍山の東南麓にある、皇祖神武天皇が建國の大業を完成し給ひし地を卜し明治二十三年に社殿を造營せられ、神武天皇及び其皇后を奉祀せる所、神殿は京都内裏の内侍所、拜殿は同神嘉殿を賜つて、此處に移し造營せられしもので、兆城周圍百七十間、神嚴頗る壯重を極めてゐる。

大軌電車

久米寺

近年こゝまで**大軌電車**の新延長線（畝傍線）が敷かれ神宮の前にその停留所を置いてゐる。

久米寺——橿原神宮の東南二丁久米にある、聖德太子の御弟久目皇子の建立、本尊藥師如來を安置し、觀音堂に十一面觀音と久米仙人の像を安じてゐる、養老年中（凡そ千二百年前）に唐僧善無畏三藏、延曆年中（凡そ千百廿年前）には弘法大師が留錫したといふ古刹だが、久米仙人との關係は判らぬ久米仙人と云へは、女の白脛を見て雲の上から落ちた所謂自然派の仙人だ、

川柳に　仙人を生捕にする洗濯し。
　　仙人さまアとぬれ手でたき起し。

橘寺

橘寺——久米寺の東南卅丁字橘にある、上宮院菩提寺と號ひ、推古十四年（凡そ千三百廿年前）聖德太子が勝鬘經を講讃せられると蓮花が降つたといふ奇瑞により建立せられし伽藍で、太子創立七寺の一である太子殿に太子十六歳の自像、觀音堂に太子作の如意輪觀音、及び惠心僧都作の地藏菩薩を安置してゐる、其他一切經堂、鐘樓等がある、此地は用明、推古兩帝の宮趾で、聖德太子の御誕生地といふ、寺の裏門の左右に左近の櫻、右近の橘がある。

今こそは苔の下まで見ねずとも、空より花のふりしごころぞ。（新六帖）

岡寺——橘寺の東二丁、岡から更に山路四丁にある、（談山神社の西卅餘丁）眞言宗、龍蓋寺と號ふ、淵僧正の開基、本尊は如意輪觀音で、西國第七番の札所である、

けさ見れはつゆ岡寺の庭の苔、さながら瑠璃の光なるらん。　詠歌

開山堂に安置せる自作といふ義淵僧正の像は國寶になつてゐる、又樓門は天智天皇岡本の宮の遺構で、境内に龍蓋池といふ小さい池がある、緣起は天智天皇の御宇に毒龍が現れて人畜を害した、そこで開祖の義淵僧正が勅を奉じて、法力でもつて遂に此池に封じ込んで石で蓋をした、それで寺の名が起きたのだ、又旱魃のときはその蓋の石を搖り動かすと忽ち降雨するこある、モウ一ツ大水の時に此石を打つと、水が引くことでも附け加へると世話がない、寺の西隣に八幡宮を祀る**治田神社**がある。

飛鳥神社——岡の北、飛鳥村の鳥形山にある、大物主命の子を祀つた所といふ附近に上古神酒を造つたといふ酒槽石がある、飛鳥神社の近くに飛鳥大佛がある、地は往古聖德太子と蘇我馬子とが相謀つて創建した元興寺の址といふ、大佛は丈六で止利佛師の作といはれてゐる。

治田神社
飛鳥神社
飛鳥大佛

▼高田驛（奈良驛より十八哩二分、到着時間約一時廿二分）

和歌山線の接續點。次の▼下田驛▼王寺驛何れも和歌山線及關西本線の其部參照。

駄酒落噺（吉野山）

和歌山線の吉野口驛から列車に乘込んだK、一人の旅客と顏を見合し、「やアB君」B「オウ誰かと思へは駄酒落君か、何處へ往つた吉野山かね。」K「早速に駄酒落の尊稱は恐れ入るね、ぢや今日の旅行をヨタで飛すこせうか、實は今日竜坂から自轉車で吉野山へと往つたんたがね、自轉車を預けるも六田なことたと吉野宮にすれはよいのに、ご九郎を長峰櫻、一目千本もかまわず汗かいて、登つて吉野町といふものた、畫の支度も一寸とした茶店で靜御前に携さうと思つたが、愛嬌義經の白首に、藏王堂〳〵と弓張り込まれ、櫻花〳〵と飲み過ぎて、エ、今夜は家へかへらじと矢尻でない目尻を下けて見たが、何分にも懷の工合が不如意輪寺、辨の内侍が至情塚も御陵けんと逃け出して、漸く此處へ金峰神社」といへは、Bも席を讓つて、B「モウ勝手明神もよい加減に吉野山にして口合へ掛けるがよい。」（よた公）

奈良線

木津——京都間

奈良線とは關西本線木津驛より北に岐れて、宇治に至り、宇治より京阪電車と殆ど並行して東海道本線京都驛に至る二一哩六分の一支線をいふのである、奈良、京都間約一時廿五分で着く、即ち奈良方面から桃山御陵參拜や京都方面に遊ぶ人は此線に依れはよいのだ。湊町、奈良驛から京都への直通列車がある。

▼木津驛（起點）

奈良及木津の名所及其他の詳細は關西本線其部參照。

▼上狛驛（木津驛より一哩、到着時間約五分）

橘寺——驛の西南六丁上狛村字新在家にある、律宗、泉橋寺と號ふ、天平十三年（凡そ千百八十年前）行基が木津川に橋を架したとき、供養の爲めに建立した處、即ち行基建立四十九院の一である、本堂に惠心僧都作といふ本尊地藏菩薩と聖觀音を安置してゐる、又別に大石像の地藏尊がある、やはり惠心の作と傳へ千有餘年を經た古佛であるさうな、南に流るゝ木津川は古名を山背河、泉川といひ、古歌に「君こすは誰にか見せん古津川の」の稱もあるので、太平記等にも當寺のことを古津の地藏堂と記されてゐる。又上狛の地は古の大狛郷の一部で高麗人投歸の旧蹟である、昔は「山代の狛のわたりの瓜つくり」と古歌に詠ぜられてゐる瓜の産が知られてゐた處だ。

神童寺——驛の東北廿七丁字神童寺にある、北吉野山と號ふ、眞言宗、本尊は藏王權現八尺の立像である開山堂に役行者四十二歳の自作の像を安じてゐる、東一二丁に子守、勝手兩社がある後の山を袖振山といふ、境内櫻樹多く頗るいゝ風景の所だ、次の▼棚倉驛省略。

▼玉水驛（木津驛より四哩七分、到着時間約十七分）

玉水——山城綴喜郡井手村の大字で奈良街道の一驛である、有名な井堤の玉水は町の北端、街道の左傍にある井水がそれであるといひ、又その北方小藪の下にある水がそれだともいふ、日本六玉川の一といふ井手玉川は驛の西に流れ木津川に注いでゐる小川がそれださうな、あひだには水がないので水無川ともいはれ、昔は堤に山吹多くその頃は黄金の長堤の觀をなし、和歌等にもよく詠まれてゐる。

駒とめて猶水かはん山吹の、花の露そふるでの玉川。　俊成

古の多河郷の地は今の井手村と北方多賀村の地たさうで、その東方の中山を有王山といひ太平記に「辱

なくも十善の天子、玉體を田夫野人の形に替させ給ひて、そこども不知迷ひ出させ給ひける、御有樣こそ淺猿けれ。如何にもして、夜の内に赤坂城へと、御心許りを被盡けれども、假にも未習はせ給はぬ御歩行なれは、夢路をたどる御心地して、一足には休み、二足には立止り、晝は道の傍なる青塚の陰に御身を隱させ給ひて、寒草の疎なるを御座の茵とし、夜は人も通はぬ野原の露分迷はせ給ひて、羅穀の御袖をほしあへず、兎角して夜晝三日に、山城多賀郡なる有王山の麓まで、落させ給ひてけり。藤房季房も、三日まで口中の食を斷けれは、足たゆみ身疲れて、今は如何なる目に逢ども、逃けぬべき心地せざりけれは爲ん方無て、幽谷の岩を枕にて、君臣兄弟諸共に、うつゝの夢に伏給ふ。袖を拂ふ松の風を、雨の降かと聞召して、木蔭に立寄せ給ひたれは、下露のはら〳〵と袖に懸りけるを、主上被御覽て、

さして行笠置の山を出しより、あめが下には隱家もなし。

藤房卿泪を押へて

いかにせん憑む蔭とて立よれは、なほ袖ぬらす松の下露。

山城國の住人、深須入道、松井藏人二人は、此邊の案内者なりけれは、山々峰々無二殘所一搜しける間、皇居隱なく被尋出させ給ふ。」と見にてゐる悲しい奪蹟だ。

高倉社——驛の南八丁綺田にある、後白河天皇の皇子高倉宮以仁親王を祀る、治永四年（凡そ七百四十年前）高倉の宮、源三位頼政の薦めによつて平家を滅ぼさんとなされて、宇治の戰ひに敗れ此地に落させ給ふとき流矢に當つて遂に薨去せられた所、境内に宮の御陵がある。

川柳に　樹に餅がなるやうにいふ源三位、

蟹滿寺——高倉社の東南五丁字濱にある、眞言宗新義派、普門山と號ふ、本尊は百濟傳來といふ柴銅製の釋迦佛で國寶になつてゐる、昔ある百姓が蛙を助けたさに、小蛇に女をやるといつた、蛇は蛙を助けて其夜人に化て百姓の家に娘を貰ひに來た、百姓は今更に驚いて三日の日を乞ひ、それを避けるべく土室を作つて娘を隱した、日を違へずやつて來た蛇は、それと知つて大いに怒り忽ち大蛇となつて其土室を襲ふた娘は生ける心地もなく一生懸命に普門品を稱へてゐると何處ともなく菩薩が出現し給ひ、怖るゝこと勿れと宣ふ、その時澤山の蟹が現れて遂に大蛇を斃した、百姓は大いに喜んで一寺を建立したのが此蟹滿寺であるといふ、至極有難い傳說だ、東隣に式内の建伊那太比賣神社がある。

▼長池驛（木津驛より七哩九分、到着時間約二十六分）

青谷の梅林

水度神社

禪定寺

青谷の梅林——驛の東南長池の南端から街道に岐れて左に小徑を辿ると梅樹がたん〳〵多くなつてくる、やがて其入口ともいふべき青谷村字中に至る（驛の東南十八丁）、中の地は卽ち古の中村鄕の一部で、此處から東南に路をとると青谷川の流れに沿ふて、天の山、石神、一目千本、白坂等の勝がある、山城の月ケ瀨といはれ、附近一帶の地は梅樹の頗る多い處で、總數十萬以上もあるといひ、花の頃は非常に美しいが山水の景が乏しいので餘り豫想を逞くしない方がいゝ、又掛茶屋等の設けもないから遊者は飲食物の用意が必要だ。

水度神社——驛の北廿丁寺田にある、天照皇大神外二神を祀る、式内の古社で鳥居、拜殿、本殿、四脚門等がある、本殿は特別保護建造物で、附近に梅林多くその頃は美しい。

禪定寺——驛の東北二里廿丁字治田原村禪定寺にある、正曆元年（凡そ九百三十年前）關白藤原忠實の創建後荒廢してゐたのを、延寶年中（凡そ二百五十年前）僧月舟の中興した曹洞宗の寺院である。次の▼新田驛▼宇治驛▼木幡驛▼桃山驛▼稻荷驛省略、宇治驛より稻荷驛に至る各驛の名所舊蹟は京阪電車其部參照。

▼京都驛（木津驛より二十一哩六分、到着時間約一時十一分）

京都市の名所舊蹟及び交通等は卷頭京都の見物の項參照。

てかんしよ節

雲か空かと眺めた山もコリヤ〳〵　今ぢやわしらの足の下ヨーイ〳〵デカンショ
からだ六尺これ皆膽よコリヤ〳〵　こいつ叩けば音がするヨーイ〳〵デカンショ
酒は呑め〳〵茶釜で沸かせコリヤ〳〵　御酒あがらぬ神はないヨーイ〳〵デカンショ
田舍育ちの野梅でさへもコリヤ〳〵　花も咲かせりや鳥も來るヨーイ〳〵デカンショ

片町線

片町——木津間

此線は大阪市の東北部片町驛を起點として東に走り、京橋驛に行つて、大阪驛より天王寺驛に至る城東線に連絡し、更に東に走つて木津川の西岸に出で、田邊驛から南に木津川の流域を遡つて木津驛に入る二八哩一分の一支線である、片町、木津間約二時十分で着く、野崎の觀音や四條畷神社まゐりは此線に依れはい〻、近年列車の外に片町から四條畷迄汽動車が通ふてゐる。

▼片町驛（起點）

▼京橋驛（片町驛より二分、到着時間約三分）

城東線の接續點、大阪驛及び天王寺驛方面から城東線にて此線に乘次ぐ人は此處で乘替へねはならぬ。次の▼放出驛▼徳庵驛▼鴻池新田驛省略。

▼住道驛（片町驛より六哩、到着時間約卅二分）

生駒山聖天——驛の東二里、其他石切神社、大龍寺等其附近にあるが何れも大軌電車の其部參照。

生駒山聖天
石切神社
大龍寺

野崎の觀音

四條畷神社

▼野崎驛（片町驛より七哩二分、到着時間約卅八分）

野崎の觀音——驛の東五丁野崎村の山腹にある。福聚山慈眼寺といふ、本尊十一面觀音を安置してゐる、創建年代は詳でないが、今の堂は永祿年中（凡そ三百六十年前）の再建である、昔は野崎詣りといつて寢屋川を舟で行く者と堤を行くものとが互に嘲弄罵詈したことは人の知る處で大阪の年中行事の一つに成つてゐた、近松の「新版歌祭文」に「私が事は思ひきり、山家屋へ嫁入せいと、殘しておきやつたコレ此文、そなたは思ひ切る氣でも、私や何ぼでも得切らぬ、餘り逢ひたさ懷しさ、勿體ない事ながら、觀音樣をかこつけて、逢ひにきたやら南やら、知らぬ在所も厭ひはせぬ、二人一所に添はうなら、飯も炊かうし織り紡ぎ、どんな貧しい暮しでも、わしや嬉しいと思ふもの。女の道に背けとは、聞にぬわいの、胴欲」と此寺の觀音樣がダシに使はれてゐる、寺にそのお染久松の墓といふ面白いものがある。

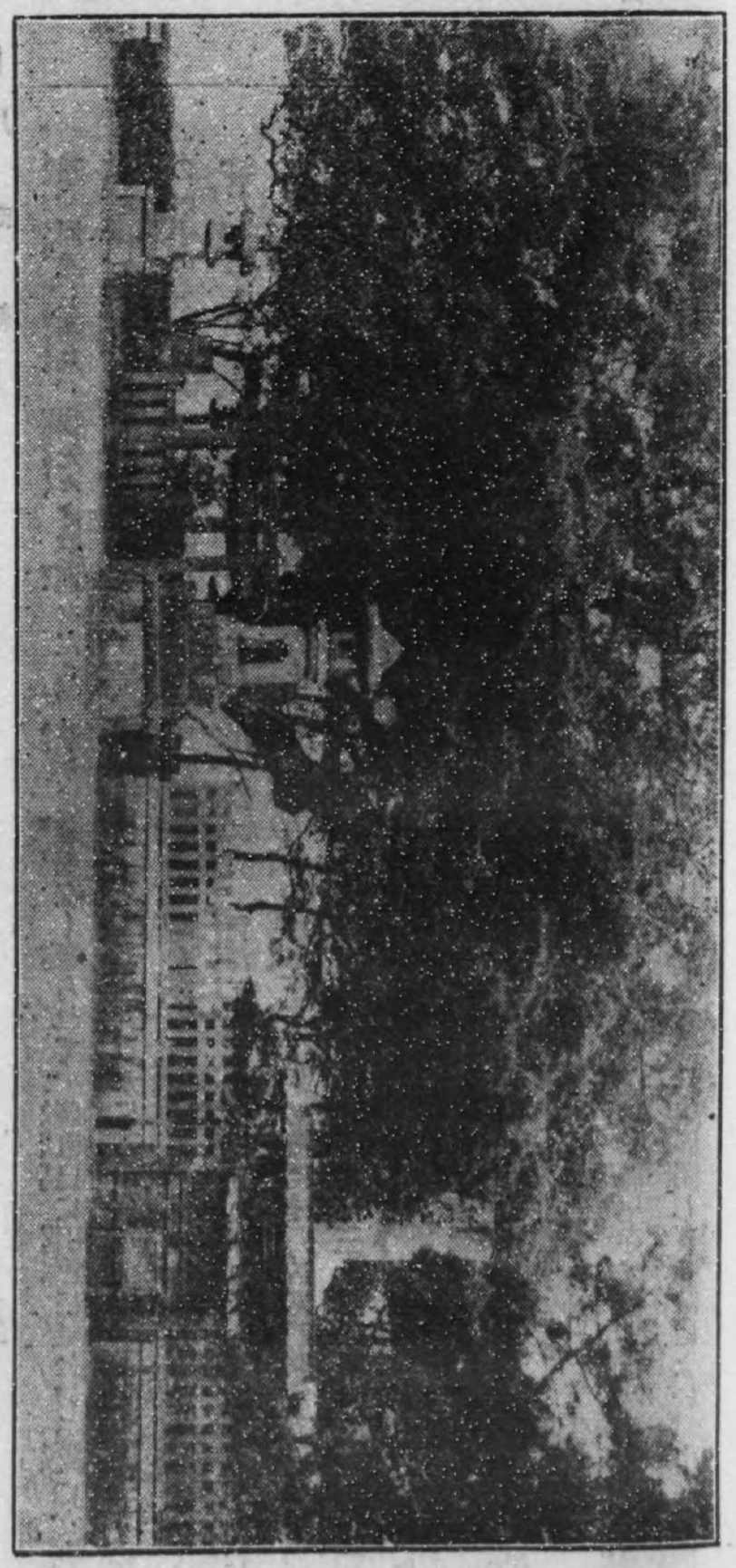
▼四條畷驛（片町驛より八哩二分、到着時間約四十一分）

四條畷神社——驛の東五丁、飯盛山の山下にある、別格官幣社、楠正行及正時を祀る。明治二十二年の創建、社域廣濶、櫻楓躑躅等がある、後は戰史に名高い飯盛山で、山頂に城址がある、山から遠く播但の

峻峰を望んだ風景がよい、又その山下一帶の地は南北朝時代の古戰場で、四條畷は山の南約二里即ち六萬寺（大軌線）の山下一帶の地に當る、正平三年（凡そ五百七十年前）楠正行が三千の精兵を以て高師直の六萬の大軍を打ち破り、力戰奮鬪、飯盛山下に押し進んで悲壯なる最後を遂げしことは人の知る處。又天正十年（凡そ三百四十年前）徳川家康堺浦より京都に向ふとき、此山下で織田信長父子の凶變を聞き、本多忠勝の諫めを入れて自分の本國に走つた有名な話がある。

小楠公の墓——驛の西三丁にある。高さ三丈五尺の碑石で正行戰死の場所といふ、傍に楠公夫人の碑及び驛の北五丁に和田賢秀の墓がある、賢秀は正行の從弟で正平の頃（凡そ五百七十年前）細川顯氏の大軍を住吉に破つて大いに勇名を轟かし四條畷の戰ひにもよく奮戰し遂に正行と共にこゝで戰死した人である。

「去程に師直と、楠、とが間一町許りに成にけり（中略）千里を一足に飛んで懸らんと、心許りは早りけれども、今朝の巳刻より申時の終りまで、三十餘度の戰ひに、息絶氣疲るゝのみならず、深手淺手負はぬ者も無かりければ、馬武者は追攻めて、討つ可き樣ぞ無かりける、されども多くの敵共、四方八方、追散らして、師直七八十騎にて控たれば、何程の事か有る可きと思ふ心を力にて和田、楠、野田、關地良



小楠公の墓

茶臼山觀音

闘、河邊石掬丸、我先々とぞ進みたる。餘りに辭理なく懸られて、師直已に引色に見にける處に、九國住人須々木四郎とて、強弓の矢つき早、三人張に十三束二伏、百歩に柳の葉を立て、百矢をはづさぬ程の射手の有りけるが、人の解捨てたる箙尻籠胡籙を掻抱く許り取集めて、雨の降る如く、矢坪を指てぞ射たりける。一日着暖たる物具なれは中と當る矢、篦深に立たぬは無かりけり。楠次郎眉間ふゐのはずれ射られて、拔く程の氣力もなし。正行は左右の膝口三所、右の頰さき、左の目尻、篦深に射られて其矢冬野の霜に伏たるが如く折懸たれは矢ずくみに立てはたらかず。其外三十餘人の兵共、矢三筋四筋射立られぬ者も無かりけれは、今は是までぞ。敵の手に懸るなとて、楠兄弟刺し違へ、北枕に、伏けれは、自餘の兵三十二人、思ひ思ひに腹掻切つて、蝿か上に重り伏す。（太平記）

維忠維孝似レ公誰。　天壤之間衆所レ推。　親引二孤軍一衝二賊壘一。　要上遵二遺訓一保中皇基上。　感深朝壁題レ名處。　膽斷恩言慰レ別時。　獨喜中興豪傑士。　早揮二椽筆一勒二豐碑一。　小野湖山

茶臼山觀音——四條畷神社の北、南野の東、茶臼山の半腹にある。禪宗、龍尾寺と號ふ行基の開基、寛永年間（凡そ二百九十年前）の再建、本尊十一面觀音は春日作である、眺望展開して非常によい、山中に權現の瀧がある、又北數丁大和へ通ずる道の清瀧嶺の西麓に清瀧といふ飛瀑がある、何れも幽邃閑雅な所で夏季の遊びには最も適してゐる、又秋の楓も美しい所だ。

▼星田驛（片町驛より十一哩二分、到着時間約五十八分）

星田の妙見

星田の妙見——驛の東十六丁峻しい坂路を登つた妙見山の頂きにある。三箇の巨石を神體とする祠で、拜殿等と山中に明星の瀧がある、山麓に櫻樹が多いので花の頃は頗る風致がよい。

磐船

磐船——妙見山麓から山路廿丁（獅子窟寺の南廿五丁）天野川の上流磐船街道の傍にある、高さ三丈餘幅五丈に餘る奇巖で、形が船に似てゐるのでその名がある、巖面に佛像が彫まれてあるので一名岩彫佛ともいひ、里人等はこれを住吉明神といつてお祭をするとのことだ。又天の川は昔仙女が此溪水に浴し、其羽衣を里人に匿されて、やむなく里人と夫婦となり、後天に昇つたといふ三保の松原そつくりの傳說で川の名があるといふ。

獅子窟寺

獅子窟寺——驛の東廿七丁磐船村の山腹にある、行基の開基、本尊藥師佛を安置してゐる、昔龜山天皇が御惱平癒の祈願で行幸せられたことがある古刹で、本堂の後に獅子窟といふ洞窟がある、山中に觀音石、

明光寺
倉治桃林
源氏の瀧
王仁の墓

徳雲岩、大黒岩、笈掛石等の奇巖怪石が散在してゐる、眺望も可成よい。

明光寺——驛の西南十四丁打上にある、大念佛宗、本尊は阿彌陀佛で春日作といふ、寺の後に十三の佛像と傍に弘仁三年(凡そ千百十年前)の銘の彫つた奇石がある、又奥一丁の所に石棺を發いた樣なものがある石寶殿といつてゐる。

▼淳田驛（片町驛より十四哩五分、到着時間約一時十四分）

倉治桃林——驛の附近一面の桃林、車窓からでもその美觀を望むことが出來るが、山麓の邊りに歩を移すと一層の壯觀だ、その頃は掛茶屋等が夥しく設けられ「まアお掛けやーす」と茶店に儲けられる。

源氏の瀧——驛の東南十八丁、交野山麓にある。昔この附近に開元寺といふ巨刹があつたので、一名開元寺の瀧ともいはれてゐる、直下三十尺、水勢甚だ穏かで女子や子供にでも容易に浴することが出來る、北岸に不動堂がある、附近楓樹多く夏と秋には、よく人の出掛る所だ。

▼長尾驛（片町驛より十六哩四分。到着時間一時廿五分）

王仁の墓——驛の南五丁にある、應神天皇の朝に百濟から來て論語や千字文を獻じた王仁博士墓で、碑石は有栖川宮殿下の御染筆である、王仁といつても大本教には關係がない、墓の西南十丁藤坂に明尾寺がある、眞言宗、開基は藤原豐成の女中將姫であるといふ、本尊十一面觀音を安置してゐる、明尾寺の東南廿七丁字尊延寺に尊延寺がある、眞言宗で弘法大師作の聖觀世音を安置してゐる。

明尾寺
尊延寺
酬恩庵
筒城故都址

▼田邊驛（片町驛より二十哩四分、到着時間一時四十分）

酬恩庵——驛の西九丁字薪にある、禪宗、大德寺に屬してゐる、文永四年(凡そ六百五十年前)大應國師の開基、中興は一休禪師である、佛殿に釋迦、文殊、普賢の三尊、開山堂に一休作の大應國師、方丈に自髪を植附けた一休和尚の像を安置してゐる、一休禪師堂は一休の遺骸を埋めた上に堂を建立したもので、一休の笠杖等を藏してゐる、又酬恩庵の額は禪師の筆である。

筒城故都址——驛の東南廿丁字高木から西南九丁多々羅の西北四五丁にある、南北は山で三丁程の間が自然の疆地になつてゐる、こゝを都谷といふ、繼體五年(凡そ千四百十年前)に皇居となつた筒城故都址、山城の國に皇居を營まれた創始で、今の綴喜郡は古の筒城である。

ほとゝぎすやがて筒城の里馴れよなか鳴く聲も絶にず聞けて　定家

▼木津驛（片町驛より二十八哩一分、到着時間約二時十分）

關西本線——接續點、詳細は同線の部參照。前の▼祝園驛省略。

てかんしよ節

儘よ三度笠横ちよに被りコリヤ〳〵
旅は道づれ世は情ヨーイ〳〵デカンショ
山家〳〵こ惡氣にいやるコリヤ〳〵
色のよい花山に咲くヨーイ〳〵デカンショ
龍田吉野も見る人なけりやコリヤ〳〵
花も紅葉も谷の塵ヨーイ〳〵デカンショ
旅行嫌いな糸瓜の奴はコリヤ〳〵
鼻毛の長さが五尺あるヨーイ〳〵デカンショ

京阪電車　大阪——宇治——京都

京阪電車とは大阪天滿橋（市電天滿橋南詰）を起點として、東北に淀川の南を岸邊つて、枚方、八幡を經て中書島に行つて東南に宇治町に至る宇治線を岐け、本線は更に東に走つて、桃山、稻荷を經て京都市に入り、加茂川の流れに沿ふて三條大橋に通じてゐる、二九哩九分と中書島、宇治間四哩九分の軌道をいふのである、大阪、京都間には急行電車を運轉し約一時十分で着く、男山八幡、桃山御陵の參拜及び宇治方面に遊ぶ人は此線によれはよい。

▼天滿橋（起點）

大阪の名所及び交通の詳細は卷頭大阪の見物の項參照。次の▼野田橋▼蒲生▼野江各停留所省略。

▼森小路（天滿橋より三哩四分、到着時間約十一分）

高瀬の淀——停留所の東三丁、淀川の水、守口町の西から岐れ三郷村字高瀬をめぐりて流るゝをいふのである、「こもまくら高瀬の淀にさすさてのさてや戀路におほれはてなん。家長等の詠のある處、三郷村は卽

ち古への高瀬郷の地である。」

▼守　口　（天滿橋より四哩四分、到着時間約十三分）

難宗寺——停留所の北三丁、守口町にある、眞宗、本派本願寺に屬する巨刹で、文明九年（凡そ四百四十五年前）蓮如上人の草創、俗に「守口御坊」といはれ、康雲作の本尊阿彌陀佛を安置してゐる、今の堂宇は明和年間（凡そ百六十年前）の再建、明治元年先帝陛下大阪へ行幸の砌、此寺を行在所に充てられ、同四十二年には今上陛下東宮御時代に工兵特別演習御見學のときにも御泊所となつた光榮を有してゐる。

江口の里——停留所の北十五丁、淀川の對岸神崎川の分岐する岸頭が卽ち古への江口の里である、その當時は淀川の河口、難波江の口に當り、船泊の入津多く、京都へ赴く者は此處で川船に乘替たものだ、

世の中をいとふまでこそかたからめかりの宿りをおしむ君かな　西　行

世をいとふ人とし聞けばかりの宿に心とむなと思ふはかりぞ、　遊女　妙

と西行法師と江口の遊女妙との歌の贈答はよく人の知る處、同所に遊女妙の像を置く日蓮宗の寂光寺、俗に君の堂といふ寺及び堤の上に其歌を刻す歌塚といふがある。次の▼門眞▼古川橋停留所省略。

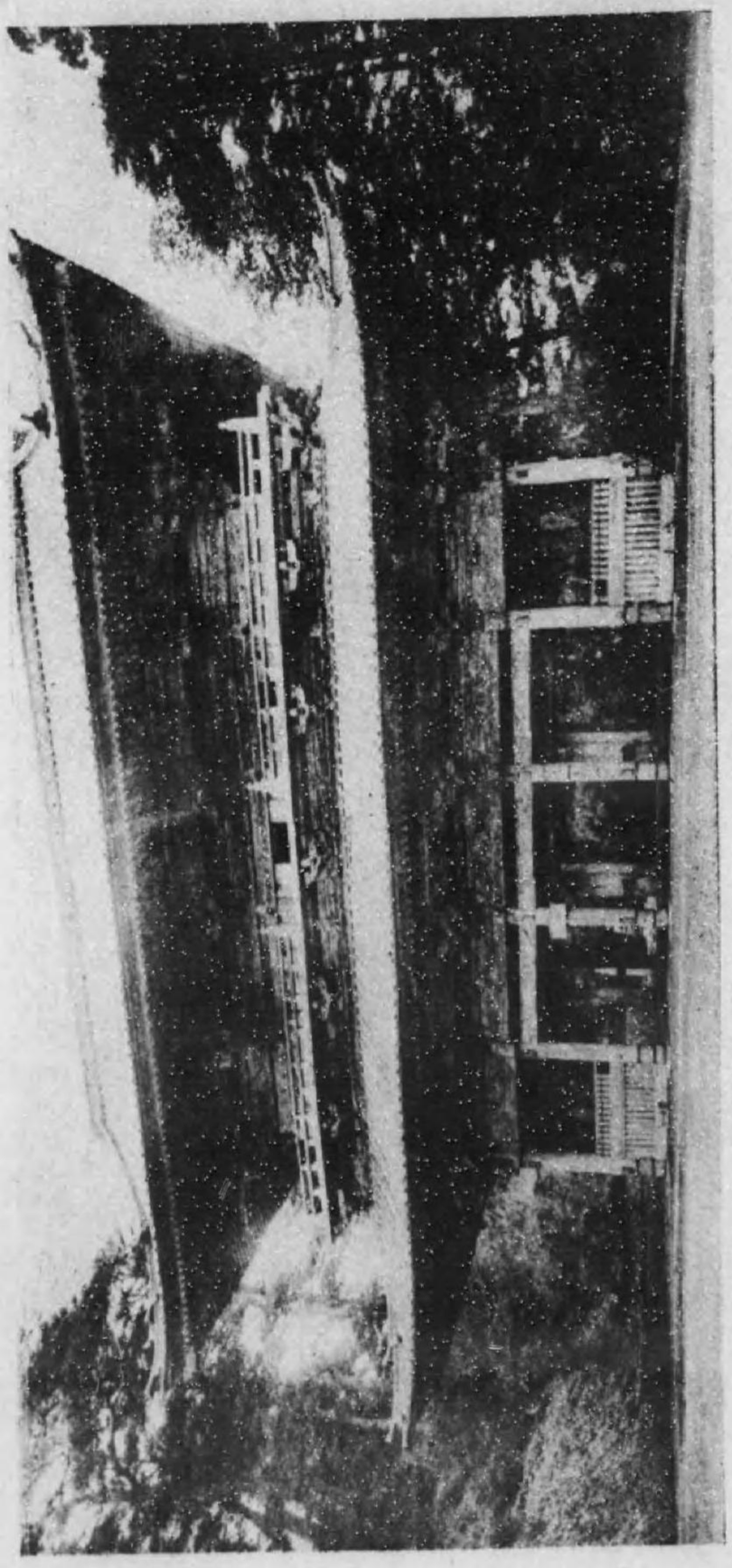
難宗寺

江口の里

君の堂
歌塚

吉野山

（記事三五二）



四條畷神社

佐太神社

菅相寺

來迎寺

▼**菅　島**　（天滿橋より七哩三分、到着時間約二十分）

四條畷神社――停留所の東一里、飯盛山の山麓にある、詳しくは片町線參照。

▼**寢　屋　川**　（天滿橋より八哩五分、到着時間約二十三分）

佐太神社――停留所の西廿丁太庭一番にある、菅公自作の像を祀る、今の社殿は慶安年間（凡そ二百七十年前）淀の城主永井氏の造營に係るものであるといひ、尙境内に後水尾天皇から賜つたといふ勅梅と號くる老樹がある。

家の風世々につたへて神垣やたへたるをつく梅も匂はむ。　後水尾天皇

菅相寺――佐太神社の後にある、曹洞宗、承應元年（凡そ二百七十年前）淀の城主永井尙政の創建、本尊觀世音は菅公左遷の砌、祈願あつて刻まれたものであるといふ、附近に來迎寺がある、大念佛宗、康永元年（凡そ五百八十年前）法明法師の開基、本尊は天筆阿彌陀といはれてゐる名高い尊像を安じてゐる、後村上天皇の勅願所にもなつた古い寺だが、屢々の變遷で移轉すること卅六回、延寶年間（凡そ二百五十年前）此地に堂宇を建立したもので、境内に大きな老松がある、次の▼運動場前省略。

香里園
菅相塚
蹉跎天滿宮
淨土院
本嚴寺

▼香　里　（天滿橋より十哩二分、到着時間約二十七分）

香里園——停留所の前にある、俗に御所山といつた丘陵を拓いて遊園となしたる處で、近時花樹を多く植附け、自然の勝地に一段と趣を添へて四時の行樂に便してゐる。**菅相塚**香里園の景趣を賞しながら東に約六七丁も進むと亂松の丘陵起伏せる間、高さ三間周圍十餘間の兀立せるをいふ、菅公左遷の途次、此處に憩ひて、都の名殘りを惜み遙に京都の地を眺められた舊蹟であるといふ、山を蹉跎山といひ、附近は松茸の產で知られてゐる。

蹉跎天滿宮——停留所の東北五丁大字中振蹉跎山の半腹にある、鄕社、菅公自作の像を祀る、昔菅公の息女苅屋姬が公の後を慕ふて此處迄來られたが公の發足後であつたので、西方の天を臨み蹉跎して悲しまれたので、此地を蹉跎といふに至つたといふのだ。社の傍に**淨土院**がある、眞言宗、本尊の阿彌陀佛は惠心僧都の開眼といひ、脇壇に安置せる、釋迦、觀音、不動、毘沙門の諸佛は隨國より將來の靈像といふ。

本嚴寺——停留所の東南五六丁字三井本嚴寺山の半腹にある、法華宗、聖德太子の本願により草創した古刹で、大同元年（凡そ千百十年前）傳敎大師が留錫して堂塔を建立し、安元年間（凡そ七百五十年前）平重盛が山門等を造營せしが建保の頃燒失し、今のは其後再建したのである、境內に行基が掘鑿したといふ三つ井戸の舊蹟があるので村の名之れに起因するといふ。

光善寺
枚方町

▼光　善　寺　（天滿橋より十一哩一分、到着時間約二十九分）

光善寺——停留所の西北五丁、出口にある、俗に出口の御坊といふ、眞宗大谷派本願寺の支院、文明七年（凡そ四百四十年前）蓮如上人の創立、梓原の深淵を埋めて此寺を建てたから淵埋山と號してゐる、境內に蛇の塔といふがある、緣起は梓原の深淵に住んでゐた龍が美人に化て蓮如上人の法話を聽聞し、その功德によつて遂に昇天した、その龍が遺してゐた鱗を埋めた所といふ、塔の眞僞は兎に角も寺は蓮如上人の遺跡の靈場として世の信仰を集めてゐる。

▼枚　方　（天滿橋より十二哩一分、到着時間約三十一分）

枚方町——淀川に三十石と稱した和船の伏見通ひが航してゐた時分は、有名な喰らはんか船で其名を知られ、又京都、大阪間の交通の要衝に當つて、頗る繁榮を極めてゐたが、鐵道が敷設されて以來ダメになつた、近年電車が通じてやゝ昔の繁昌を取返す樣になつて來た、「船を留めるに碇はいらぬ三味や太鼓で船を

める」と俗謠に唄はれた泥町遊廓は今はないが新に淀川の堤防に沿へる新開地に櫻新地遊廓が出來てゐる。

「船は枚方といへる所近くなりたると見ゑ、商船こゝに漕寄せ〳〵、商人「飯くらはんかい。酒のまんかい。サア〳〵みな起きくされ。ようふさる奴らぢやな」と此船につけて、遠慮なく苦ひきひろげわめき立つる。此商船は、ものいひがさつにいふを名物とすること、人のよく知る所なり。賣言葉に買言葉なれは、のり合「コリヤ飯持つてうせい。ゑい酒があるかい」。北八「いかさま腹がへつた。爰へも飯を頼みます」。商人「われも飯食ふか。ソレ食へ、そつちやの童はどうぢやい。やい、ひもじさうな顏してけつかるが、錢がないか」。彌次「イヤこのべらぼうめ何にをふざきやアがる」。のり合「この汁は、もむない代りに根からぬるうていかんわい」商人「ぬるかア水まはして食ひをれ」。のり合「何ぬかすぞい。そして此芋も牛蒡も腐つてけつかる」。商人「その箸ちや。ゑい所は皆内で煮いてくてしまふわい」。のり合「天窓打してくれべいか」、商人「ちよこざいぬかさずと、早う錢おこせいやい。コレ、そこな親父錢どうぢやい」。おやぢ「この奸盜めらは、たつた今取りくさつて、コリヤ早ういねやい。定めしおでれがけんさいは、書は袖乞して生米がな食ふさかい、今頃はふつ〳〵と腹ふくらして、白い泡ふいてゐよぞい」、

枚方遊園

彌右衛門屋敷の櫻

百濟王神社

商人「オ、われが内は大方四條の蒲鉾（乞食小屋）ぢやあろ。雨が降りさうぢや。水の出ん先早ういにくされ」彌次「イヤ、こいつらアいはせて置きやア途方もねへ奴らだ、横つらア張り飛ばすぞ」のり合「コレ〳〵、おまい腹たてさんすな。アリヤ、こゝのあきない舟は、あないに物をぞんざいにいふのが名物ぢやわいの」。彌次「それたといつてあんまりな」商人「ワアイ、あほよ〳〵」と漕ぎたしてゆく。（膝栗毛）

枚方遊園地——停留所の近く、字伊賀にある、鷹塚山を中心として三萬餘坪の地に設けたもので、山上の眺望展けて頗るよい、又櫻樹が多いので花の頃は美しい、園内に瀑布あり、温泉場、旅館、料亭等の設備もされ、四季の行樂に便してゐる。

彌右衛門屋敷の櫻——停留所の北三丁、淀川の渡船を渡つて茨木街道を西へ廿丁、唐崎にある、東海道線茨木參照、

▼枚方東口

（天滿橋より十二哩七分、到着時間約三十三分）

百濟王神社——停留所の東十丁。天の川を渡つた山田村中宮にある、百濟國の歸化人阿佐太子及びその子孫を祀る、阿佐太子は推古天皇の朝に來朝して、佛像並に經典三千六百卷を廐戸皇子に獻じたので交野に

和田寺
清院舊蹟
御殿山神社
片野神社

屋敷を賜ひ其處に住してゐた、社は天平九年（凡そ千二百年前）に造營されたものである。

和田寺——停留所の東北八丁、字禁野にある、弘法大師の開基、醫王山佛陀寺と號ふのであつたが、中世廢寺となつてゐたのを、楠の一族和田源秀が再建したので今の寺名に改めたのである、本尊の藥師佛は聖德太子の作といひ、安產に靈驗著しくて婦人の信仰が篤い。

▼牧野（天滿橋より十五哩　分、到着時間約卅八分）

清院舊蹟——停留所西南七八丁、牧野村大字渚にある、惟喬親王の行宮を營み給ひし舊蹟で、世の中に絶てさくらのなかりせば春のこゝろはのどけからまし。　業平

と伊勢物語に在原業平が奉詠せしことが見えてゐる、今其址は觀音堂になり、堂前に親王遺愛の櫻、駒止め松等があつたが枯死して今はない、東方の御殿山の丘陵は惟喬親王が遊獵せられた舊蹟で、附近に**御殿山神社**がある、近年櫻樹を多く植附け大いに風趣を添ゐる樣になつた。

片野神社——停留所の東北三丁、字坂にある、鄕社、垂仁天皇の朝（凡そ千九百五十年前）野見宿禰の勸請、建速須佐之男命外三座を祀る、中世社殿は屢々兵燹に罹り、今の社殿は豐臣秀賴が大阪城鬼門除の爲めに再建したものである。

交野の原
橘本
久修園院
男山八幡宮

交野の原——牧野村の全體と山田村の甲斐田、片鉾の地を總稱して交野の原といふ、昔桓武天皇此處に狩し給ひてより、一般庶民の獵を禁じられた、古來の歌枕である。次の▼樟葉停留所省略。

▼橘本（天滿橋より十八哩、到着時間約四十四分）

橘本——山城、河内の境界で、淀川を隔てゝ山崎に對してゐる、豐太閤が朝鮮征伐のとき輜重運輸の爲めに此處に長さ百八十間幅五間の大橋を架した、今はその跡方もないが橘本の名それによるとのことだ、對岸へ渡舟が往復してゐる、**橘本の渡**といふ。

久修園院——停留所の南四丁にある、眞言律宗別格本山、聖武天皇の勅願で行基が建立した四十九院の一である、本尊の釋迦佛を俗に長谷觀音の化身といひ傳へてゐる、境域廣濶、古色蒼然たる名刹だ。

▼八幡（天滿橋より十九哩　分、到着時間約四十七分）

男山八幡宮——停留所の南近く男山の鳩嶺にある、官幣大社、貞觀元年（凡そ千六十年前）大和大安寺の僧行敎が神託によつて筑紫宇佐八幡を勸請せし所、應神天皇、神功皇后、比咩大神を祀る、山麓一の鳥居が

ら南門まで六丁である、二の鳥居、三の鳥居を過ぎると二丁程の兩側に無數の石燈籠が並び、四邊は老樹繁茂してゐる、南門の東側に鳩巖書院、神厩、鳳輦舍、文庫、西側に社務所、神厨等がある、南門を潛ると中に樓門、拜殿、神殿が列つてゐる、何れも檜皮葺の丹塗、五彩絢爛、内外殿に架す有名な黄金の樋は秀吉の寄附で長さ十三間幅三尺に餘る黄金の雨樋である四方に瑞籬を繞らし、花鳥を彫り、金銀を鏤め壯麗人を驚かす、社殿は特別保護建造物である、天元二年(凡そ九百四十年前)圓融天皇の行幸されて以來歴代十八度の行幸があつた、中でも弘安四年(凡そ六百四十年前)龜山上皇の蒙古襲來の掃攘の祈禱、正平六年(凡そ五百七十年前)後村上天皇、源顯信、楠正儀等を從へられて北軍と五十餘日間の戰鬪、近くは文久二年(凡そ六十年前)孝明天皇、攘夷祈願等の行幸は歴史上有名なものだ、境内に武内宿禰を祀る武内社、菟道稚郎子を祀る水若宮社、仁德天皇を祭る若宮社、住吉の神を祀る住吉社等の末社及び楠公の手植といふ楠樹がある。

頼み來し身はものゝふの八幡山いのる契りは萬代までに、　北畠氏隊

松もおひ又も苔むす石清水、ゆく末遠く仕へまつらん。　紀貫之

石清水八幡

石清水社
頓宮殿

石清水社——本社の東門を出でゝ坂路八丁程下つた所にある、攝社の一で天御中主命を祀る、側に彩屋を設けた石泉がある、清泉滾々として厳冬にも凍らず、大旱にも涸るゝことがないので石清水の名が起きたのである。

頓宮殿——山麓一の鳥居の附近にある、八幡宮の御旅所で毎年九月十五日の男山祭には山上から此處へ神輿の渡御がある、當日の盛觀はいふまでもなく、京阪地方の參詣者で山上山下人を以て充溢する熱鬧は非常である。

丸盆に八幡みやけの弓矢かな。　太祇

「神祭る日も如月の今日さてや、のどけき春の景色かな。「花のみやこの空なれや、「雲も收まり風もなし
「君が代は千代に八千代にさゞれ石の、いはほとなりて苔のむす、「松の葉色も常磐山。緑の空ものどかにて、君安全に民あつく、關の戸ざしもさゝざりき、本より君を守りの神國に、わきて誓ひも澄める夜の、月かげろふの石清水、絶えぬ流れの末までも、生けるを放つ大悲の光、けにありがたき時世かな、神と君との道すぐに、歩みを運ぶこの山の、松高き、枝も連る鳩の嶺、枝も連る鳩の嶺、曇らぬ御代は久方の、月の桂の男山、けにもさやけき影に來て、君萬歳と祈るなる、神に歩みを運ぶなり、神に歩みを運ぶなり。（謠曲弓八幡）

神應寺
杉山不動
善法律寺
正法寺

神應寺——停留所西南近くにある、曹洞宗、絲杉山と號ふ、貞觀二年（凡そ千六百年前）行教和尚の開基、本尊藥師如來及兩脇日光月光の二佛を安置してゐる、又後の壇に豐臣秀吉の木像がある、今の堂は慶長三年（凡そ三百廿年前）の再建、書院は伏見桃山城の遺構で、襖畫は狩野山樂、杉戸の畫は狩野永德といふ、此處から山崎、淀、鳥羽、伏見方面を臨んだ風光が頗るよい、境内に開基行教の塋、及楠公手植といふ楠、大阪の豪商淀屋辰五郎の墓等がある、本堂より一丁不動谷を隔てゝ杉山不動がある、本尊は弘法大師作の不動明王で、堂は行教和尚の開創である。

善法律寺——停留所の南八丁にある、律宗、建長年間（凡そ六百七十年前）男山八幡宮の社司善法寺宮清の草創、本尊の阿彌陀如來は定朝の作といひ、境内に老楓多く秋は美しい所だ。

正法寺——善法律寺の南近くにある、建久年間（凡そ七百卅年前）源忠國の本願にて建立、後奈良天皇の勅願所となり勅額を賜りし名刹、惠心僧都作の阿彌陀如來を安置してゐる、今の堂は寛永七年（凡そ二百

紅葉寺
八角院
圓福寺
洞ケ峠
淀城址

九十年前）尾張侯の家老志水忠繼の再建に係るもので庭の杜鵑花が知られてゐる。尙附近に淨土宗の紅葉寺及八角院等がある。

圓福寺——正法寺の南十五丁、八幡小字福祿谷にある、臨濟宗、天明三年（凡そ百四十年前）の創建、大應國師の開基、本堂に本尊釋迦佛、脇士文殊、普賢、及び十六善神を安置してゐる、達磨堂の達磨大師は聖德太子の作で、初めは大和の達磨寺にあつたものだが、寛正元年（凡そ四百六十年前）片岡光次が畠山政長と戰ひ、敗れて山城の八幡に隱れた、當時携へた此像が轉々して此處に移されたのである、山門、方丈、禪堂、洞雲軒、一指軒、寶藏等がある。

洞ケ峠——圓福寺の東二丁、高野街道、山城河内の國境にある峠で、天正十年（凡そ三百四十年前）山崎合戰のとき大和の筒井順慶が大軍を擁して、羽柴、明智兩軍の旗色を日和見した所と傳へられてゐる峠だ。

（天滿橋より二十一哩、到着時間約五十二分）

▼淀

淀城址——停留所の傍にある、元龜元年（凡そ三百五十年前）岩成主税助此處に城を築き織田信長と戰ひしことがある、後豐臣秀吉の愛妾淺井氏（淀君）が住してゐた、享保年間稻葉氏の居城となつて維新の廢藩に及

奥津神社
宇治線
京橋
寺田屋

んだのである、昔は城外に大きな水車を設け水を城中に引いてゐた、俗謠に「淀の川瀨の水車何を待つやらくる〳〵と」唄はれてゐるのがそれだ、今は城廓を毀して纔に堅濠と壘壁の一部が殘してゐるに過ぎない、城趾の傍に奥津神社がある、鄕社、豐玉姫命外二神を祀る、拜殿攝社、末社等がある、古樹鬱蒼としてよいお宮だ。

▼中　書　島　（天滿橋より二十三哩九分、到着時間約五十八分）

宇治線の分岐點、宇治方面に遊ぶ人は此停留所で乘替へねばならぬ。

京橋——停留所の北二丁高瀨川に架した橋で、昔伏見から大阪の八軒家へ通ふてゐた有名な三十石舟の發着所「のぼり夜船は、かいや艪じやとて、棹音つたへ、佐太や枚方淀、水に車はくる〳〵と、伏見へ着くへ、オ、イオ、イ脚袢の紐じや、まひとつじや、三尺帶じや、まひとつじや、笠じや蓑じや、シテ歩くのじや。」と唄はれてゐる、橋の東南に中書島遊廓がある。

寺田屋——京橋北詰の東にある、文久二年（凡そ六十年前）薩摩の藩士有馬新七外八名が奮死せし所、所謂寺田屋騷動のあつた所だ、又土佐藩の勤王の士坂本龍馬が此家に潛んで密かに天下の志士と往來したる所

で世に知られてゐる、庭内に烈士の殉難の碑がある、「薩摩九烈士遺蹟志」の篆額は有栖川宮熾仁親王の筆撰文は川田剛、書は長英である。

大黒寺——寺田屋の北、鷹匠町にある、弘法大師の開基、眞言宗、圓通山と號ふ、維新の際に西郷隆盛を初め多くの志士が此處に集まつて天下の大事を議した所、寺に其室といふがある、又境内に寺田屋殉難の志士の墓碑がある。

▼觀月橋　（中書島より五分、到着時間約二分）

——以下宇治線——

觀月橋——停留所の傍にある宇治川に架した橋で、始めは桂橋といつてゐたが秀吉桃山在城の砌、大友豐後守に命じて架設させしを以て豐後橋と通稱するに至つた、觀月の名所として其名がある。橋の北に**月橋院**がある、創立年代は詳でないが豐後橋落成の日、豐太閤が此寺で月を賞した舊蹟といふ、東南に巨椋の入江を控へ古來觀月の名所として知られてゐる。

巨椋池——觀月橋の南數丁にある、一に大池ともいひ、東西三十二丁、南北廿七丁、周圍三里に及ぶ、

大黒寺
觀月橋
月橋院
巨椋池

「巨椋の入江とよむなり射目人の」と萬葉集に見にてゐる、昔は宇治川の流水此處に注いで恰も灣形をなしてゐたが豐公が伏見桃山城を築くとき長堤を築いて湖河を區分し、新に大和街道を中央に通じて交通の便を計つた、西部は甚だ廣濶で風光に富んでゐる、東部は狹いが蓮花が多いので花の頃は頗る美しい。

巨椋の入江の月のあさにまたひかり殘して螢とぶなり。　藤原爲尹

▼御陵前　（中書島より一哩三分、到着時間約四分）

明治天皇桃山御陵——停留所の北五六丁、堀内村にある、地は伏見桃山城本丸址、明治天皇兼て御愛勝あらせられた所、陵は上圓下方の式で列聖中殊に御尊崇篤かりし天智天皇山科陵と同じ制である、外玉垣は前面七十間、側面八十五間、内玉垣は前面五十間、側面六十五間、正面の御門の鐵扉に御紋章が燦として輝いてゐる、御陵用の石材は全部小豆島の御影石で、皓々たる玉柵と翠松とが相映じて、その壯嚴なる神々しさに、參拜者をして覺にず襟を正さしむる、陵の東に昭憲皇太后伏見桃山東陵がある、陵域は稍々狹いが陵式は同じである、地は伏見城名護屋丸址で、御陵の前面に蒼梅谷梅林の數十の古株がある、花の頃は神々たる景勝の地に一段の風致を添へる、陵の南西數丁に乃木神社がある、武人の典型といはれし乃木

明治天皇桃山御陵
伏見桃山東陵
乃木神社

希典大將の英靈を祀る、拜殿本殿ともに白木造りの神々しき社で、夫人を祀る靜魂神社及び附近に長府の舊宅を移した乃木舊邸がある。

桓武天皇陵——明治天皇陵の西北にある、柏原陵といふ、四周石壘、頗る壯嚴な陵である。

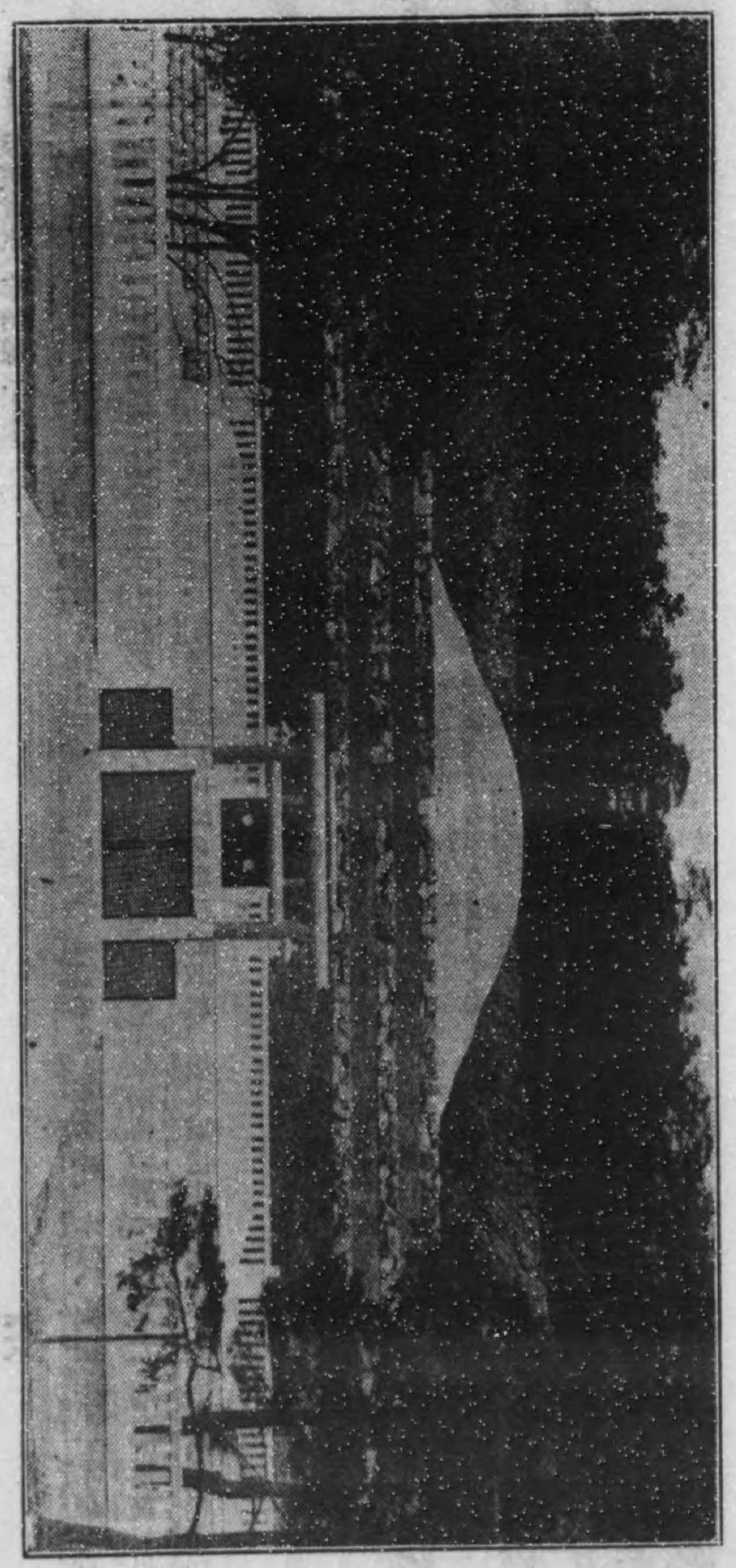
▼六地藏（中書島より二哩。到着時間約六分）

六地藏——大善寺と號ふ、淨土宗、境内の地藏堂の本尊は小野篁の作で、京都六地藏の一である、緣起は昔小野篁冥土に行き生身の地藏尊を拜して蘇生し、後一木を以て六體の地藏尊を刻む、之れを當地に安置せしを平清盛が西光法師に命じて京都の入口毎に一字を建てゝ、その六體の尊像を配置せしといふ、今の六地藏廻りといふのがそれだ、六地藏の北に昔木幡の關があつて、京に入る旅人を取調たといふが今は其趾も詳でない、

遠からぬ伏見の里の關守は、木幡の峰にきみそすゑける。　藤原家隆

日野藥師——停留所の東北廿丁、醍醐村字日野にある、本名を法界寺といふ、眞言宗、藤原家宗の創建、永承三年（凡そ八百七十年前）日野資業の再建、本尊の藥師佛の胎内に傳教大師自刻の守り本尊といふ小像を

靜魂神社
桓武天皇陵
六地藏
日野藥師



納めてゐる、乳の出ない者が祈願すれば靈驗著しとて參詣する人が多い、本堂、阿彌陀堂、本願寺別堂等がある、日野の地は藤原氏の山莊のあつた處で、後嵯峨、後深草兩帝の御幸せられたことが增鏡に見いてゐる。西北方の小栗栖の地は、明智光秀が山崎の戰ひに敗れ、坂本城に走る途次、土民の爲めに竹槍で刺されし所、明智藪といつて今も存じてゐる、

川柳に　光秀を　素人細工に　さし殺し。
　　瓢簞の　留守に　桔梗の　花盛り。

金剛王院——日野藥師の北七丁にある、眞言宗、舊名を一言寺といふ、本堂に不動明王、千手觀音の尊像を安置し、內侍堂に少納言信西の女、阿波內侍の像を安じてゐる。

醍醐寺——金剛王院の北五丁字醍醐にある、眞言宗古義派大本山、貞觀十六年（凡そ千五十年前）理源大師の開基、伽藍は山上と山下に分れ、山上を上醍醐、山下を下醍醐といふ、三寶院は永久三年（凡そ八百十年前）鳥羽天皇の叡信に依つて醍醐寺の十四代の座主勝覺僧正の創立、代々座主の住院で本尊彌勒菩薩及左右に弘法理源の兩大師を安じ、大書院、泉殿、渡殿、伏見桃山城の遺構枕流亭、秀吉の建てた觀花亭の遺物唐門等、林泉と共に何れも結構壯麗を極めてゐる、花見山は三寶院の東北四丁、俗に千疊敷といふ、山上平坦、慶長三年（凡そ三百廿年前）秀吉が催した、いはゆる醍醐の花見の舊跡である、

名も知らぬ櫻は寺をあらはして、いつか忘れん花の面影。　秀吉

下醍醐——延喜四年（凡そ千二十年前）醍醐天皇理源大師の高德を敬信し給ひ釋迦堂を建立、次いで朱雀天皇法華三昧堂を、村上天皇は五層塔、更に白河天皇が諸堂造營あらせられ寺運隆々として山上と共に一大伽藍となつたが、文明十二年（凡そ四百四十年前）に兵火で山下は悉く燒失し、今のは後秀吉が再建修理せるものといふ、金堂に本尊藥師佛、其他山門、開山堂、五層塔、清瀧社等が老樹の間に散在してゐる。

上醍醐——下醍醐より登ること卅七丁、貞觀十六年に理源大師が瑞雲の棚引くを見て此山に登りしとき白髮の老翁現れ、溪間の清泉を飲んで嗚呼醍醐味なる哉と言はれ、大師にこの山は古佛鍊行の靈跡で我れも久しく住む處、之を師に讓るといつて姿掻き消す如くに見えず成つた、大師大いに喜び準胝、如意輪の二像を刻んで安置し忽ち一大靈區となつた、今西國第十一番の札所である、

きやく緣ももらさず救ふ願なれば、じゆん禮たうはたのもしきかな　詠歌

清瀧社、閼伽井、準胝堂、藥師堂、五大堂、如意輪堂、祖師堂等と難しい御經を稱にて入る、靈泉の浴湯がある、全山老松古杉繁茂し、櫻楓點綴して頗る幽邃な所だ。

▼木　幡（中書島より三哩五分、到着時間約八分）

木幡の里——停留所附近の地をいふ、宇治から京都に入る通路に當り、昔は旅人に馬を貸して渡世する者が多かつたので、木幡の馬貸といひ名物の一つになつてゐた、又年治の亂には常磐御前が三人の子供を伴れてさまよひ平家方に捕はれたのも此處だ。

山背の木幡の里に馬はあれど、かちよりぞ來る君を思へば。　人丸

許波多神社——小字東中にある、式内の鄕社、正哉吾勝勝速日天忍穗命を祀る、本殿は保護建造物、其他拜殿、神樂殿等がある、昔天武天皇大津の宮より吉野山に逃れ給ふとき、我れ天位を賤まは此柳芽を出すべしと宣ひ御鞭の柳枝を瑞垣にさし給ふ、後天位に登らせ給ふときその鞭より芽を生じ繁茂せしに、天皇叡感殊に深く神田封戸を寄進して柳大明神と稱し給ふといふ、又或年木幡に牛が多く病ひ死せし時、

あはれみを垂るゝ柳のかみなれば、死ぬるをうしと思はさらんや。　近衛應山公

木幡の里

許波多神社

の一首を此神に捧げしに忽ちその災が止んだといふ緣起をもつた社だ。

▼黃　檗　（中書島より三哩四分、到着時間約十一分）

黃檗山萬福寺——停留所の東近く、字五箇庄にある、黃檗宗大本山、明の歸化僧隱元禪師の開基、萬治二年（凡そ二百六十年前）今の地を賜ひ、寛文八年（凡そ二百五十年前）の創建、總門、天王殿、伽藍堂、禪悅堂、齋堂、大雄寶殿、法堂、選佛場、祖師堂、鐘樓、方丈等何れも特別保護建造物で建て方は總て支那の風を模したるもの、結構奇意明代の遺制が偲ばれる、

山門を出づれば日本の茶摘唄　芭蕉

實際山門を入ると異域に到るの想ひがする、大雄殿に本尊釋迦佛、脇士加葉、阿難、及十六羅漢の像を安置してある、其外境内に威德殿、牌堂、鼓樓、松隱堂、開山塔、碑塔、舍利殿等の諸堂と放生ノ池がある一大名刹だ、川柳に「唐韻を茶摘も餘程聞き覺え」といふがある。

▼三　室　戸　（中書島より四哩六分、到着時間約十四分）

三室戸寺——停留所の東五六丁、三室山の半腹にある、天臺宗、明晨山と號ふ、寶龜年間（凡そ千百五十年前）禁中の御室を移して創建せし所、南都大安寺行表和尚の開基、中興は智證大師である、本尊の觀世音は菟道山の奥、志津川の源、岩淵の水底から出現された靈像といふ、西國第十番の靈場だ、

よもすがら月をみむろとわけ行けば宇治の川瀨にたつは白波　詠歌

本堂、阿彌陀堂、鐘樓、寶藏等がある、鐘樓の前小路半丁程に不動瀧がある、附近に楓樹多く秋は美しい

暮れはつる秋のかたみにしはし見ん、紅葉散らすや三室戸の山　西行

菟道稚郎子墓——停留所の前にある菟道稚郎子は應神天皇の第五皇子である。

▼宇　治　（中書島より四哩九分、到着時間約十五分）

宇治町——奈良及び東國より京都に入る要衝で戰國時代には兵家必爭の地となつて、矢叫び太刀打の昔に脅かされた所、我國第一の茶の產地として、著はれてゐるだけあつて、附近は至る所茶畑である、町には茶を商ふ店が多い、

木かくれて茶摘もきくやほとときす。　芭蕉

俗謠に「宇治はよいとこ北西晴れて、東山風そよ〳〵と」、「宇治は茶所、茶は緣所、娘やりたや婿ほしや」

黃檗山萬福寺

三寶戸寺

菟道稚郎子墓

宇治町

宇治橋

通圓茶屋

「あれに見ゆるは茶摘ぢやないか、茜襷に菅の笠」、なゞゝ唄はれてゐる。

宇治橋——停留所の傍にある、宇治川に架した長さ約百間の長橋で、昔源三位頼政が事を擧げ平等院に據り、此橋板を撤して平家の軍を防いだことは人のよく知る處、

川柳に　橋板を平等院へかつきこみ

又元暦元年（凡そ七百四十年前）にも旭將軍義仲の軍が此橋板を破りとつて義經の大軍と對峙した、その時平山季重、佐々木定綱、澁谷重助、熊谷直實、直家父子の五人が此橋桁を渡つて先陣した、中にも熊谷直實が我子のことを氣遣ふて「續くか小次郎誤ちすな〳〵」と呼べば、「心ゆるして落入給ふな〳〵」と直家之れに答へ、宇治川の激流は逆に流るゝかとぞ覺ふ橋桁の上に父子の情の哀さを留めた、橋から上流朝日山喜撰嶽の翠を臨んだ景色がよい、橋の中央に欄干を張り出した所がある、昔橋姫祠のあつた跡で、秀吉が橋守通圓に命じて茶の水を汲ました所といふ、橋詰の通圓茶屋に其釣瓶を藏してゐる、

宇治橋の紳や茶の花　咲耶姫。　宗因

淨瑠璃の題材「生寫朝顔話」に「過ぎし卯月の中空に、都の辰巳宇治の船、こがれよるべの螢狩に、思ひ初

橘小島ヶ崎

めたる戀人と、語らふ間さへなつの夜の、短い契りのほいない別れ。」と唄ひ込まれてゐる螢狩の名所で、此處を背景として駒澤次郎左衛門と娘深雪との戀物語が傳へられてゐる。橋の西橘小島ヶ崎は昔佐々木、梶原の二士が先陣を競つた所、宇治川と先陣とて史上に名高い琵琶歌からその勇ましい武者振を抄錄する

「香りも高き橘の、小島が崎より乘り入れて、前後を爭ふ猛者あるにぞ、あれは如何にと見てあれは前に打せる若武者は、色をも香をも後ぞ知る、籠の梅の梶原にて、さて續けるは今もかも、咲き匂ふちん山吹の、花色おどしの佐々木なり、駒は天下の逸物にて乘り手も聞ゆる手だれゆへ、敵も味方も兩岸に、鳴を靜めてみつめたり、さしもの激流ものとせず、浮きつくゞりつ競ひ行く、其の有樣はさながらに、若鮎さはしる川なみに。鵜を放ちたる如くなり、佐々木は後より聲をかけ、ヤア梶原殿腹帶が延びて候ぞ、疾く〳〵しめずは危しといはれて梶原驚きつ、手綱を馬のゆがみにすて、左右の鐙をふみすかし、腹帶を解きて締め直す、佐々木はその間につと拔けて、眞一文字に乘り渡り、對の岸にぞ打上たり。（宇治川の先陣）

平等院

平等院——宇治橋の西詰南二丁にある、地はもと河原左大臣源融公の別業のあつた所、後陽成天皇行宮を營まれて、宇治院と名號け給ふ、次いで宇多、朱雀兩帝の離宮となり、其後藤原道長請ひて山莊となせしを其子賴通之れを承て、永承七年（凡そ八百七十年前）改修して寺院とし平等院と號く、天臺、淨土兼宗鳳凰堂、釣殿は創建當初のもので、特別保護建造物、藤原時代の精致を盡せるものである、鳳凰堂に定朝作の丈六阿彌陀佛と小像五十餘體を安置してゐる、堂の前の池は阿字池といつて惠心僧都の造る所、釣殿は鳳凰堂の北にある觀音堂のことで、堂の傍の青芝が扇の芝である、謠曲賴政に「また是なる芝を見れは、扇の如く取り殘されて候は、何と申したる事にて候ぞ。さん候此芝に付いて物語の候。語つて聞かせ申し候べし。昔此處にて宮軍の有りしに、源三位賴政合戰に打ち負け給ひ、此處に扇を敷き自害し果て給ひぬ、されは名將の古跡なれはとて、扇のなりに取り殘して、今に扇の芝と申し候。」とある所、

川柳に　無駄骨を折つて扇の芝となり。

鐘樓は鳳凰堂の南小高き丘にある、鐘は印度製の古鐘で國寶になつてゐる、無銘たが頗る雅致あるもので神護寺の銘と園城寺の昔と平等院の形を以て日本三名鐘といはれてゐる有名なものた、附近に櫻楓の樹多く春秋ともに美しい。

釣殿

扇の芝

鐘樓

縣神社
浮島
天ヶ瀬瀧
橋寺

縣神社——平等院の後門の右一丁にある、吾田津姫を祀る、往昔は平等院の守護神で、社域狹小たが中々有名な神社だ、六月五日の祭禮所謂縣祭は賽者群衆して、宇治の人家悉く之れが宿泊に充てられ、尚入るに家なく露宿する者多く、而も晴夜中に渡御する奇習があるので、終夜喧噪絶ないといふ賑がさだ。

浮島——平等院から宇治川の土堤に登ると河中に長さ五十間程の小島があるのがそれだ、島にある十三層の大石塔は、奈良西大寺の興聖上人が宇治橋再架の時、網代を埋めて龍神の加護を得んが爲めに築いたもので、久しく土中に埋もれてゐたのを發掘して再び建立したのである、此島から對岸の興聖寺の石門迄渡船の便がある。

天ヶ瀬瀧——浮島の東南十丁、宇治川の上流、碧波巖に激して飛沫散る處にかゝつてゐる飛瀑で、四邊の風致殊によく、身は仙境にあるの思ひがする。

橋寺——宇治橋東詰南近くにある、放生院といふ、律宗、本尊地藏菩薩と外に觀音、阿彌陀等を安置してゐる、境内に宇治橋橋斷碑がある、大化二年（凡そ千二百八十年前）宇治橋竣功のとき橋畔に建てたものたが、いつの頃にか土中に埋もれて所在も知られなかつたのを、寛政年間（凡そ百三十年前）に北寺の溝中から掘出したのである、日本三古碑の一といつて有名だ。

宇治神社
下の宮
上の宮
興聖寺
朝日山

宇治神社——橋寺の南、宇治川に沿ふて一二丁にある、離宮八幡宮ともいひ上下二社に分れてゐる、地は稚郎子皇子の宮居の舊地で、仁德天皇の朝（凡そ千六百年前）の鎭座である、**下の宮**は菟道稚郎子皇子を祀り、式内の鄕社、宇治町の產土神である、本殿は永承年間（凡そ五百四十年前）の建造、松樹鬱蒼たる間にある、**上の宮**は下の宮の奥、半丁許りの喬木鬱蒼たる中にある、應神天皇、仁德天皇、稚郎子皇子を祀る本殿、拜殿、春日社等特別保護建造物である、境内に櫻樹多くその頃は美しい。

興聖寺——宇治神社から宇治川を沿ふて南に數丁、浮島の對岸にある、興聖寺の石門を潛ると琴坂といふ西崖を紅葉山といつて楓樹が多い、樓門は石門から一丁許りの所にある、曹洞宗最初の靈刹、佛法山と號ふ、本堂に本尊釋迦佛、脇士文殊、普賢を安置してゐる、開山堂、天竺殿、知祠堂、書院、方丈等がある興聖寺、宇治神社等の後の山を**朝日山**といふ、山に登ると脚下に宇治川の清流展けて眺望が非常によい、山上に千手觀音を安じてゐる小堂及び石造の塔等がある。

『摘みやれ、おつみやれ、宇治の里の茶摘、はたち餘りは茶の花よ、廿の人の木とかいて、茶といふ文

字によむわいな、伊豫簾おろしてちやこ摘みやれ（端唄）

——以上宇治線——

▼伏見桃山（天滿橋より廿四哩五分、到着時間約六十分）

御香の宮——停留所の東二丁程の所にある、府社、神功皇后、仲哀天皇、應神天皇及外六座の神を祀る、昔は御諸神社といつた社で、貞觀年中（凡そ千六十年前）香水湧出せし時清和天皇より御香宮の勅號と千貫の神領を下賜された、弘安三年（凡そ六百四十年前）には後宇多天皇親く奉幣、元冠討平の御祈願あり、天正十八年（凡そ三百卅年前）には豐太閤神劍を獻じて征韓の勝利を祈る等、信仰の篤い社だ、表門は桃山城の大手門の遺構で、中門は同城車寄の遺物である、拜殿、神輿庫、繪馬所等と豐國社、東照宮の攝社及び、文珠九助の碑がある、文珠九助は伏見の人、天明五年（凡そ百四十年前）に一身を抛つて江戸に上り、奉行の暴狀を訴へて數多の人の困憊を助けた義人である。

桃山御陵——停留所の東十丁、詳しくは宇治線御陵前停留所參照。次の▼丹波橋停留所參照。

▼墨染（天滿橋より二十五哩六分、到着時間約一時間餘）

墨染寺——停留所の附近にある、法華宗、墨染櫻の古蹟、寛永三年（凡そ二百九十年前）に藤原基經が愛じたときき上野岑雄が哀悼の餘り

深草の野邊の櫻も心あらば、今年はかりは墨染に咲け。　岑雄

と詠んだ、すると其年一株の櫻樹に黑色の花が咲いたのでその櫻のあつた地を墨染と呼ぶに至つたといふ

欣淨寺——墨染寺の隣地にある、曹洞宗、道元和尚の開基、本尊阿彌陀佛は釋迦、彌陀、大日三身の合體で頗る異相であるといふ、寺は小野小町の美貌に迷ひ百夜通ひの約束で、九十九夜目に哀れ雪の爲めに凍死したと傳ふ深草少將の邸跡であるともいふ。

川柳に　飽れて通へは　とは少將が言ひ初め。

九十九夜供も　同じく九十九夜。

藤森神社——停留所の東北二三丁、府社、神武天皇神功皇后、日本武尊、早良親王、伊豫親王、武内宿禰等を祭る、例祭は六月五日で騎馬武者の行列頗る美觀た、境内に大將軍社、八幡宮の末社がある、昔は境内に數多の藤花があつたが今はその名殘を留むるに過ぎない、頗寂な社だ。

安樂壽院
鳥羽天皇陵
近衛天皇陵
白河天皇陵
北向不動院
城南神社
袈裟御前の墓

安樂壽院——停留所の西十丁竹田村にある、眞言宗、本尊は春日作の阿彌陀佛で胸の邊に卍の字があるので俗に卍字阿彌陀といふ、金堂の藥師佛は行基の作で、金堂の西にある、釋迦、彌陀、藥師の三體十佛弘法大師の作といふ、境内に鳥羽天皇の陵及び近衛天皇陵がある、竹田村の西、成菩提院に白河天皇の陵がある、附近の地は鳥羽上皇城南離宮のあつた舊址である。

北向不動院——安樂壽院の西にある、大治五年(凡そ七百九十年前)鳥羽上皇の創建、皇城鎭護の爲めに興敎大師に勅して、不動明王の像を刻ましめ北向に安置し給ふ、往昔は中々盛觀を極めた名刹といふが兵燹に罹り、現在の堂は正德二年(凡そ二百十年前)東山天皇の故宮を賜ひて移築せしものである。

城南神社——北向不動院の西南三丁下鳥羽村字中島にある、眞幡寸神社といひ、息長帶日賣命、八千戈神と國常立尊及び伊勢、八幡、加茂、松尾、稻荷、平野、春日の七柱を合祀せる社で、慶應四年(凡そ五十五年前)官軍が此社の杜によつて京師に入らんとする幕兵を擊破したことは人の知る處、本殿、拜殿、神樂舍等の建物がある清洒な社だ。

袈裟御前の墓——停留所の西二十丁下鳥羽村戀塚寺にある、謠曲に「鳥羽の戀塚、秋の山、月の桂の川瀨舟、漕ぎ行く人は誰やらん」と見にてゐる處で、北面の武士源渡の妻袈裟が遠藤武者盛遠の横戀慕に辭する由なく、

露深き淺茅か原に迷ふ身の、いとゞ暗路に入るぞ悲しき

の辭世を殘して盛遠の手に討れたることは人のよく知る處である、文覺上人作といふ袈裟御前の木像を安じ、緣結に驗があるといつて詣る人がある。

川柳に　文覺は一杯喰つた坊主なり。

第十六師團

▼師團前（天滿橋より二十六哩一分、到着時間約一時六分）

第十六師團——の諸兵營が停留所の附近にある、民間飛行家武石皓波が墜落して慘死を遂げた深草練兵場は停留所の西北にある、附近の地は深草の里といつて、其名によつて知られる、草茫々たる野邊で、鶉の名所であつたが今は京都の接續市街で數多の家が立ち列んで舊來の觀はない、

深草や竹の葉山の夕きりに人こそ見にねうつら鳴くなり。　家隆

十二帝陵——停留所の東北七丁、深草村の内にある、後深草、伏見、後伏見、後光嚴、後圓融、後小松、

十二帝陵

稱光、後十御門、後柏原、後奈良、正親町、後陽成以上十二帝の陵である、十二陵帝の東南三丁程の所に仁明天皇深草陵がある。

▼深　草　（天滿橋より二十六哩七分、到着時間約一時七分）

雀のお宿——停留所の西近く鍵本家にある、室内や庭園、軒頭等に吊るした無數の瓢に、各二三羽の雀が巣くひて人馴れたる狀、頗る可憐である、久邇宮殿下から御愛瓢を賜つたといふ光榮を有してゐる。

瑞光寺——停留所の東五丁にある、元政庵ともいふ、明暦元年（凡そ二百七十年前）元政上人の中興で、本堂の本尊釋迦佛の像は長二尺胎中に五臓六腑を彫刻されてゐるといふ精致を盡したもので、右壇に中興の像を安んじてゐる。

寶塔寺——瑞光寺の北にある、日蓮宗、鶴林院と號ふ、境内に日蓮及び日朗、日像の遺骨を分廟したといふ、題目の寶塔があるので寺の名が起きた、本堂に釋迦、多寶の二尊と日蓮の像を安置してゐる、四脚門多寶塔等と寺の後、七面山に七面社、七面瀧等がある、七面山の地は古歌に「深草霞の谷」と詠まれた所で頗る幽邃の境である。

石峰寺——寶塔寺の北にある、黄檗宗、百丈山と號ふ、千呆和尚の開基、本尊釋迦佛を安置してゐる、表門及び山に登る所にある北門は共に漢門に模したもので頗る奇巧である、後山に石造の釋迦、十六羅漢、五百大弟の像がある、鶏を畫くに妙を得たといふ有名な伊藤若冲が圖案になつたものといひ、山下に若冲の墓及同筆塚がある。寺から稲荷神社へは北二丁程である。

▼稲　荷　（天滿橋より二十七哩、到着時間約一時八分）

稲荷神社——停留所の東、稲荷山の麓にある、官幣大社、倉稲魂神、素盞嗚尊、大市比賣神、大巳貴命、と外四大神を祀る、嵯峨天皇弘仁七年（凡そ千百十年前）僧空海の請ひを以て三が峰から今の地に遷座したのである、本社は天正十七年（凡そ三百卅年前）豊臣秀吉の新營、大鳥居、樓門、拜殿、權殿、寶庫、神輿庫、神樂殿、繪馬殿、御倉上殿等と後の山や谷に無數の小祠がある、その小祠を巡拜するのを俗に「お山廻り」といふ、

稲荷山やしろの數の人問はゞ　つれなき人を三つと答へよ　平定文

山頂は展望よく伏見、桃山はもとより、淀、八幡の一帶から攝播の雲峰かすかに眼に入る絶景の所だ。

「稲荷の社を伏し拜みつゝ、北八「ナントそこらで「ッぷくやらうぢやねへか。」彌次「オヤ甘酒があるの婆さん「ッはいくんな」婆「ハイ〳〵温うしてあゆよわいな」北八「コウ彌次さん、こゝの婆さんが、お前に氣があると見にて、アレ此方ばかり見て、をかしな目附をすらア」彌次「馬鹿いへ、婆さんどうた、早くくんな」、婆「一寸待つておくれんかいな、私アお前の顏を見て悲しうてならんわいな、ワアイ〳〵」北八「こいつはをかしい、婆さん何が悲しい」婆「私は此間一人の息子を失うたが、其子があの方に似たといへ〳〵」彌次「ハアわしに似てゐるこかへ、それぢやお前の息子もいゝ男振であつたらう、惜しい事をした、」婆「ソレ、そのどうまん聲のものいひから、お前のやうに荒いみつちやがあつて、色が黑うて、鼻は獅子鼻さやらで、目のいつかい所までが、其まゝぢやわいな、」彌次「それぢや、わつちが顏の惡い所ばかりがよく似たの、」北八「わるい所ばかりも氣が強い、いゝ所は一つもねへものを、」婆「それ許りぢやないわいの、アノ片小鬢の禿さんした所までか、あないにも似るものかいな。」彌次「人の顏の店おろしが濟んだら、その甘酒を早くくんな。」（膝栗毛）

▲東福寺（天滿橋より二十七哩九分、到着時間約一時十二分）

藤天道　春住

東福寺

通天橋

泉涌寺

東福寺――停留所近くにある、禪宗五山の一、聖一國師の開基、惠日山と號ふ、鴻基を奈良の東大寺に亞ぎ、成業を興福寺に倣ふて東福寺と名稱け、建長年間(凡そ六百七十年前)に創建した、殿堂壯嚴なるものは惜むべし、明治十四年に火を失し灰燼と化して今に其遺址が存してゐる、假本堂に釋迦佛、脇士伽葉、阿難、四天王、左壇に大梵天、文殊、大日等、右壇に達磨、臨濟、開山等の諸像を安置してゐる、境域五萬九千坪に餘る廣大な巨刹で、轉輪藏、開山堂等と有名な通天橋が溪間に架してある、四邊楓樹殊に多く橋上の廊の奇巧な構造と相俟ちて繪の樣な趣をなしてゐる、「秋のながめは通天の、木の間〳〵を數しまの、道も紅葉にうづもれて暮を忘るゝ人心」と唄はれてゐる、通天橋の下流に臥雲橋がある、域内に勅使門、山門、思遠池、古鐘樓、十三層石塔、月下門、普門院、萬壽寺、仲恭天皇の陵、皇嘉門院陵、藤原道家及同俊成と兆殿司の墓等がある、其他寺寶に數多の有名な古書名畫を藏してゐる。

泉涌寺――東福寺の東、東山の南端月輪山の山腹にある、弘法大師が開基した眞言宗の寺で法輪寺といつたが暫々變遷して建保六年(凡そ七百年前)俊芿國師が再興してから眞言、天臺、禪、律の四宗兼學の道場となり、清泉湧出のことがあつて今の名に改めたもので、今の堂は寛文八年(凡そ二百五十年前)徳川家綱の再興である、本殿に阿彌陀、彌勒、釋迦の三佛と左壇に梵天王、帝釋天、外二像及び右壇に開山、靈芝南山の三僧の像を安置してゐる、舍利殿に「是は遙かの田舍より上りたる僧にて候、當寺の御事を承はり及び遙々參りて候、大唐より渡りたる十六羅漢、又佛舍利をも拜み申したく候」と謠曲にある、佛舍利を安してゐる、其他歷代の天皇及皇后妃の尊牌を收むる靈明殿、及歷代の天皇の御持佛と開山の像を安置せる海會堂、揚貴妃追福の爲めに其容貌を模し彫刻した聖觀音(宋より渡來のもの)を安してゐる觀音堂がある、泉涌水は佛殿の西南屋下を流るるもので寺號はそれによつて起るといふ、後の山に孝明天皇、及英照皇太后の陵がある、幽靜閑雅、別天地の境である。

今熊野觀音

今熊野觀音――泉涌寺の北にある、眞言宗、觀音寺と號ふ、地は左大臣山本緒嗣の邸址で、本尊に弘法大師作の十一面觀音を安置してゐる、西國第十五番の靈場だ、

詠歌

むかしよりたつともしらぬ今熊野、佛の誓ひあらたなりけり。

寺傳によると弘法大師が東寺に在住のとき、東方に紫雲のたなびくを認め此地に來り給ふとき、老翁現れ我れは熊野權現の化身也、此山は觀音有緣の地なりとて一寸八分の十一面觀音の像を授け消え失せ給ふ、

大師深く喜び一尺八寸の尊像を刻み、感得の小像を其胎内に納めるといふ緣起がある、昔は伽藍巍々たるものであつたが應仁の兵火に罹り今は泉涌寺に屬してゐる。次の▼七條▼五條▼四條各停留所は卷頭京都の見物の項參照。

▼三　條（天滿橋より二十九哩九分、到着時間一約一時廿分、急行一時十分）

停留所前に大津市札ノ辻に通ずる京津電車の起點がある。京都の名所舊蹟は京都の見物の項參照。

▼淀の川瀨のなア、景色をこゝに引いて登るや三十石舟、清き流れを汲む水車めぐる誠はみなゝ馴棹、差いた盃押へてすけりや、醉ふて伏見のくだまき綱よ、斯うしたゞこころが千兩松よい〳〵〳〵よい〳〵。（淀の川瀨）

大軌電車

大軌電車とは大阪上本町（市電上本町六丁目前）を起點として東に走り、瓢箪山から生駒山の裾を北に、西麓鷲尾より一萬千百呎の大隧道を抜けて東麓生駒停留所に出で、西大寺に至つて畝傍線を岐け、本線は奈良市に通じて留まる十九哩一分と、支線は西大寺から南に郡山を經て平端に至り、丹波市に至る二哩六分及び新法隆寺に通ずる二哩七分の一支線に連絡し、更に南して田原本、八木を經て橿原神宮前に留まる（大阪から直通電車がある）十四哩五分とをいふのである、大阪方面から電車で橿原神宮參拜や奈良方面に遊ぶ人は此線に依れはよいのだ。

大阪――――奈良
西大寺――――畝傍
丹波市―平端―法隆寺

▼上本町六丁目（起點）

大阪の名所及び交通は卷頭大阪の見物の項參照。次の▼鶴橋▼今里省略。

▼足　代【深江】（上本町より二哩四分、到着時間約八分）

法明寺――停車所の北五丁深江にある、融通念佛宗、平野大念佛の開基法明上人が住んでゐた處で寺の名

長榮寺
鴨高田神社
若江城址
藥師寺

がある、境内の雁塚は、昔多田滿仲の弟が白雁を射落とすと其翼下に、同じ樣な白雁の首を抱いてゐたので、奇意に思ひ、茲に篤く葬つた所といひ、相思の男女が密かに詣ると願が叶ふといふが、それもかりのことだから情ない。又深江の地は萬葉集にも「おしてるや難波菅笠よきふるし」と詠まれてゐる舊地で、伊勢參りの落語の文句にも「笠を買ふなら深江が名所」などゝある通り昔は菅笠を名產としてゐた所だ。停留所の北一丁長堂に醃物一切のまじなひをする家がある。

▼小坂（上本町より三哩五分、到着時間約十一分）

長榮寺――停車所の西南七丁高井田村にある、聖德太子の開基、百濟山と號ふ、庭の牡丹が知られてゐる、その南に鴨高田神社がある、延喜式の古社で、俗に長榮寺八幡といふ。

▼若江（上本町より五哩一分、到着時間約十四分）

若江城址――停車所の南七丁若江南の小學校のある處がそれだ、足利時代に畠山氏が河内守護代をこゝに置いて築城せしめ、後三好長慶の子筑前守義長の居城となり其威を張つた處だ。其西方尼寺の藥師寺に銀杏の樹があつて乳貰ひの祈願で詣る人が多い。

鏡神社
蓮城寺
木村重成の墓

鏡神社――停車所の南九丁字若江南にある、延喜式の鄕社、大雷火明神と神功皇后を祀る、境内に神功皇后が鏡を埋められたといふ鏡塚や雷神石等がある、又境内の森を雷の森といつてゐる、社の北に蓮城寺がある、日蓮宗の尼寺で、妙見宮を祀る。

木村重成の墓――鏡神社の東南五丁程の所にある、附近の地は、元和の役（凡そ三百十年前）の古戰場で、大阪方の花と讃へられた木村長門守重成の戰死せし所、墓を俗に無念塚といひ、正保四年（凡そ二百八十年前）の建設、三間四方に石柵を繞らし、三段に石を重ね、その上に墓石が建てゝある、路一つ隔てゝ重成に討たれた山口重信の墓がある、琵琶歌から重成の討死の狀を抄錄する、

「五月五日夕まぐれ、若江口にぞ向ひける、もとより必死の重成は、いたゞく兜に空薰の、伽羅の香ひをたき込めつ、忍びの緒をも斷ち切りて、一世の譽のこさんと、明る六日の戰に、武勇を顯し給ひしが戰ひ酣なりける時、德川方の旗頭、井伊直孝に攻め立てられ、忠勇無双の重成も、防ぎかねてぞ見ゑけれは、士卒等馬前に立塞がり、ひらき給へと諫むれど、重成聞かず馳進む、火花を散らす激戰に、士卒離れて唯一騎、血汐したゝる槍の柄を、擬りかためつ右左、當る敵をは突き除けつ、暫駒をぞいこは

せける、かゝる所へ井伊の老將、庵原助右衛門と名乗かけ、槍を振つて馳くれは、よき敵こそ御參なれ我は大阪方にかくれなき、木村長門守重成そ、互に槍を合せたり、木村が運や盡きにけむ、庵原の槍を受損じ、馬上溜らず眞内向に、ドウと許りに落ちけれは、庵原が若黨ども、折重なりて重成が、首をこそは上げたりけれ、」（琵琶歌）

重成の討死に先んじて自刄した、重成の妻から夫へ宛た遺言の書簡を左に記す、

「一樹の陰、一河の流、これ他生の緣と承はり候にこそ。そもをゝせの頃よりして、偖老の枕をなして、只影の形に添ふがごとく思ひまゐらせ、おもはれまゐらせ候。　此頃承はり候へは、此世限りの御催しのよし、かげながら嬉しく存しまゐらせ候。唐の項王とやらむは、世に猛き武士なれども、虞氏の爲めに名殘を惜み、木曾義仲は松殿の局に別れを歎くとやら。されは世に望み窮みたる妾が身にて、せめて御身御存生の中に最後を致し、死出の道とやらむにて待奉り上候。必ず〳〵秀賴公多年海山の御鴻恩、御忘却なき樣、願上まゐらせ候。あら〳〵めで度かしこ」次の▼花園省略。

▼瓢箪山（上本町より六哩九分、到着時間約十八分）

瓢箪山稲荷

往生院六萬寺

鳴川千光寺

瓢箪山稲荷——停車所の東南近く、瓢に似たる小丘の半腹にある、瓢箪山の辻占といつて世に著はれてゐるお稲荷樣だ、社祠はもと小さな洞窟にあつて、老翁が辻占を判じてゐたに過ぎなかつたが、維新後今の社殿が造營せられたのである、講社二千有餘といふからして、大したものだ、又毎年の初午には遠近から數萬の參詣者がある、辻占を望む者は、社務所で鬮を引き、社側の心得書に依つて、社の西の辻に立ち通行人の風體、伴れ人、所持品、言語の有無等を見究め、社務所に引返して判定を乞ふのである。

往生院六萬寺——停留所の東南十八丁、上六萬寺にある、淨土宗、行基の開基、本尊阿彌陀佛は良辨の作で、外に厄除の觀音といふ聖德太子作の十一面觀世音を安置してゐる、寺域に楠正成及正行の墓がある、太平記に「師直師泰は、淀八幡に越年して、猶諸國の勢を待調て、河内へ向ふべしと議しけるが、楠已に逆寄にせん爲に、吉野へ參つて暇申し、今日河内の往生院に着きぬと聞にけれは、師泰先正月二日淀を立つて、二萬餘騎和泉境浦に陣を取る。師直も翌日三日の朝、八幡を立つて、六萬騎四條に着く、」である處、即ち正行が苦戰した四條畷は此山下一帶の地であるのだ。

鳴川千光寺——上六萬寺から約一里鳴川にある、路は鳴川越といつて、大和へ通ずる間道で、近時河内ア

ルプスと名附けた者がある峻路だ、寺は役行者が大峰山を開く前に行場として、卅七歳まで顯密の行法を修してゐた所で一に「元山上」といふ、行者が般若窟で修法してゐると巖間から千手觀音が光明赫々として出現された、行者大いに歡喜し、その尊像を刻して安置せられたといふ、境域に行者堂、大師堂、藏の坊等の堂宇がある。千光寺の東南卅丁横原に金勝寺がある、詳しくは關西本線王寺驛參照。

金勝寺

玉祖神社

玉祖神社——停留所東南一里神立の東十三峠の登口にある、鄕社、玉造氏の祖神を祀る、社側に梅樹が多く「高安の梅林」といつてゐる、花は紅梅が重で花期は遲い。

夜もすがら生駒おろしに月冴ててころも打つなり高安の里。　〔新撰六帖〕

又神立の地は在原業平河内通ひの舊蹟で、謠曲にも「河内國高安の里に、知る人ありて二道に、忍びて通ひ給ひしに」とある、社の裏山には業平が戀女を誘ひ出すべく合圖の笛を吹ひたといふ「笛吹の松」、又戀女が業平の後を追ふたといふ「夫追越峠」及び無情を怨んで憤死したと傳ふ「戀ケ淵」といふ池がある、失戀悲慘のローマンスから今でも東に窓を開けると娘の緣談が不調に終るといつて此里の家には東窓を開けないといふ奇習が殘つてゐる。

十三峠

水呑地藏尊

枚岡神社

枚岡梅林

川柳に　手盛の飯で河内女はあきられる

まめ男衣冠正しく不埒なし。

十三峠——神立から頂上へ十八丁の峻路だ、半腹に水呑地藏尊がある、石の地藏さんで、脚氣病に靈驗顯たかであるといつて、一升瓶等の大きな容器を持つて、遠近から絶へず參詣者がある、一升瓶は巖の間から湧出した、俗にいふお香水を入れるのだ、一度詣るより地藏詣る方が御利益が多いとのことである眺望展けて非常によい、頂上に、十三塚がある、五十鈴姫命の御陵だともいふが詳でない。

（上本町より七哩七分、到着時間約二十一分）

▼枚岡

枚岡神社——停車所の前にある、官幣大社、神武天皇三年（凡そ二千五百八十年前）天種子命の創建、天兒屋根命以下四座の神を祀る、古から河内の一の宮といはれ、又奈良の春日神社の元宮なるより「元春日の」稱もある、社地の山は神津嶽といつて、祭神臨降の靈峰といふ、大祭は二月十日、毎年一月十五日に神前にて小豆粥を焚き、葛羅で束ねた、女竹を釜中に投じ、其竹管に入る小豆粥の模樣で、其年の豐凶を占なふ異つた神事がある、社域高燥、樹木繁茂、神邃な所である、**枚岡梅林**は社前を右に進む、枚岡山

の中腹を拓いた遊園地にある、萩等も多く、花の頃は中々美觀を呈する、遊園地の北二丁豐浦に子安地藏尊がある、祈願すると安產するといふので婦人の參詣者が多い。

暗峠——子安地藏堂から東、生駒山を越へて奈良へ入る街道である、昔は樹木鬱蒼として晝尙暗かつたので、暗峠といふに至つたといふ、地藏堂から十五六丁、暗峠の頂上の手前を左に、數丁進むと慈光寺がある、眞言宗、役行者の開基、行者自作の像を安置してゐる、昔は中々立派な伽藍であつたといふが天正二年（凡そ三百五十年前）織田の兵火に燒けて、今は衰頽してゐる。

菊の香にくらがりのぼる節句かな　芭蕉

▼額田（上本町より八哩一分、到着時間約二十三分）

玄清寺——停留所西三丁にある、淨土宗、東向厄除觀音を安置してゐる。玄清寺の南一丁に眞言宗の尼寺額田寺がある。長尾の瀧は停留所の東二十丁の山中にある、瀧は上下の二つに分れ、雄瀧は高さ二丈餘、雌瀧は岩面に傳ひて落下してゐる、不動尊の石像や數多の龍王の名を刻した碑が立列んで沐浴の設備も出來てゐる、瀧から上に山路を七八丁も辿ると鬼取山八大龍王に出れらる、詳しくは次の石切參照。

暗峠
慈光寺
玄清寺
額田寺
長尾の瀧

枚岡神社　春佳畫

光堂千手寺
石切劍箭神社
石切神社上宮址
興法寺

▼石切（上本町より八哩六分、到着時間約二十五分）

光堂千手寺――停留所の西一丁神並にある、眞言宗、昔弘法大師が高野山へ登らる途路、此地に一夜を宿された、其夜林中から赫々たる光が指した、探ると千手觀音が出現されてゐたので、大師恐れ敬ひ、直に尊像を刻んで一堂を建立したのが、此寺の創まりで、光堂の名もそれに依るといふ、又在原業平の舊蹟といつて業平を祀る一堂、及び門外に大津の義仲寺の芭蕉の句碑に倣ふてか「業平と脊中合せの溫かさ」の碑石がある。

石切劍箭神社――千手寺の西四丁にある、延喜式内の古社、地は昔神武天皇、長髓彦と戰ひ利あらずして軍を返させられて、此處に諸神を祭り、我長髓彦を征し得るなれば此石拔くべしと宣ひ、傍の巨石を蹴上給ふと、巨石忽ち拔けて飛揚したと傳へられてゐる靈蹟、祭神は醜物一切を司どらるゝ神として、靈驗顯著、雨の日でも祈願を籠むる者が絶えないといふ素晴しい流行さた、停留所の東二丁に石切神社上宮々址がある、其崖下に瀧があつて、打たれる設備も出來てゐる。

興法寺――停留所から東、辻子谷を經て山路十七丁、生駒山の中腹にある、鷲尾山と號ふ、役小角の開基、行基作檀木の千手千眼の觀音を觀音堂に安置してゐる、又觀喜天堂の本尊は、弘法大師が此山で苦行を遂げ、九頭龍權現から授かつた靈像だ、古から四海の信仰篤く、德川家康より毎年五十石の供養あり、秀忠のときには大阪城代交代ごとに參拜せしめたといふ靈刹である。

八大龍王
日下遊園
日下溫泉
生駒大隧道

八大龍王――興法寺の東五丁程の峻坂を攀づると生駒山辻子越の頂上、更に南、鳥居を迎つて三丁程も登ると至る、昔八神の龍王が臨降せられた所、數多い太きな黑い巖に太い注連がかゝつてゐる、傍に臨降の神碑や、御池といふ小さな池等がある、老杉繁茂して頗る神寂な所だ、附近は生駒山の一峰で鬼取山といひ、役小角が二鬼を呪縛した處ださうな、途次三の鳥居の邊り、四顧目を遮るものなく、その壯大な展望は筆舌のよく盡す所でない、辻子越から寶山寺迄は下り路十六丁である。

いもかりと馬に鞍置いて射駒山、打こゑ來れば紅葉ちりつゝ。　萬葉集

▼鷲尾（上本町より九哩一分、到着時間約二十七分）

日下遊園――停留所の前がそれだ、毎年夏になるとこゝで盆踊等の餘興が催されて涼客を迎へる、地域高燥見晴らしがよく、園域に日下溫泉がある、又生駒山の下を貫通した生駒大隧道は延長一萬千百呎、通過に約

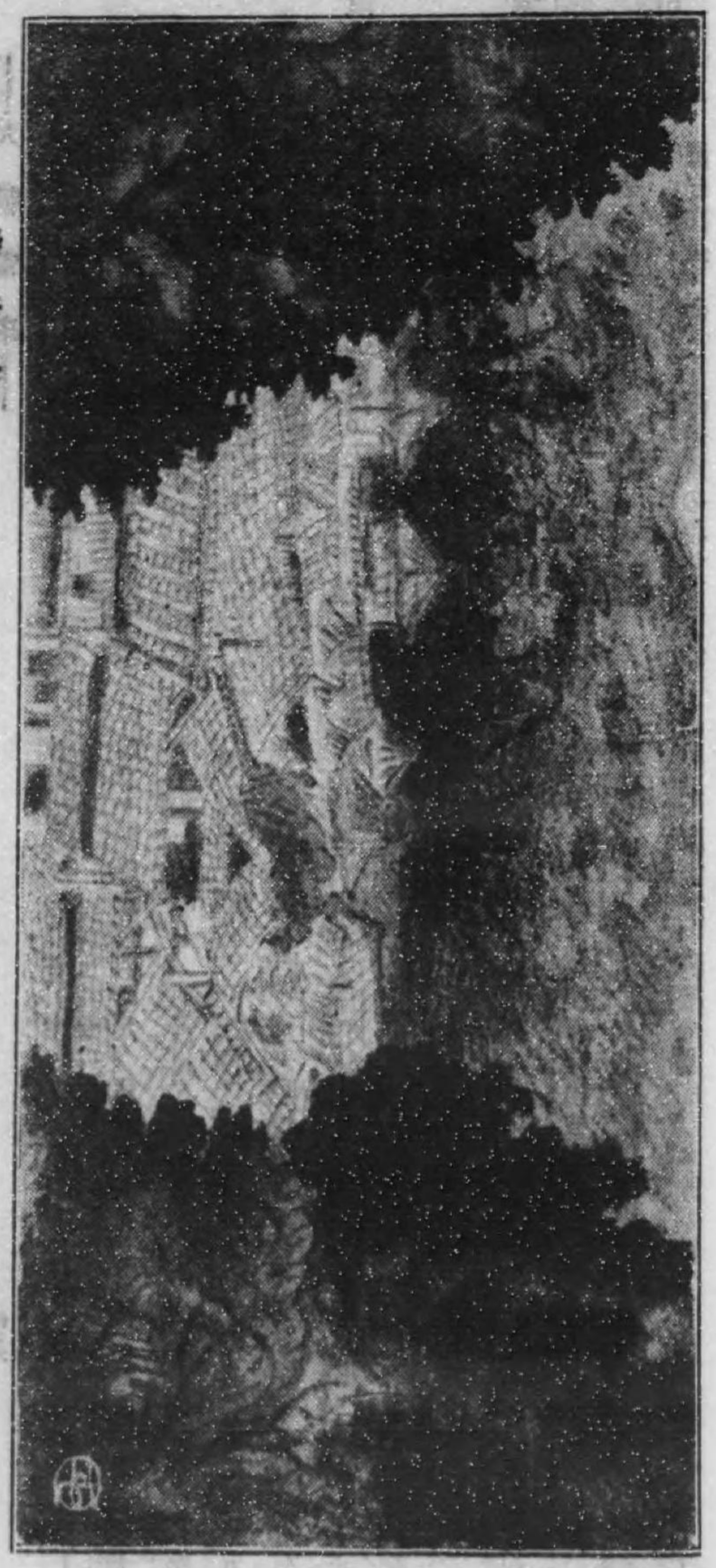
六分間を要する、省線笹子隧道一萬五千二百餘呎に亞ぐものといはれ、明治四十四年七月兩口より起工し大正三年一月に竣成、其工費三百萬圓といふ大工事で、三伏の暑さにでも電車が此中に入ると内部の冷氣で何んともいへぬよい心持になる。

大龍寺——停留所の西北數丁（石切神社の東北十餘丁）日下にある、黄檗宗、瑞雲山と號ふ、本尊釋迦佛を安置してゐる、境内に禪佛堂、開山堂等がある、昔は巖松寺といつてゐたさうだが、貞享三年（凡そ二百四十年前）の旱魃の時、此寺の奏宗禪師が里人の願を容れて、雨を祈ると、忽ち黑雲が漲つて、强雨沛然と降つた、其時雲間に大龍の姿が現れたので、今の名に改號したといふ。

▼生駒（上本町より十一哩四分、到着時間約三十三分）

生駒町——聖天さんの御蔭を蒙つて出來た町で、檢番や旅館飲食店等軒を列べ、近來劇場迄が落成したといふ發展振で、お山で福德を貰ふなどといつて、あべこべに此町へ捨てに來るさんだ信者が殖にたさうな

生駒寶山寺——停留所の西南山路十八丁（生駒ケーブルカー及び登山自動車の便ある）生駒山の東山腹にある、役行者修法の靈地、寺は延寶六年（凡そ二百四十年前）寶山和尚の創建、聖天堂に本尊觀喜天の像を



安置してゐる、「生駒の聖大」といつて世の信仰篤く、信貴山の毘沙門天と共に福德の御並で名聲を博してゐる、堂は元祿年間（凡そ二百卅年前）の再建で、壯麗なるものだ、其他不動堂、鐘楼、庫裡、茶所等廿近い堂宇が建ち連つてゐる、行者が修法した地は聖大堂の上、般若窟といふ數十丈の巖屋で、彌勒佛の座像がある、奥の院は左に約一丁（右にとつても至る）、開祖堂、不動堂、大黒堂の堂宇がある、寺に毎年五月一日から十五日間大般若會式が執行される、又毎月一日、十六日の兩日を御命日と稱へ賽する者幾萬を數ふるといふ盛況さた。寺の崖下に生駒温泉がある、寶山寺の山門を出て路を北にとり、小徑を辿ること五六丁に瀧寺がある、寶山寺に屬した寺院で、正觀音を安置してゐる、石段を下つて左に苔の細道を下ると古來生駒の大瀧といはれた「清水の瀧」がある、頗る幽寂の境で、瀧の右上に不動明王を安じてゐる。

檀の木大師——停留所の東南約一里半、檀木にある、檀の木山賢聖院と號ひ、本尊の弘法大師を俗に「檀の木大師」と稱へ靈驗著しさて毎月十四日廿一日の緣日及び春秋の彼岸會には參詣する人が多い。

▼富　雄（上本町より十三哩六分、到着時間約三十八分）

直弓山長弓寺——停留所の北廿五丁字上にある。眞言宗、行基の開基、本尊聖觀音、四天王を安置してゐる、太堂は弘安二年（凡そ六百四十年前）の再建で、特別保護建造物だ、其他釋迦堂、鐘楼及び坊舍等と東方數丁に眞弓長弓の塚がある、寺は神龜五年（凡そ千百九十年前）聖武天皇御遊獵の砌、眞弓長弓なる者が非命に死するを憐み給ひ行基に命じて一寺を建立せられたものであるといふ。隣地に伊弉冊神社がある。

金鶏發祥の靈地——長弓寺の北十丁北、俵村字山田、俗にトビ山と稱へてゐる所をいふ。昔神武天皇浪速より大和に入らんとし給ひ、軍を膽駒山に向はせらるゝとき、登美の長髓彦なる者、天神の子饒速日命を奉じて、孔舍衛坂（中河内郡）に皇軍を迎へて防いた、皇軍爲めに利あらず天皇日に向つて賊を討つの不可なるを思召し、師を返して、更に紀州熊野より道臣命及び八咫烏を嚮導に軍を進ませ、途に兄猾、八十梟師の賊魁を滅ぼし、やがて長髓彦に逼り給ふ時、一天俄に掻き曇り降雨頻にして戰ひすることが出來なかつた、其時金色の鶏が飛び來つて天皇の弓弭に止り、皇軍爲めに振ひ、賊軍迷眩して力戰することが能はず、賊魁遂に誅に服し、饒速日命及び其衆は皆歸順した、地はその金鶏が發祥した所といはれてゐる。山田の北十四丁字前田に法樂寺がある、東大寺の別院、天平十八年（凡そ千百八十年前）創建、行基の開基、本尊は藥師如來で、境内に藥師杉、影向松等がある。

王龍寺
添御縣座神社
靈山寺
畝傍線
西大寺

王龍寺――停留所の西北二十丁にある、聖武天皇の御字に創建した禪宗の寺で、堂内に本尊十一面觀音の立像と不動明王を彫した、建武丙子三年（凡そ五百九十年前）の銘、高さ一丈五尺餘の巨石がある、昔は瀧千軒といはれ、數多の堂宇が建て連つてゐたといふ、今は大いに衰頽して其頃の佛は偲はれない、寺域三千餘坪、老樹繁茂、岩石峭立して幽寂な所だ、又附近の地は時鳥の名所である。

添御縣座神社――停留所の南五丁追山にある、素盞嗚尊を祀る、社殿は特別保護建造物に成つてゐる。當地の產土神だ。社の南十四丁字中に靈山寺がある、眞言宗、鼻高山と號ふ、天平勝寶元年（凡そ千百七十年前）行基、及び婆羅門僧正の開基、本尊藥師佛は行基の作であるといふ、寶庫、鐘樓、開山堂等と弘安六年（凡そ六百四十年前）に建立した保護建造物の三重塔がある。

▼西大寺（上本町より十六哩四分、到着時間約四十三分）

此停留所から郡山、畝傍及び丹波市方面に至る畝傍線が岐れてゐる。

西大寺――停留所の西南近くにある、眞言律宗の大本山、天平勝寶年間（凡そ千百七十年前）僧常騰の開基南都七大寺の一である、往昔は精舍四十餘、堂宇三百を數へた大伽藍であつたといふが、全部燒失して今の堂は鎌倉時代以後のものである、金堂、愛染堂、觀音堂等と坊舍が建て連つてゐる、觀音堂の四天王の像は孝謙大皇親ら熱銅を攪り鑄させられ給ふたもの、といふ、其外寺寶に弘法大師筆十二天王畫像、十六羅漢屏風、金銅舍利塔等、好古學者をして激賞せしめてゐる立派な物を多く藏してゐる、

さりともと西の大寺たのむかな、そなたの願ともしかりしを　段富門大輔

秋篠寺
天極殿址

秋篠寺――停留所の北九丁秋篠にある、淨土宗、光仁天皇の勅願によつて、寶龜十一年（凡そ千百四十年前）善珠僧正の開基、古の建物は保延元年（凡そ七百九十年前）に燒失し、今のは其後再建したものである、香水閣は、昔山城の常曉阿闍梨が此寺に參籠してゐるとき、井中に大元帥明王の影を認め、堂を建立したものといふ、

秋篠の外山の里やしぐるらん、生駒の嶽に雲のかゝれる。　西行

寺の東七丁に神功皇后の陵及び其附近に成務、孝謙兩帝の陵と人形を殉死者に代へた垂仁皇后の陵等が散在してゐる。

大極殿址――停留所の東方十二丁田圃の中にある、垣を繞らして區域した高さ五尺程の臺地で、近年發見

法華寺
海龍王寺
不退寺

されたものだ、附近は奈良平城京のあつた舊蹟で、此處から南に朱雀大路が通じ、道を境に左京、右京の二京に分れ、各東西に一坊から四坊迄、南北は北一條から九條迄の通路が碁盤目に通じてゐたのだ、都跡村、公家茶屋、京終等の名が證據立てゝゐる。

法華寺——大極殿址の東四丁字法華寺にある、古義眞言宗、光明皇后の勅願、藤原淡海の舊邸といふ、聖武天皇東大寺を總國分寺となし女人不入となされしにより、此處に總國分尼寺を建て男子不入の地となし代々貴族の尼僧を以て住持せられた由緒ある寺だ、本尊十一面觀音を安置してゐる、今の堂は豐臣秀頼が再建したものである。

海龍王寺——法華寺の東北近くにある、眞言律宗、天平三年（凡そ千百九十年前）光明皇后の建立、地は法華寺と同樣藤原不比等の邸趾といふ、境内の西金堂は創建當初のもので特別保護建造物だ、堂内にある一丈五尺の五重塔は西大寺の塔の模型で、當代の建築樣式を伺ふ絶好の參考資料として珍重せられてゐる。

不退寺——海龍王寺の東五丁字不退寺にある、平城天皇の宮址であつたのを、在原業平が請ふて、大同年間（凡そ千百廿年前）寺にしたもので、又の名を在原寺ともいはれてゐる、本尊の聖觀音も業平の作であるといふ、

形はかりその名殘さて在原の、むかしの跡を見るもなつかし。　爲　峯

興福院
關西本線
菅原神社

興福院——不退寺の東九丁（次の油坂停留所の北九丁）字法蓮にある、淨土宗の尼寺で一に弘文院ともいひ聖武天皇の御學問所であつたのを、和氣清麿に賜ひ亦同氏が學問所になしたる遺構といふ。

▼**油坂【奈良驛前】**（上本町より十八哩七分、到着時間約四十九分）

停留所の南二丁に關西本線の奈良驛がある、同線に乘次ぐ人は此所で下車せねばならぬ。

▼**奈　良**（上本町より十九哩一分、到着時間約五十分）

奈良市の名所舊蹟は關西本線奈良驛の項に詳しく說いて置いたから其部參照。

——以　下　歌　傍　線——

▼**西　大　寺**（上本町より十六哩四分、到着時間約四十三分）

本線西大寺の項參照。菅原神社南九丁、詳しくは次の尼ケ辻參照。

▼**尼　ケ　辻**（西大寺より九分、到着時間約三分）

菅原神社

菅原寺

垂仁天皇陵

菅原神社——停留所の西北四丁菅原にある、此地は菅公祖先以來の領地で、昔は菅原伏見の里といつた所社は俗に菅原天神さいひ、天德日命、野見宿禰及び菅公の三神を祀る式内の古社である。

いさこゝに我世は經なん菅原や伏見の里のあれまくもなし。（古今集）

菅原寺——菅原神社の傍にある、本名を喜光寺といふ、今は金堂が一つ殘つてゐるに過ぎないが此堂は元正天皇靈龜元年（凡そ千二百年前）に創建されたもので、今は特別保護建造物になつてゐる、又天平感寶元年（凡そ千百七十年前）に行基が此寺で

法の月久しくもかなと思へども、小夜ふけにけり光かくしつ。　行　基

の歌を遺して入寂したといはれてゐるが南海線の久米田寺も入寂の所といつてゐる、どちらで死んだか此取組は行事（行基）に任ずことにする。

垂仁天皇陵——停留所西近くにある、南面、伏見東陵といふ、濠内に倍塚がある、垂仁帝に仕へた田道眞守を埋めてある所、彼は天皇の勅を奉じて、常世國へ行き香果を求めて歸つて見ると、帝は既に崩御なされた後であつたので、悲しみと失望の餘り遂に御跡を逐うた、後世菓子の祖神として崇められてゐる。

唐招提寺

藥師寺

唐招提寺——垂仁天皇陵の東南四丁字五條にある、天平勝寶八年（凡そ千百七十年前）唐僧鑑眞大和尚の開基、聖武、孝謙兩帝の勅願所、孝謙帝より宸筆の寺額を賜り、西大寺衰微の後は南都七大寺の一に加へられたこともある大伽藍で、我國最初の律宗の靈場である、創建當時我國には既に佛法が盛んに流布されてゐたが、未だ戒律の法が傳はらず、受戒を皆百濟國に求めてゐた、聖武天皇之れを嘆かせられ唐土より鑑眞を呼び寄せ、東大寺に戒壇を結んで天皇親ら登壇戒師とならせられた、これが我國受戒の濫觴である、寺は幾多の變遷で東西の兩塔は失つたが、金堂、講堂、三面僧房等創建當初の物が存してゐる、講堂は平安宮の朝集殿の遺構で、堂の多くは特別保護建造物になつてゐる、其他佛像寶器等貴重なる什寶が多い。

▼西の京（四大寺より一哩七分、到着時間約五分）

藥師寺——停留所の傍にある（唐招提寺の南三丁）、法相宗の大本山、一に西京寺ともいふ、元は高市郡白橿村にあつたのを、養老二年（凡そ千二百年前）に此處に移し、天武天皇の后皇病氣御平癒祈願の爲め藥師佛を作つて安置した所、南都七大寺の一に數へられた大伽藍であつたが中世廢頽して、創建當初の建物はたゞ東塔丈が存してゐるに過ぎない、金堂は延寶二年（凡そ二百五十年前）の再建で、本尊藥師三尊、左

右に日光、月光の二佛を安置してゐる、其製作の幽麗、色澤はまるで漆の様で、奈良朝の精緻を極めたるものと頷ける、世界無比の鑄造佛といふのも宜なるかなだ。次の▼**九條**省略。

（西大寺より三哩四分、到着時間約十分）

▼郡　山　（西大寺より三哩四分、到着時間約十分）

郡山町——柳澤氏の舊城下で町の北は古の平城京の南端に當る。**城址**は停留所の邊りがそれだ、

菜の花の中に城あり郡山。　其角

本丸址は停留所から西に緩かな坂を登ると出る、其處には舊藩主の祖吉保を祀る**柳澤神社**がある、社の右に柳澤伯頌德碑が建つてゐる、城は足利時代に小田切春次の築く處、天正年間には豐臣秀吉の弟秀長の居城となり、後城主が轉々して享保九年（凡そ二百年前）柳澤甲斐守吉里こゝに封ぜられ世襲して明治維新に至つたのである、櫻樹多く「郡山の夜櫻」といつて著はれてゐる、又近年城の西にも多くの櫻樹を植附け花の頃は一層美觀を呈する樣になつた。

源九郎稻荷——停留所の東南五丁洞泉寺遊廓の傍にある。昔義經の軍に隨つて功があつたさかいふので源九郎の名があるといふことだ、「大和の大和の源九郎さんお遊び」などと子供の戯れにも云ひ囃されてゐ

郡山城址の櫻

郡山町
城址
柳澤神社
源九郎稻荷

薬園八幡社　る有名なお稲荷さんたが社は御粗末なものた。その東北近く材木町に薬園八幡社がある、應神天皇、神功皇后を祀る、地は往昔薬園宮のあつた舊址で、社の名がある。こゝから關西本線郡山驛へは東北三丁程た次の▼筒井省略。

法隆寺支線　**天理支線**

▼平　端【額田部】（西大寺より六哩一分、到着時間約十六分）

此處から西に、安堵の一停車所を經て關西本線法隆寺に至ると、東に二階堂、前栽を經て櫻井線の丹波市（天理）に通ずる支線は即ち元の天理鐵道線で、法隆寺、丹波市の各名所は省線其部參照、中間の停車所は特記する程の舊蹟もないから之を省略する。

額田部の桃林　**筒井順慶の墓**

額田部の桃林——停留所附近一帶の臺地の桃林をいふ、天津、水蜜、離核等の良種で、其數五萬株といはれてゐる、廿年前迄は大したこともなかつたが、長安寺村の中津某が良種を奬勵してから斯く盛んに栽培するやうになつた、花時の美觀はいふまでもなく、その頃は桃池を中心に掛茶屋等が夥しく設けられて中々賑ふ。停留所の東北近く長安寺村に例の旗色の日和見で有名な**筒井順慶の墓**がある、順慶の祖は北の筒井村の豪族であつたさいふが詳でない。

糸井神社　**田原本町**　**淨照寺**　**津島神社**　**鏡作神社**　**櫻井線**

▼結　崎（西大寺より七哩七分、到着時間約廿分）

糸井神社——停留所の西九丁結崎字市場にある、春日の神を祀るといふ、結崎の地は能樂家觀世氏の祖先が領してゐた地である。次の▼石見省略。

▼田　原　本（西大寺より九哩九分、到着時間約廿五分）

田原本町——時川時代に旗本平野氏の陣屋があつた處といふ、町に、**淨照寺**、**津島神社**等の社寺がある、町の西北方都村字宮古の地は「すきゆかん三輪の山邊をしるしにて宮古の森の名をな忘れそ」と古歌に見にてゐる處で、孝靈天皇の皇居**廬戸ノ宮**址といふ。

鏡作神社——停留所の東北五丁八尾村にある、延喜式の古社で鏡作連の祖天照國照火明命を祀る。次の▼笠縫▼新口省略。

▼八　木（西大寺より十二哩九分、到着時間約三十五分）

停留所の東二丁に櫻井線の畝傍驛がある、名所舊蹟は同線參照。次の▼畝傍山省略。

▼橿原神宮前（西大寺より十四哩五分、到着時間約四十分）

附近の名所舊蹟は櫻井線畝傍驛の項參照。

箱根八里

箱根の山は　天下の險　函谷關も物ならず
萬丈の山　千仞の谷　前に聳ゆ後にさゝふ
雲は山をめぐり
霧は谷をとざす
晝猶闇き杉の並木　羊腸の小徑は苔滑か
一夫關に當るや萬夫も開くなし
天下に旅する剛毅の武士
大刀腰に足駄がけ、　八里の岩根踏み鳴す
斯くこそありしか往時の武士

箱根の山は　天下の蛆　蜀の棧道數ならず
萬丈の山　千仞の谷　前に聳ゆ後にさゝふ
雲は山をめぐり
霧は谷をとざす
晝猶闇き杉の並木　羊腸の小徑は苔滑か
一夫關に當るや萬夫も開くなし
山野に狩する剛毅の健兒
獵銃肩に草鞋がけ　八里の岩根踏み破る
斯くこそあるなれ當時の健兒

南海電車

大阪——和歌山市間

南海電車とは

本線　大阪難波——和歌山市間
△平野線　同惠美須町——平野間
△天王寺線　天下茶屋——關西本線天王寺驛間
▲高野線　大阪汐見橋——紀州橋本間
阪堺線　同惠美須町——堺大濱—濱寺間
上町線　同阿部野橋——住吉間
△高師濱線　羽衣——高師濱間

以上の諸線をいふのであるが、▲印の高野線は記述の都合上別に項を起して說くことにし、△印の平野線（平野の名所は關西本線平野參照）、天王寺線、高師濱線以上の三線は特記する程の名所舊蹟もないからこれを省略する。

其他の三線は住吉迄殆ど並行し、住吉から本線と阪堺線の二線並行して濱寺に至り、濱寺からは本線のみとなつて和歌山市に通じてゐる、乘車券も三線共通であるから案内は便宜上一括して本線により、名所舊蹟の下に阪堺、上町の二線停留所から至る町數を揭げ（○○○印は阪堺線停留所、●●●印は上町線停留

阪堺線
大濱支線
上町線

所)又二線の哩數と到着時間は本線と大差がないから之を省略した。左に二線の停車所を順序に掲げて置く

阪堺線——惠美須町(起點)。南霞町、今池(平野線の分岐點)、北天下茶屋、聖天坂、天神の森、宮の下、勝間、塚西、東粉濱、(住吉上町線の接續點)、住吉鳥居前(本線の接續點)、細井川、安立町、我孫子道、大和川、高須神社、綾の町、神明町、妙國寺前、花田口、大小路、宿院(堺大濱線の分岐點)、寺地町、小林寺町、石津、船尾、海道畑、濱寺驛前(終點)。惠美須町、濱寺間の到着時間約四十二分。**堺大濱支線**宿院、川尻龍神(本線の接續點)、水族館前、大濱公園、大濱海岸(終點)。惠美須町、大濱間の到着時間約卅六分。

上町線——天王寺驛前(起點)、常磐通、阿倍野(平野線の接續點)、中道、東天下茶屋、北畠、姫松、帝塚山、神の木、住吉(阪堺線の接續點)。住吉公園(終點、本線の接續點)、天王寺驛前、住吉間の到着時間約十五分。

▼難　波　(起　點)

大阪の名所——及び詳細は大阪の見物の項參照。次の▼今宮戎▼萩の茶屋省略。

▼天　下　茶　屋　(難波より二哩、到着時間約六分)

天下茶屋
聖天山
阿部王子神社

天下茶屋——附近の住吉街道にある、昔豐太閤が住吉神社參詣の途次の休憩所であつたといふので所の名があるといふ。**聖天山**は北天下茶屋停留所の東二丁(東天下茶屋の西北五丁)にある丘陵で、觀喜天を安置してゐる正圓寺があるので丘の名がある。

阿部王子神社——東天下茶屋停留所の東南二丁(聖天坂東九丁)にある、伊弉諾命以下四柱の神を祀る、境内に葛葉稲荷がある、安倍仲麿の末孫、安倍保名を祀るといふが詳でない、然し保名が此邊に住んでゐたことは事實たさうな、保名は安倍家の落魄を歎じて家を興す一子を和泉の葛葉稲荷に祈願せしに、滿願の夜、夢に白衣の神女が現れ「汝の信心に愛でゝ一子を授くべし、不日汝の家を訪ふ婦人を妻とせよ」と告げられた、或夕暮一人の美しき女が宿を乞ふたので保名は扨こそ御參なれと其女と二世の語らひをした卽ち其女は千歳を經た白狐で、擧げた一子は後に陰陽大博士安倍晴明と出世をしたといふ傳說がある。

川柳に　保名には九百歳の大年増。

阿部野神社

▼岸　の　里　(難波より二哩四分、到着時間約八分)

阿部野神社——宮の下停留所の東一丁(北畠の西四丁)の丘上にある、別格官幣社、吉野朝の忠臣北畠親

顯家卿の墓

房及其子顯家の兩卿を祀る、明治十五年の創建、社殿壯重、境内清淨、永へに英靈を鎭めるに相應しい、北畠停留所の東北五丁に顯家卿の墓といふがあるが、卿は足利の大軍と此地で戰ひ、泉州石津で陣歿せられたのであるから信じ難い。

先たちし心もよしやなか〳〵に、浮世のことをおもひ忘れて。　親房

『川部野街道に出で畑うつ男に、彌次「父さん、精が出やすの、モウ何時だへ。」男「アイきんのふの今時分ぢやそいな」彌次「おきやアきれ、お定まりの洒落をいふは、北八、煙草の火でも打つてくれ」北八「向ふに乞食が呑んでゐるから、吸ひ附けなせへ、然も女の乞食だ」彌次「ナニ汚たねへ」北八「トンダことをいふ、ドレ〳〵おいらアが借りてやらう、コレ火を一つ借さつし、ノウ彌次さん見なせへ、乞食にして置くは惜しい器量だ」彌次「ホンニ仇代物だ、コレ手めへ男があるか」女乞食「ハイ亭主には去年別れましたわいな」彌次「おれがいゝ所へ世話をしてやらう、此男はどうだ」女乞食「オホ、、、、あのお方のところへなら、わしや嫁きたいわいな、」北八「ドレ結納に一文やらうか、ハ、、、おれが乞食だと、手めへを女房にするものを殘念〳〵」女乞食「ハアお前さんは、アノわしらの仲間の衆ぢやないのかへ、わしは又そないぢやないかしゆんだなりをしてぢやさかい、仲間の衆かと思うたわいな」北八「エ、いめへましい事をいふ。」（滕栗毛）

帝塚山

▼玉出（難波より二哩七分、到着時間約九分）

帝塚山――塚西留停所の東南三丁（帝塚山の西三丁）にある小丘で、陸軍大演習のとき先帝陛下の御野立になつた丘である、丘の西に「我見ても、久しくなりぬ住吉の、岸の姫松幾世へぬらん。千代萬代の舞の袂、千代萬代の舞の袂、いよ〳〵巡る盃の、有明になる沖つ舟の、ほの〴〵聞くる住吉の、浦より遠の淡路島、あはれ果なき詠めかな。あはれ果なき詠めかな。」と謠曲にある岸の姫松があつたのだが今は枯死して其跡が存してゐるのみだ、次の▼粉濱省略。

住吉神社

▼住吉公園（難波より三哩七分、到着時間約十三分）

上町線の終點、及び阪堺線の接續點である。

住吉神社――停車所の東近くにある、官幣大社、底筒男、中筒男、表筒男、の三神と神功皇后の四座を祀る、初め神功皇后が武庫の莵原に勸請しられたのを仁德天皇が此地に遷し給ふたのである、社殿は本邦古

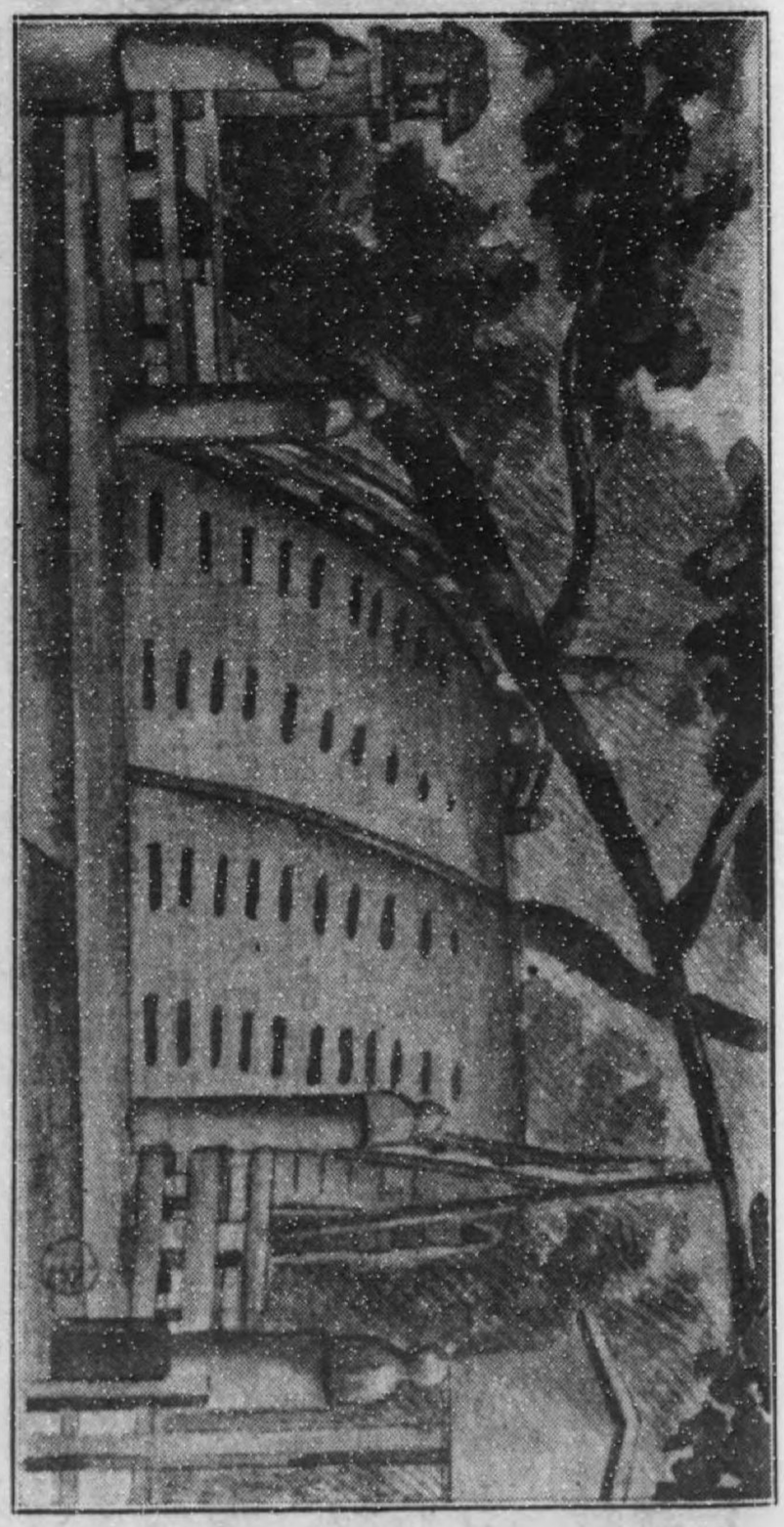
代建築中の第一期に屬するもので特別保護建造物である、境内に數多の攝社末社及無數の石燈籠が立ち並んでゐる、又社前の反橋は有名なものだ「堺住吉反橋わたる、奥の天神五大力、おもと社や、信心穴から大神宮さんを伏し拜み、誕生石には石を積む、赤前垂が出て招く」、等と境内の名蹟が俗謠に唄はれてゐる有名な住吉踊の歌は「神をいさめて高天原の、ヤアサヽ、四社の前なるアレ反橋、前は松原、ヤレ高燈籠ソレ住吉樣の岸の姫松めでたさよ」と唄ふのたさうな、神社の例祭は八月一日で、六月十四日の御田祭には大阪の遊廓の藝妓が田植女となつて供奉する、十月十七日の寶の市等、何れも參詣を兼ねて數多の人が見物に出掛るので雜沓を極める。

すみのにや花ともいはず松の春。　蕚太

住吉公園——停車場の西から公園になつてゐる、風致は既に定評のある所で、俗謠にも「わが戀は住吉は浦の松林」などとある松林に瀟洒な料亭、茶店等が散在してゐる、公園の西端に「住吉濱邊の高燈籠、あがつて沖を眺むれば」と唄はれてゐる有名な高燈籠がある。住吉神社の鳥居前から南、大和川邊迄が木がらしの吹しほる色と見るばかり名にあらはるゝ霰松原。　實　隆

住吉公園

高燈籠



と詠まれてゐる霞松原で、昔は一帯の松林であつたのを、僧安立が拓いて町にした、今は安立町といつてゐる、一丁目の東側に日本三老松の一といふ**難波屋の笠松**といふがある。次の▼**七道**省略。

難波屋の笠松

▼堺

（難波より六哩二分、到着時間約十九分）

堺市

堺市――和泉の北部、北は大和川、西は大阪灣に面した町で、應永年間（凡そ五百卅年前）山名氏清が此地に城を築き、泉府といつたのが堺市の濫觴である、四百年前より外國と取引を開始した、我國第一の開港場で、殷盛を極めてゐたが、秀吉が大阪に城を築き、堺の富豪を移住せしめた爲めや、文祿以降の鎖國で堺の繁昌は全く大阪の手に收められて仕舞つたが、近年交通機關の發達につれて商工業盛んとなり、再び繁昌を恢復するやうになつて來た、物産の重なるものは緞通、刄物、清酒、木綿、煉瓦等である、市中の名所舊蹟は便宜上阪堺線によつて記述する。

西本願寺別院

西本願寺別院――神明町停留所東二丁にある、信證院と號ふ、文明年間（凡そ四百五十年前）樫木道顯の居宅を割いて寺を建て、蓮如上人に寄進したもので、俗に樫木屋御堂といふ、本尊の阿彌陀佛は淮如上人の作である。寺の隣地に善長寺がある、淨土宗、永正年間（凡そ四百年前）三好義長此地に在陣のとき靈夢

西本願寺別院

善長寺

によつて松樹の下から感得したといふ、十一面觀音を安置してゐる。

金光寺

金光寺――宿屋町にある、本尊は仁明天皇の御宇（凡そ千九十年前）に茅渟の海から網にかゝつて揚つたといふ、藥師佛の靈像を安置してゐる。寺の東に寶珠院がある、本堂の後に、維新の際、佛國人を殺した罪で、切腹を命ぜられ、美事に屠腹して、檢使の佛國人を戦慄せしめた、土佐藩士十一人の墓がある。

寶珠院

妙國寺

妙國寺――妙國寺前停留所の東三丁材木町にある、日蓮宗、永祿五年（凡そ三百六十年前）日珙上人の開基三好寶休及び油屋常言の創建、秀吉や行長を檀家にもつてゐたといふ寺で、本堂、祖師堂、三重塔等と庭内に高さ三間、枝葉二十尺四方に擴がつた見事な蘇鐵がある、寶休の植たるものといひ、昔から妙國寺の名によつて著はれゐる有名なものたが今は料金を出さないと見せてくれない。

菅原神社

菅原神社――花田口停留所の東近くにある、鄕社、明應三年（凡そ二百六十年前）の創建、祭神は天穗日命、野見宿禰と日本七天神に數へられてゐる菅公自作の像を合祀してゐる、其外境内に神明町から遷した、神明社、及び辨天祠等がある、社の東二丁に東本願寺別院更に東方八丁に方違神社がある、詳しくは高野線堺東參照。

東本願寺別院

方違神社

開口神社
祥雲寺
少林寺

開口神社——宿院停留所の東北二丁甲斐町東一丁にある、住吉神社の別宮、一に三村明神ともいつてゐる、神功皇后時代の鎭座で、祭神は事勝食勝國長狹尊、生國魂神、素盞嗚尊を祀る、聖武帝の朝に、行基が念佛寺といふ寺院を此處に建立し一名「大寺」とも稱してゐたが、維新後取毀つて、今はその紀念の塔のみが存してゐる、南門の前に堺の名物として知られた、大寺餅を商ふ店がある、昔の大寺餅の唄に「大寺餅〳〵、左官の寢言で、コテホシ〳〵、鉦のナン餅、嬶めの燒餅、ドツコイ倒れて尻餅、うまい大寺餅云々」とある、附近の地は宿院といつて當市繁盛の中心地、住吉、大鳥兩神社の御旅所がある、七月卅一日の大鳥祭、八月一日の住吉祭には神輿の渡御で非常な雜沓を極める。

祥雲寺——開口神社の東南、大町東三丁にある、禪宗、龍谷山と號ふ、寛永五年（凡そ二百九十年前）澤庵和尚の開基、本尊聖觀音を安置してゐる、境内に大きな五葉の松があつたので、一名「松の寺」といはれてゐたが、今は枯れて仕舞つてない。

少林寺——寺地町停留所の東數丁にある、禪宗、桃源和尚の開基、昔は宏大な境域もあつて、市内屈指の巨刹であつたといふが、今は頽廢して、その跡を留めてゐるに過ぎない。

南宗寺
大安寺
臨江庵
乳守遊廓

南宗寺——少林寺停留所の東、南旅籠町にある、禪宗、龍興山と號ふ、弘治三年（凡そ三百六十年前）三好長慶、その父元長の追福の爲に創建せし所、後天正（凡そ三百五十年前）の兵火に罹り、今の堂は元和年間（凡そ三百十年前）中興の澤庵和尚の再建である、大雄寶殿に釋迦牟尼佛、達摩、毘沙門、摩利支天の諸像を安置してゐる、照堂、方丈、鐘樓、山門等何れも宏壯なもので、其外境内に牡丹花肖柏、一閑齋紹鷗、千利休、曾呂利新左衛門等の墓がある。

大安寺——南宗寺の東近くにある、禪宗、本尊聖觀音は聖德太子の作といふ、佛殿は堺の町人魚屋助左衛門が、生命知らずの浪人を百餘人ひき連れ、萬里の波濤を蹴つて呂宋に遠征し、其太守を降して珍器財寶を船に滿載して歸朝し、巨萬の富を盡した豪華の遺物である、彼は太閤の嚴刑に先んじて居宅を此寺に寄附し、家財を故舊に散じて「猿面冠者何にをか仕出かす」と尻を叩いて思ひ出多き故國を辭し、空拳風波と鬪つて遂に寨東埔に渡航したといはれてゐる怪傑だ。

臨江庵——南宗寺の西にある、境内に乳守明神を祀る、萩が多いので一名萩の寺ともいつて、その頃は杖をひく者が多い、庵の西、少林櫃の北詰一丁東に乳守遊廓がある。

—以下（坂堺大濱支線—

▼龍神（難波より六哩四分、到着時間約二十一分）

阪堺線の大濱支線と接續してゐる、堺大濱及び宿院方面に行く人は此處で乘替ねばならぬ。

龍神遊廓——龍神停留所の東北近く南新地ともいふ市の西部で、龍神町、榮橋、の二つに分れてゐる、夜の半面を代表してゐる所だ。

大濱公園——大濱海岸下車、堺市の西端、大阪灣に面した所、園内に水族館、公會堂等がある、公園の西海岸に大潮湯がある、附近は毎年夏則になると、海水浴場の設備が出來、南の濱寺海水浴場と共に非常に賑ふ、大濱の北、入江を隔てゝ北波止公園がある、此處は汐干狩の名所として知られた所、何れも料亭、旅館等軒を列べ客を呼んでゐる、

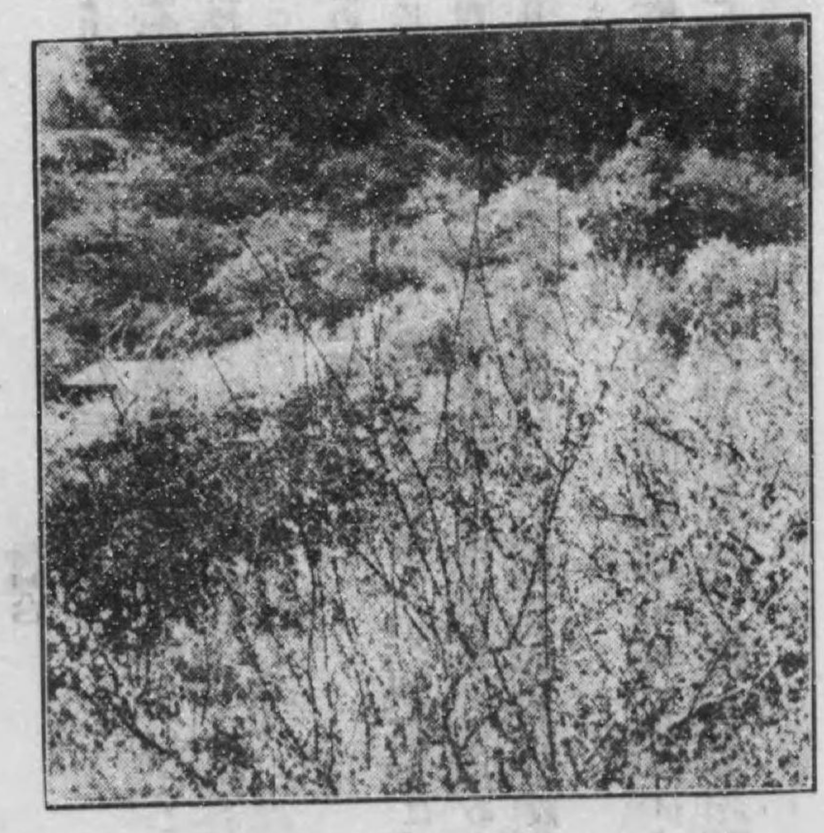
夏と秋の堺の浦の松風にかた江涼しく寄する白波。（夫木集）

—以上（阪堺）大濱支線—

これで堺市の名所舊蹟は大略終つたのである、次の▼濱▼石津川▼諏訪の森省略。

龍神遊廓
大濱公園
水族館
公會堂
大潮湯
北波止公園

濱寺文化村



金熊寺梅林

濱寺公園

▼濱寺公園　（難波より九哩三分、到着時間約三十分）

阪堺線の終點。濱寺公園は北は船尾から、南は今在家に至る、海岸一帶の松林廿餘丁をいふ。昔はこゝを高石の濱といつた所、明治初年に此松原も士族授產の料に伐採されることになつてゐたのを、それを聞いた内務卿大久保利通が

音に聞く高石の濱の松が枝も、世の仇浪はのがれざりけり。　利通

と詠んだので伐採は中止になつた、公園の入口に、その歌を刻した碑が建てゝある、又濱寺の名は、元享年間（凡そ六百年前）に大雄寺といつて、寺域四十餘丁に亘る大きな寺が此濱に建てられたことがあるので其名が起きたのである、公園には種々の運動具の設備や毎年夏期には新聞社の主催で大海水浴の設備がされる、其他公會堂、旅館、料亭、別莊等があちこちに散在しゐる。

大鳥神社

大鳥神社——驛の東十二丁、字大鳥にある、官幣大社、日本武尊を祀る、創建年代は詳でないが、古記にも見えてゐる式内の大社で、泉五社の一位に數へられてゐたが、近年火を失し今の社殿は其後造營されたものである、社域を千草の森といふ、

家原寺

いつみなる千草の森にあさたれて、ちかひつきせじ萬代までに。　利政

老樹繁茂、梅樹多く早春の頃は清淨なる神域に一段の風致を添へる、祭禮は四月十三日の花摘祭、七月卅一日の堺渡御祭、八月十二日の例祭、十一月廿八日多季祭等で花摘祭には堺乳守遊廓の藝妓が花摘女となつて供奉するので一層賑ふ。

家原寺——大鳥神社東十丁、字家原にある、眞言宗、行基の開基、地は行基の誕生地であるといふ、本堂に行基作の文珠菩薩を安置してゐる、其他多寶塔、不動堂、藥師堂、祖師堂等と東方の小丘に四國八十八ケ所がある、境域千八百餘坪、老松古杉繁茂して頗る幽邃な所だ。次の▼羽衣省略。

葛葉神社

▼葛葉　（難波より十哩九分、到着時間約三十六分）

葛葉神社——驛の東南十餘丁、枕草紙に「森はしのだ」と記されてゐる信太の森にある稲荷の祠で、葛葉物語は芝居でよく演る處だ「戀しくは尋ね來て見よ和泉なる、信太の森のうらみ葛の葉」川柳に「さて味は變らぬものと保名いひ」といふのがある、傍の樟樹は高さ百廿餘尺、根廻り九尋もある大したもので、古來千枝の樟といつて、歌などにもよく詠まれてゐる名樹だ。

聖神社
泉穴師神社
泉井上神社

おもふこと千枝にや茂き呼子鳥信田の森のかたに鳴くなり。　匡房

聖神社——葛葉神社の東南十丁王寺にある、俗に信太大明神といひ、聖の神を祀る、貞觀年間（凡そ千六十年前）創建、今は信太村の氏神である、附近の信太山は第四師團の演習地で廠舍が建て並んでゐる。次の▼助松省略。

▼大津（難波より十二哩八分、到着時間約四十一分）

泉穴師神社——驛の東南十餘丁、穴師村にある、泉五社の一、府社、天忍穗耳尊、栲幡千々姫命の二體及住吉神其他數社を祀る、元正天皇以後歴代の崇敬篤く、授位奉幣のことなどのあつた由緒正しい社だ、境内に楠公が寄進した石燈籠や什寶に聖武天皇宸翰及輪旨等を藏してゐる、又社から小兒の蟲封じの神符を出すので受けに來る人が多い。

泉井上神社——穴師神社の東北國府村にある、仲哀天皇、應神天皇神功皇后の三座と、三韓の役に勳功ある四十八臣を祀る、昔神功皇后三韓より御凱旋になり此地に上陸されたときに涌泉の奇瑞があつたので、皇后その靈泉の上に祠を營み給ひ、玉の井と名稱られ、土地を和泉郡と號して行宮を造らせ給ふ、和泉の名これによるといひ、又當社を俗に井の八幡、水内の社ともいふ。

松尾寺
槇尾山施福寺
岸和田市
岸城神社
久米田寺

松尾寺——驛の東南二里廿丁南松尾村字松尾寺にある、天臺宗、役小角の開基、本尊如意輪觀音は役行者の作で、往昔は歴代の勅願所にもなつた由緒ある古刹だが、根來の兵亂から頽廢し、今の堂は慶長年間（凡そ三百廿年前）豐臣秀頼の再建したもので、舊觀の一部分を示して居るに過ぎないといふ。

槇尾山——松尾寺の東南一里、山麓の坪井から更に山路一里、山頂に施福寺がある、詳しくは高野線長野參照。次の▼春木省略。

▼岸和田（難波より十六哩三分、到着時間約四十八分、急行四十四分）

岸和田市——紀州街道の要衝で、舊岡部藩の城下である、往古は岸といつてゐたさうだが、南北朝時代に和田高家が此處に城を築き岸の和田といつたのが、地名となつたのである。驛の西南にその城址がある、傍に素盞嗚尊を祀る式内の岸城神社がある。

久米田寺——驛の東卅丁、字池尻にある、古義眞言宗、神龜二年（凡そ千二百年前）行基の開基、本尊釋迦佛を安置してゐる、境内に不動堂、觀音堂、開山堂等がある、寺域廣濶、楓樹多く、秋は美しい、寺の門

久米田の池
積川神社
牛瀧山大威徳寺
蛸地蔵

前に久米田の池といつて、方八丁に餘る大池がある、久米田寺創建のとき、行基が橘諸兄の盡力を得て開鑿した所、狭山の池と共に世に名高い、地は行基が八十二歳で入滅した所といつてゐる。

積川神社——久米田寺の東南一里餘、積川にある、鄕社、泉五社の一、天照皇太神外四座を祀る、創立年代は詳でないが、仁明天皇以降歴朝の崇敬篤く、奉幣の事があつた由緒ある神社だ。

牛瀧山大威徳寺——驛の東南三里廿餘丁、山瀧村牛瀧山の半腹にある、眞言宗、役小角の開基、本尊大威徳明王と脇壇に不動、阿彌陀の三尊を安置してゐる、其外多寶塔、大師堂、開山堂等がある、寺域廣大老楓枝を交へ頗る幽邃な所、本堂から二三丁も登ると牛瀧に出る、三段になつた飛瀑で一瀑は廿五尺、二瀑は一丈二尺、三瀑は三丈六尺、瀑上に牛が寢てゐる樣な巨巖が横はつてゐるので瀧の名がある、

小車もつひにとゝめむなにしおふ牛瀧やまの木々のもみち葉。　似雲

▼蛸地藏（雑波より十六哩八分、到着時間約五十分）

蛸地藏——驛の西三丁岸和田市南町にある、天性寺と號ふ、本尊地藏尊は建武年間（凡そ五百八十年前）に蛸の背に乘つて海邊に出現されたもので、時の城主和田氏が尊崇して城内に安置したのを、後こゝに移したのである、此寺の緣起繪卷物は稀有の珍品として世に知られてゐる、緣日は毎月廿四日で、大緣日は八月廿四日である。

願泉寺
清水大師
水間觀音

▼貝塚（雑波より十七哩九分、到着時間約五十三分）

願泉寺——貝塚町にある、眞宗、金涼山眞敎院と號ひ、本尊阿彌陀佛を安置してゐる、行基が開基した眞言宗の寺院であつたが、中興が顯如上人に歸依してから今の眞宗に改めた、寺域四千坪、泉南有數の巨刹である。

清水大師——驛の東南廿丁、字橋本にある、弘法大師の像を安じてゐる。堂前の清水は弘法大師が行脚の砌、杖で此處を穿つと清水が湧出したといはれ其名がある、毎月廿一日の緣日は參詣者が多い。

水間觀音——驛の東南一里半、字水間にある、天臺宗、龍谷山水間寺と號ふ、天平十六年（凡そ千百八十年前）聖武帝の勅を奉じて行基が開基せし所、本尊の正觀音は又珠菩薩の作であるといふ靈像だ、昔は坊舍百卅を數へた大伽藍といふが今は衰頽してゐる、本堂、愛染堂、三重塔、辨天堂、開山堂等の諸堂と愛染堂の前に「お夏清十郎の愛染椿、緣を結ぶの玉つばき」と村童に唄はれてゐるお夏清十郎の墓がある、本

木積觀音
佐野町
蟻通神社

堂の背後の河中に龍擎の瀧、龍の瀧等、岩石磊々、頗る奇趣に富む勝區がある。

木積觀音——水間寺の東數丁、字木積にある、神龜三年(凡そ千二百年前)行基の開基、聖觀音、其他廿餘體の佛像は、何れも行基の作で精緻を盡したものといふ、昔は七堂伽藍の大刹であつたが兵燹に罹り、觀音堂のみが現今に傳へられたのである、地は行基が畿内に四十九院を建立する用材を積置いたので、木積の名が起きたのださうな。次の▼鶴原省略。

▼佐野

佐野町——和歌山街道の要衝に當り、木綿の產と魚市で知られてゐる、又元和の役の古戰場であつたことは人の知るところである。(難波より二十一哩三分、到着時間約一時間、急行五十三分)

蟻通神社——驛の南十八丁、字一里山(紀州街道の傍)にある、大己貴命、少彦名命を祀る、當社の緣起は枕草紙、貫之集等に記してゐるが簡短に述べよう、昔唐から邦人の智を測るために七曲りの孔のある玉を送り來て、之に糸を通して返せよと言ひ越して來た、宮中の人々千思萬考したがよい考へが浮ばないので、終に理智の聞こえ高い某中將に托した、中將又及ばず其父に教を乞ふた、父大なる一足の蟻の腰に糸を結び玉の孔に入れ反對側の孔へ蜜を塗り附けた蟻はその蜜の甘きに慕ふて容易に糸が通じたといふのだ

七曲にまがれる玉の緒をぬきて、ありさほしとも知らずやあるらん。　枕草紙

樫井古戰場
日根神社
慈眼院
山の坊奇勝
火走神社

樫井古戰場——蟻通社の西南廿丁、樫井附近の地をいふ、元和元年(凡そ三百十年前)大阪夏の陣の古戰場で、剛將塙團右衛門直之や淡輪重政等の戰死した所、二人の墓が村の北端にある。

日根神社——驛の東南一里餘、日根野村東上にある、鄉社、大井關明神といふ、泉五社の一、聖武帝の朝の創建、鷦鷯葺不合尊、玉依姫を祀る、昔は中々宏壯なる社殿であつたが、正平年間(凡そ五百七十年前)に兵火に罹り、今の社殿は其後再建したものである。

慈眼院——日根神社の隣地にある、眞言宗、元は日根神社の神宮寺であつたが維新後分離したのである、本堂と二層塔は弘法大師の建立で共に特別保護建造物になつてゐる、門前に姥櫻といふ古木がある、慈眼院の二層塔の前の小徑を一丁餘も行くと**山の坊奇勝**に出る、奇巖怪石重疊たる所、滔々たる奔流が、磊々たる岩石に激して狂ふ狀、頗る趣がある。

火走神社——日根野神社の東南一里、大木にある、延喜式の社、瀧明神と號つて土地の產土神である、大

井樫川社前の崖下を流れ、風景見るものがある、此邊の揚桃は特に美味で知られてゐる。

犬鳴山七寶瀧寺——火走神社の東南廿二丁（驛の東南二里二十丁）紀伊、泉の境なる犬鳴山の半腹にある古義眞言宗、役小角の開基、正中年間（凡そ六百年前）志一上人の再興である、山上の本堂に行者作の不動明王を安置してゐる、山中の高峰を燈明嶽といひ、昔西海を航する者が方向を失ひしとき、此山の不動明王を念じると、此峰に燈明が輝いたと傳へられてゐる、溪谷に兩界瀧、塔の瀧、千手の瀧、行者の瀧等

犬鳴山七寶瀧寺

といふ七瀧がある、

おもひきや七つのたからの瀧に來て、六つのにごりを清むへしとは。九條植通

七寶瀧寺の名それに起因するのである、又昔一人の獵師が此山で狩してゐると大木の上から大蛇が獵師を一呑にすべく狙つてゐた、それと見た獵師の犬は懸命に鳴き立て、牙を怒らして急を主人に報じたが、それを悟らない獵師は犬が狂ふて自分に噬付くものと感違ひをして、山刀で犬の首を切つた、ところが犬の首は下に落ちずして、反對に高く飛んで、大蛇の咽喉へ噛みつき、獵師を九死の中から救つた、獵師は今更ながら後悔して、その犬を篤く葬り、自分は剃髮して七寶瀧寺の僧となつた、それで此山を犬鳴山とい

牛瀧山一の瀧

ふに至つたといふのだ、山中に其犬塚や笈掛石、押塩岩、岩屋行者、屏風岩、行者の淵、護摩塩、觀音堂等の勝區がある。次の▼吉見の里▼岡田浦省略。

▼梅井（雜波より二十五哩四分、到着時間約一時十一分）

網井海岸——海は遠淺で海水浴場に適してゐる、又風光がよいので夏は別して賑ふ。驛の西に大きな旅館湖月がある。

男神社——驛の西南十五丁、字男ノ里にある、府社、祭神は二座、神武天皇を祀るものを男森明神、皇兄彦五瀬命を祀るを濱の天神と稱してゐる、延喜式の古社、古來崇信の篤い所である。

鄰蹟山林昌寺——驛の東南廿七丁、字岡中にある、眞言宗の寺で四國八十八ヶ所の土を運んで丘を築き寺を建立した所といふ、境内の鄰蹟は附近の鄰蹟ヶ岡と共に著はれてゐる、初夏の頃は錦を以て包まるゝの美觀を呈する。

金熊寺の梅林——驛の東南一里十丁（林昌寺より廿丁）、字金熊寺にある、寺は、眞言宗觀音院とも號ふ役小角の開基、如意輪觀音を安置してゐる、まつたくの山寺だ、傍に信達神社がある、梅林は寺の左を登つた山から鎌倉へかけて連つてゐる、一目千本といふのだ、童の千本、奥の千本等も近い、月ケ瀬に次ぐ梅の名所として世に知られてゐる。

手鼻かむ音さへ梅のさかり哉　芭蕉

砂川の奇勝——金熊寺の北、字六尾から北へ十六丁にある、一帶の砂山で、一望白砂漫々たる所、雨の降るために砂が流れて自然に川をなしたる狀、頗る奇觀である、梅の頃は茶店等を設けてゐる。

長慶寺——砂川の北西九丁（岡田浦驛乾西北廿丁）市場にある、金泉山と號ふ、本尊如意輪觀音を安置してゐる。又市場の地は白河堀河兩院熊野へ行幸の御時、御止宿あらせられた處で俗に御所村といつてゐる。

▼尾崎（雜波より二十六哩九分、到着時間約一時十五分）

尾崎御坊——驛の西二丁尾崎にある、西本願寺の別院、慶長三年（凡そ三百廿年前）桑山伊賀守の臣石田某が建立した所、本尊は蓮如上人染筆の六字の名號である。

法福寺——尾崎御坊の南十丁波有手にある、淨土宗、昔關白秀次の落胤で菊女といふが、戰亂の爲めに夫が殺されたのを歎き、自分も其處に縊付て自刄した、後有緣の者が菊女の貞操に感じて同女の像を刻み、

砂川の奇勝
長慶寺
尾崎御坊
法福寺

波太神社

當寺に納めたといふ像がある。寺の東南十餘丁石田に**波太神社**がある（驛の東南十八丁）、捕鳥部の祖天湯河板擧命を祀る、延喜式内の社で宏壯な社殿である。次の▼**鳥取の莊**▼箱作省略。

▼淡　輪

（難波より三十一哩三分、到着時間約一時廿七分、急行一時十四分）

淡輪遊園

淡輪遊園——海山の景を備へた遊園で、海に臨んだ風光は繪の樣だ、土佐日記に「和泉灘といふ所より出でて漕ぎ行く。海のうへ昨日の如くに、風浪みなず、黑崎の松原をへて行く。所の名は黑く、松の色は青く、磯の浪は雪の如くに白く、貝のいろは蘇枋にて、五色に今ひとしいろぞ足らぬ。」とある、黑崎の松原が今の淡輪のことで、この濱から對岸の淡路洲本へ汽船が出る、又近年船を雇つて魚釣に出掛る者が多い、夏は海水浴場の設備もされて中々賑ふ、海邊に桓武天皇の寵臣紀船守の墓がある。

——對岸淡路洲本——

洲本町

城址

洲本町——黑崎の濱から汽船で約一時五十分にて至る、淡路の東海岸にある、本島第一の町で、蜂須賀氏の家老稻田氏二萬石の舊城下である、洲本遊廓を通り、漁師町を突當つて右折して左にとると、**城址**がある、大永二年（凡そ四百年前）安宅治興が始めて築城し、天正年間（凡そ三百五十年前）に脇坂安治の居城となり、後稻田氏に至つたのである、城趾の麓に**八幡神社**がある、縣社、境域廣濶、樹木繁茂してゐる。

八幡神社

大濱公園

四州園

住吉神社

大濱公園——八幡神社から海岸に出た所で、樹木多く風光頗る美しい、附近は海水浴に最も適してゐる。

四州園は海岸に突出せる奇巖の上に座席を建設して天然の勝地を利用した、料理兼旅館で、紀泉の諸峰淡く、近くに友ケ島、由良を臨み、汽船帆船の行違ふ樣、頗る風致に富んでゐる、溫泉の設備もあり、岩上の亭から釣糸を垂れる等、一日の清遊に最もよい所だ、附近に**住吉神社**がある。

▼深　日

（難波より三十三哩一分、到着時間約一時三十一分）

深日の海岸

國玉神社

觀音岬

谷川港

深日の海岸——一時つ風ふけひの濱にいて居つゝ」と萬葉集などにも詠まれてゐる處で、風景が極めてよい、この地に昔聖武天皇の深日行宮があつた所だが、今はその趾も判らない、深日村に式内の古社、**國玉神社**がある、大巳貴命を祀る、地小丘、深日海濱の景色を樹間から隱見されて頗るよい。

觀音岬——深日村の西方谷川村の北、突出せる岬で、神戸の和田岬と相對してゐる、和泉の沿岸から攝津の諸山及び淡路の海山を望み得て頗る絶佳である、**谷川港**は昔領主桑山氏勝が慶長年間（凡そ三百廿年前）

に作つたものであるが、後世埋れて其用を成さず「古港」の名を止めてゐたが、今は新港が出來て船の出入が多い、附近の地は丘の產出が盛んである。

理智院

理智院　—谷川村にある、眞言宗、天平年中(凡そ千二百年前)行基の開基、本尊は弘法大師作の不動明王、秀吉が朝鮮征伐のとき海路平穩を祈願したといふので舟玉の本尊といはれてゐる、又秀吉の像がある、昔は別に祀つてあつたのだが今は本堂に合祀されてゐる、他に流木觀音といふ靈像がある、天明五年(凡そ百四十年前)に、此海邊に流れ寄つた伐木を、里人が拾ひ上げ薪にすべく斧を振ふと、忽ち眩暈がして悶絕したので、恐れ此寺に收めた、その伐木の片面に觀音の像を刻んだのが、それだといふ。

興善寺

興善寺—理智院の隣地にある、仁壽年間(凡そ千七十年前)文德天皇の勅を奉じて慈覺大師の開創せる所樓門、龍王社、不動堂、佛殿等がある、寺域廣濶、佛殿の前に五百五十餘年を經る石燈籠がある。

小島住吉社

小島住吉社—谷川村の西南方、小島村の海中に突出せる岸上にある、此地の產土神で、首から上の病に靈驗顯たかであるといふ、遠近から祈願を籠むる者が多い、樹木鬱蒼脚下に押し寄する海波、岩石に碎けて水煙を立て、蒼碧を隔てゝ淡路の峰巒を眺む風光は、實に三歎の價値がある。西南加太町方面は加太鐵道の部參照。次の▼孝子省略。

大同寺

大同寺—驛の東北方、有功村にある、天臺宗、大同年間(凡そ千百廿年前)僧最澄の創建、本尊藥師如來を安置してゐる、後鳥羽天皇熊野へ行幸の砌、鳳輦を寄せられたといふ緣起をもつてゐる寺で、今の堂は德川賴宣の再建したものといふ、寺の附近國部の山中に鳴瀧がある、楓樹極めて多く錦を織る秋の趣は實に美しい、附近に不動堂、辨天堂等の小祠がある。

和歌山市

▼紀の川（難波より三十八哩四分、到着時間約一時四十六分）

▼和歌山市（難波より四十哩、到着時間約一時五十分、急行一時廿四分）

和歌山市—古は雄の水門、吹上の濱といつた所で、神武天皇御東征の途次御上陸せられたことが史上に見えてゐる、天正十三年(凡そ三百四十年前)豐臣秀吉が本州を平定してこゝに、その一族秀長を封じた秀長老臣桑山重晴に命じて、吹上の岡に城を築かしてから、此の地が都會となつた、、德川時代になつて賴宣をこゝに封じて五十五萬石を附與し南海の鎭めとした、それから、この地が大いに發展し一大都市と

なつたのである、歌枕吹上の濱は市の西南部の總稱で、地は紀伊の國の西北、紀の川の南岸に位した、南海第一の都會である。

和歌山名所

和歌山市及和歌の浦の案内は順序として和歌山市驛から述べることにする。

西本願寺別院——驛の東四丁（電車本町四丁目の西南）にある、鷺の森御坊といつて永祿六年（凡そ三百六十年前）顯如上人の創建、本尊阿彌陀佛を安置してゐる、堂宇宏壯、市内第一の巨刹た、上人石山合戰の後、城を退いて、こゝに移つて道場を建立した、信長の兵が來り攻めたことが史上に見えてゐる。

惟住五郎右衛門、手勢三千餘騎を引具し、鷺の森へ押寄せ四方を圍みて鬨の聲を上げたりける。顯如上人父子、家老の面々大いに驚き、動轉する事限りなし、されども老臣家老の面々を始め有り合ふ門徒等皆一同に念佛を唱へ、祖師の御恩報謝には、骨を碎かれ身を裂かるゝとも、惜むべきにあらず、恐るべきに非ず。今日の最期は猶未來に賴みあり。力の及ぶ程は防げよやと門戸を堅め弓鐵砲を打出し、喚き叫んで防ぎける。（中略）寄手の兵散りに〳〵なりて引取りければ、門跡を始めまゐらせ、家老下輩に至

西本願寺別院

南海電車より和歌の浦方面を望む

朝椋神社
高野寺
京橋
和歌山城

る迄、夢の覺めたる心地にて、何故に寄手の敗亡ぞやと、更に仔細も分たざりしに、當地に住居の門徒の道俗、追々來り悅びを述べ、信長父子、光秀が爲に討たれたるよし申すにより、『是は偏に御開山親鸞上人目は阿彌陀如來の御加護により、佛敵信長、臣下の手に命を落し、今は當宗門に恐るゝ者さらになし。いよ〳〵宗旨繁昌せん事、疑ひ曾て有るべからず』と踊り上り飛び上り、悅び勇も理なり。（繪本太閤記）

朝椋神社——西本願寺別院の北にある、大巳貴命を祀る俗に鷺の森神社ともいふ。**高野寺**は（電車本町四丁）眞言宗、本尊弘法大師自作の像を安置してゐる、厄除大師といつて世の信仰が篤い。

京橋（電車京橋）元標地で市の中央にある、北詰を東に入るとブラクリ丁といつて和歌山市商業の中心地でブラクリ丁の東、元寺町、劇場、活動寫眞等がある殷賑地だ、南詰の東が遊廓である。

和歌山城——京橋の南方（電車一ノ橋）虎臥山にある、竹垣城といふ三層の天主閣が高く聳えて昔の佛を殘してゐる、羽柴秀長が老臣桑山重晴に命じて築かした所、後德川頼宣こゝに移り、その世襲の居城となつて維新の廢藩に至つたのである、城内に物産陳列所、圖書館等がある、松杉老樹多く、花木點綴して頗るよい、又濠中蓮夥しく、散策に杖を曳くものが多い。

岡公園
松生院
岡の宮
珊瑚寺
吹上寺
海寺

はろ〳〵と和歌の浦わの磯山につきのよろしき和かやまの城。　宣長

岡公園——城の東南隅の城門を出た所にある丘陵で、天妃山といつてゐる、昔この山上に辨天の祠があつたので、その名がある、梅櫻多く、紀念碑、忠魂碑等が建つてゐる。公園の西南隅の境外に**松生院**がある、古義眞言宗、本尊は承和九年（凡そ千八十年前）に智證大師が不動明王を彫して、讃岐の壇の浦に寺を建て安置したのを、後こゝに移し寺を建立して安置したのである、本尊が讃岐にあるとき或夜靈像の劍で惡鼠を貫いて居られたので、俗に鼠突の明王といつて名高い。その西南近くに延喜式の古社**岡の宮**がある、刺田比古命を祀る、地は聖武天皇離宮の址であるといふ。

珊瑚寺は岡の宮の東南にある、曹洞宗、始め三五寺といつてゐたが、和歌山城を築いた桑山重晴の菩提所となり、重晴が珊瑚の念珠を贈つてから今の名になつたといふ。

吹上寺——（電車縣廳前の西四丁）にある、臨濟宗、本尊は行基作の聖觀音を安置してゐる、歌人加納大平の墓及び夕霧伊左衛門の墓がある。吹上寺の北一丁にある**海善寺**は、淨土宗西山派の名刹、境内の王船神社は神功皇后が三韓から御凱旋のとき雄の水門に碇められた御船を納めた處といふ。海善寺の北二丁に

水門神社
和歌山港
青岸
荒濱
吹上の濱
根上り松
愛宕山
明珠院

水門神社がある（和歌山市驛の南約六丁）、蛭子の神を祀る、毎年一月十日は十日戎とて參詣者の群衆で雜沓を極める、社殿の東、神標の建つてある地は、神武天皇御東征の時、皇兄五瀨命、流れ矢に肱脛を射られて矢瘡の痛み甚だしく、劍を撫し雄猛せられて遂に薨じ給ふたと古記に見えてゐる處ださうな。

和歌山港——水門神社の西、紀の川に沿ふて（汽船乘客の爲めに便船がある）廿餘丁にして至る。地は卽ち紀の川の河口で青岸といふ。その南方白砂長汀の地を荒濱又は吹上の濱と呼ぶ。磯打つ波は白砂を洗ひ、綠深き老松が海水に映じ、前面の蒼波に浮かべる淡路島を望んだ美は、恰も繪卷物を展ぶるの感がある、殊に夏季は海水浴場として知られてゐる。

月そすむたれかはこゝにきの國や吹上の千鳥獨りなくなり。　攝政太政大臣

——和歌の浦方面——

根上り松——（電車高松）和歌街道の傍にある、その根高く現れた、いはゆる根上り松で、昔は同じ樣な根上り松が數十株もあつたといふが、今は一二存してゐるに過ぎない。愛宕山は根上り松の南、街道の左一路を迚る東端で、山麓に圓珠院がある、天臺宗、愛宕權現を祀る、火伏の神として、參詣する人が多い、

彌勒山
矢の宮
龜遊石
秋葉大權現
五百羅漢寺
和歌浦口
東照宮
天滿宮

境域花木多く幽雅な所だ。**彌勒山**は愛宕山の南峰、街道に面して聳えてゐる、俗に御坊山といふ、愛宕山と共に絕勝の地として知られてゐる、西の山麓に、その形老猊の吠ゆるかの樣に見ゆる猊口岩がある、

矢の宮街道の西二丁餘、關戸にある、武角身命を祀る社で、毒蟲除けの神符を受けに參詣する人が多い。

龜遊石は猊口岩の南、街道の左側にある岩狀恰も龜が遊んでゐる樣に見えるので名がある。

秋葉大權現——龜遊岩の南、（電車秋葉山）數十級の石段の上にある、社前の風光よく又紅葉が知られてゐる、山麓に**五百羅漢寺**がある、和歌浦口五百羅漢寺の南數丁（電車和歌浦口）道が左右に分れてゐる、右すれば東照宮、新和歌浦方面、左すれば玉津島、紀三井寺方面に至る。

東照宮——和歌の浦口の右數丁（電車權現前）にある、樹木鬱蒼たる、參道百餘級にして至る、元和六年（凡そ三百年前）德川賴宣の創建、德川家康を祀る、近時賴宣を祀る南龍社をもこゝに合祀した、社殿壯麗森嚴を極めてゐる、五月十七日の大祭は、世に和歌祭とて盛大な渡御の式が行はれる。

天滿宮——東照宮の西南天神山の山腹にある、慶長十一年（凡そ三百廿年前）浅野幸長の再建、菅原道眞公を祀る、地は昌泰四年（凡そ千二十年前）菅公左遷の砌、此浦に風波を避けられた舊蹟であるといふ。

新和歌浦

雜賀崎鷹の巣

片男波

新和歌浦——天滿宮の西方（電車新和歌浦）近年開拓して遊園となしたる處。第一隧道を出ると後は雜賀山のつゞきで、松樹生茂り、前は渺茫たる和歌浦灣、天神磯、比丘尼岩、對岸の鹽津、大崎を望み、二つ並んだ沖ノ島、地の島は

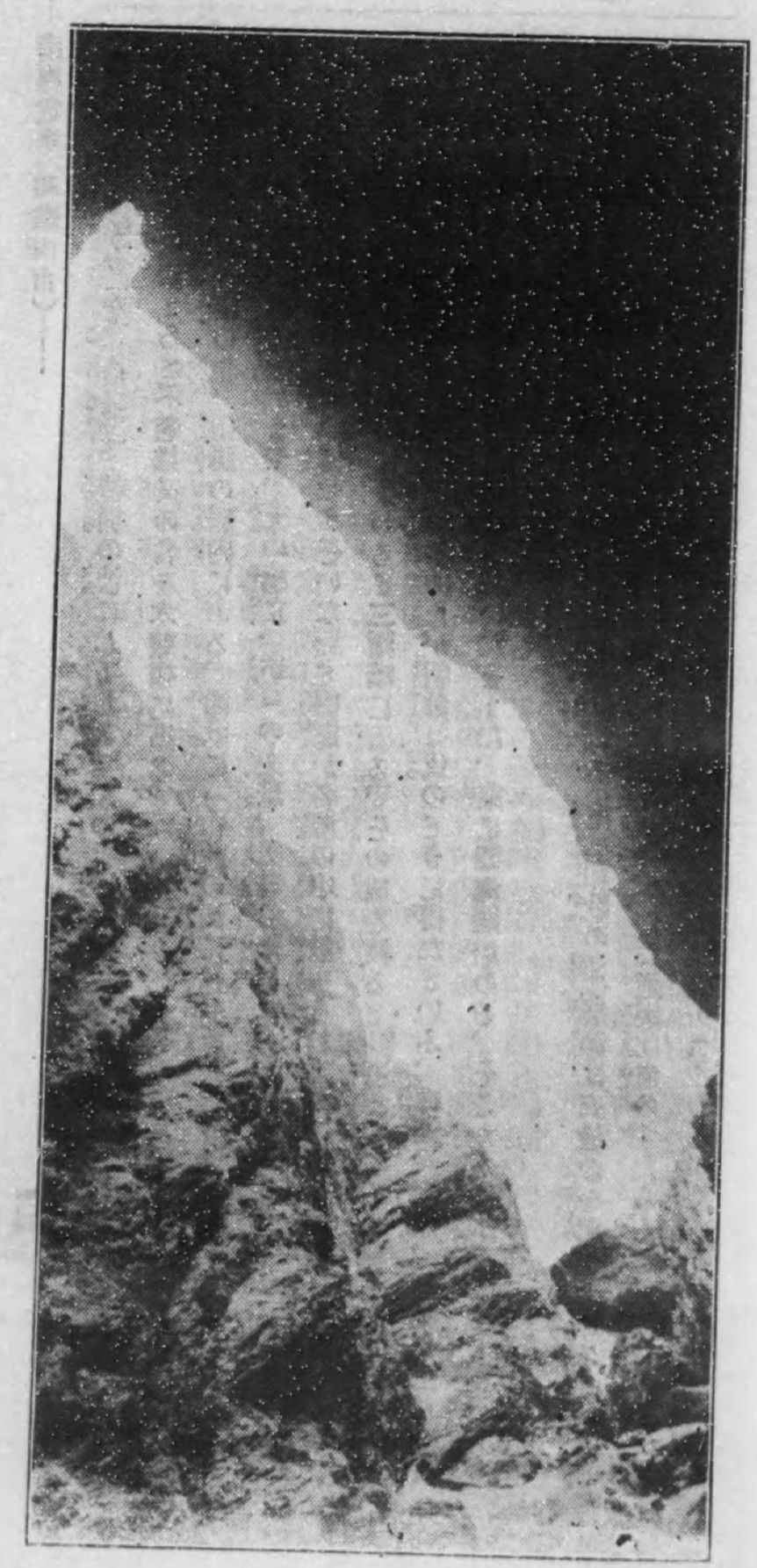
紀の海や沖のなみまの雲晴れて、雪に殘れる浦の初島。　新續古今集

と詠まれてゐる浦の初島で、水平線の彼方に茫かとして四國の山峰が目に入る、風光明眉、宛然畫圖を見る綠な眺めである、夏は海水浴で非常に賑ふ。第二の隧道を抜けて廿餘丁、雜賀崎に至ると鷹の巣がある海に臨んで聳ゆてゐる絶壁で、その洞窟は天正八年（凡そ三百四十年前）本願寺の教如上人が織田勢に追擊されて隱れた處だといふのである、附近怪岩亂礁爭ひ立ち、頗る奇景に富む絶勝の處だ。

きの國のさいかの浦にいて見れば、海人のともし火波間より見ゆ。　萬葉集

片男波——新和歌の浦の東（天滿宮の海邊の左方）白砂長汀に打ち寄す波を片男波などゝいふが實際は男波も女波も打つてゐるのだ、それは古歌に、

若の浦に潮滿ちくれば潟を無みあしべをさしてたつ鳴渡る　山部赤人



不老橋
太鼓橋
鹽竈神社
妹脊山
三斷橋
觀海閣
玉津島神社

とある「潟を無み」を「片男波」と特別の波にしてしまつたので川柳に「波一つあたには打たぬ玉津島」とある

そこから路を左にとると**不老橋**又の名を**太鼓橋**に出る。

鹽竈神社——不老橋の北、山脚の窟内にある、端歌に「和歌の浦には名所がござる、一に權現、二に玉津島、三に下り松、四に鹽がまや、天の橋立、切戸の文珠、文珠さんはよけれども、切戸と云ふ字が氣にかゝる、さつさ何とせうか、如何せうぞいな」と鹽竈が名所の中に數へられてゐるが、御粗末なものだ。

妹脊山——鹽竈神社の前を東にまわると**三斷橋**に出る、その橋を渡ると妹脊山だ、右に續くと名所の一つ下り松がある、丘上の多寶塔に、加藤淸正が朝鮮征伐のときに得たといふ、釋迦、阿難、加葉の三尊を安置してゐる、昔此山を郭公山といつていたそうだ、東に觀海閣がある、そこから江水を隔てゝ紀三井寺を望んだ風光がよい。

玉津島神社——三斷橋から右すると左に鳥居が見える（電車和歌の浦）祭神は衣通姫を祀つてゐるといふ、謠曲草子洗にも「恥しの勅諚やな。先代の昔はそも知らず、既に衣通姫此道のすたらんことをなげき、和歌の浦わに跡を垂れ給ひ、玉津島の明神より此方、皆この道を嗜むなり」、とある如く古くから和歌の神として崇高篤く、聖武天皇以下曆朝が行幸せられたといふ、社の背後の山を奠供山といひ、一名麗山ともいつて聖武稱德兩帝の行宮「望海樓」の遺跡であるさうな、眺望展けて頗るよい。

奠供山
麗山
紀三井寺
和歌山土産
和歌山の交通

紀三井寺——妹脊山の東、江水を隔てた名草山の中腹にある（電車紀三井寺）、眞言宗、金剛寶寺と號ふ、寶龜元年（凡そ千百五十年前）唐僧爲光が佛法弘通の爲め來朝して此山の麓千手谷の邊で千手觀音の尊像を感得し、爲光歡喜の餘り更に一體を刻んで、感得の像を其胎内に納め、海に面して一宇を建立したといふのが當寺の緣起である、西國第二番の靈場だ。

ふるさとをはる〴〵こゝにきみゐる寺、花の都も近くなるらん。　詠歌

本堂鎭守祠、念佛堂、常行堂、大師堂、開山堂等の諸堂がある、和歌の浦の風光はこゝから眺めるが一等だといはれてゐる、境内に櫻樹多く花の頃は一層參詣する人が多い。

和歌山土産——小鯛酢漬、すゞめずし、蜜柑、羊羹、ネル、漆器。

和歌山の交通

和歌山電車——和歌山市驛より市内を通じて和歌の浦、黑江方面に至る。

南海電車——和歌山市驛より大阪難波に至る。
和歌山線——和歌山市驛より關西本線王寺驛に至る　加太鐵道——和歌山口驛より加太町に至る。
山東鐵道——市内中の島より山東村に至る。

▽前途萬里△

前途萬里の雲を隔て、
望をよする男子の門出
千山萬壑いざ踏破り
やがて本望達して見せむ。

凝ては貫く巖の面
鐵より堅き男子の決心
高嶺の花を手折らぬほどは
いかでたゆまむ萬里の旅路。

加太鐵道

和歌山市——加太港

此線は和歌山市の西北和歌山口驛を起點として西北に加太町に至る六哩一分の鐵道である。

▼和歌山口驛（起點）

南海電車及び和歌山線（省線）の和歌山市驛に接續してゐる。次の▼北島驛省略。

▼島橋驛（和歌山口驛より一哩四分、到着時間約九分）

總持寺——驛の東北野崎村大字梶取にある、淨土宗西山派、寶德二年（凡そ四百七十年前）創建、明秀上人の開基、本尊阿彌陀佛を安置してゐる、寺寶の惠心僧都の筆阿彌陀佛の畫像が名高い。次の▼中松江省略

▼八幡前驛（和歌山口驛より二哩九分、到着時間約十八分）

木本八幡宮——驛の北木本にある、神功皇后三韓より御凱旋の御時、武内宿禰が皇后の命を受けて皇子（應神帝）を奉じて横に南海を渡り、此地に上陸せられし遺跡と傳ふる處で、應神天皇を奉祀し、社域廣濶、社殿壯麗を極めてゐる。次の▼二里ケ濱▼磯の濱省略

總持寺

木本八幡宮

加太港
加太神社
大川峠
報恩講寺

▼加太驛（和歌山口驛より六哩一分・到着時間約三十六分）

加太港——紀伊國の西北隅に位し、淡路海峽に面した所で、古來船舶の碇泊で有名な所だ、此處から前面の友ケ島（沖の島、地の島の二島）を眺めた風景が非常によい。

苅藻舟おきゝこき來らし妹が島、かたみの浦にたつかけそ見ゆ。　萬葉集

今は此附近が要塞地帶になつてゐるから、寫眞は撮れないことは勿論である、又蜜柑船で有名な紀の國屋文左衛門は此浦の出である。

加太神社——加太町にある、鄕社、俗に粟島大明神と號ふ、大巳貴命、少彦名命、神功の皇后三柱を祀る、神殿、祝詞殿、拜殿、神庫等がある、古來下の病に靈驗があるといつて婦人の信仰が極めて篤い所だ

大川峠——加太町の北方、深山から更に東北大川村を經て和泉に至る峠である、登るに從つて展開する、廣々とした茅渟の海、點々せる眞帆片帆、呼べば答へん淡路島、脚下に浮ぶ友ケ島等を眺めた風光の明眉は、殆ど他に比すものがない程の絶景だ。

報恩講寺——大川村にある、慈雲山といふ、圓光大師二十五靈場の一、本尊に圓光大師の像を安置してゐる、承元二年（凡そ七百十年前）圓光大師左遷地より赦免されて船で上らるゝ途路、風波を此處に避け給ふ、大師此地を辭さんとするに當り、里人大師の德を慕ひて別れを歎き悲しみしに、大師櫻の伐木を以て自ら像を刻み、試みに斧で、その背を打つと、忽ち血が流れ出たといふを遣して出船なし給ふ、里人一堂を建立して其像を安置したのが此寺であるといふ。

旅路の愉快

露もつ草葉を　鞋にふめば　追風に帆かけて　海原ゆけば、
顏ふく風は　汗をぞ拭ふ　わがため波は　歌をぞうたふ
たびちの愉快は　野邊ゆく　曙　疲れぬ旅にも　船路のたのしさ

山東鐵道

和歌山——山東村

此線は和歌山市の東北部、中の島を起點として西南に、山東村に通じてゐる六哩二分の輕便鐵道である。

▼中の島驛（起點）

和歌山線（省線）の和歌山驛に接續してゐる。次の▼畑屋敷▼大橋省略。

▼秋月驛（中の島驛より二哩、到着時間約十四分）

日前國懸神宮——驛の北秋月にある（和歌山市京橋より東南三十四丁）、官幣大社、日前宮、國懸宮の二宮に分れてゐる、日前宮は神鏡。國懸宮は天日矛を御靈代として安置してゐる、この二種の神器は天照大神が三種の神器に添へさせられた第二の神寶で、神武天皇が天下を知ろしめし天道根命に當國を賜ひ、こゝに二種の神寶を祭りて天照大神と崇められ給ふたものであるといふ、

かしこさは伊勢の神垣へたてなく、此もあまてる日のくまの宮。　宜長

天道根命を祀る攝社と、周圍に無數の末社がある、芝生に櫻樹多く、境内一萬八千坪に餘り、老樹繁茂、

日前國懸神宮

神殿を極めてゐる。次の▼神前省略。

▼竈山驛（中の島驛より三哩四分、到着時間約二十三分）

竈山神社——驛の南、三田村大字和田にある、官幣大社、神武天皇の皇兄五瀬命を祀る、始め雄の水門にあつたのを、後こゝに遷座したものである、壯殿な社殿だ。

雄たけひのかみ世の御聲おもほえて、嵐はけしき竈山の松　宜長

竈山神社

次の▼岡崎前▼吉礒省略。

▼山東驛（中の島驛より六哩二分、到着時間約三十八分）

伊太祁曾神社——驛の南にある、官幣中社、五十猛命、大屋津姫命、抓津姫命の三座を祀る。昔は紀伊の一の宮といつて尊敬せられた由緒ある延喜式の古社だ。

伊太祁曾神社

(南海) 高野線

大阪——橋本間

此線はもと高野鐵道といつた線で、今は南海電車に併合されて其一線となつてゐる。

行程は大阪汐見橋(市電前)を起點として南に、堺市の東端から東南に走つて長野驛に至り、大阪鐵道に會つて更に進み、國境紀見峠を經て高野山の登山口橋本に至つて和歌山線(省線)に接續してゐる、全哩二八哩一分、大阪橋本間約一時四十五分で着く、卽ち大阪方面からの高野登山は此線に依れば便利だ(高野口から登山する人は橋本で和歌山線に乘次ぎ次驛高野口驛で下車すればよい。)

▼汐見橋(起點)

大阪の名所及其他の詳細は大阪の見物の項參照。次の▼背原町▼木津川▼津守▼西天下茶屋省略。

▼阿部野(汐見橋より三哩、到着時間約十二分)

阿部野神社——驛の東二丁、阿部野の丘上にある、詳しくは南海電車の部參照、地は謠曲松虫に「遠里なからほどちかき、こや住の江の浦傳ひ、潮風も、吹くや岸野の秋の草、吹くや岸野の秋の草、松も響きて

沖つ波、聞いて聲々友さそふ、この市人の數々に、我も行き人も行く、阿部野の原はおもしろや」とある所だ

住吉神社

▼住吉東(汐見橋より四哩一分、到着時間約十六分)

住吉神社——驛の西二三丁にある、詳しくは南海電車住吉の部參照。

我孫子觀音

▼我孫子前(汐見橋より五哩、到着時間約十九分)

我孫子觀音——驛の東十二丁、依羅村大字我孫子にある、本尊の觀音は泉州の水間の瀧から出現されたともいひ、又行基の作であるともいふ兎に角厄除の觀音として世の信仰が篤い毎年立春の前後三日間は厄除の祈禱がされるので、遠近から非常な參詣者が來る。我孫子觀音の東南十丁字庭井に大依羅神社がある、依羅吾彦の祖建豐波豆羅別王と住吉の神を祀る名神大社に列した延喜式の古社だ、神功皇后が三韓征伐の御時、住吉の神の和魂は御身に服て壽命を守護し、荒魂は先鋒となつて帥船を導かむと敎へられたるに依つて依羅吾彦の子垂見をして拜祀せられた社といふ。次の▼淺香山省略。

大依羅神社

紅谷庵

▼堺東(汐見橋より六哩九分、到着時間約二十七分)

紅谷庵——驛の東二丁にある、禪宗、本尊の觀音大士は、連歌で名高い牡丹花骨柏の持佛であつたといふ

反正天皇陵
方違神社
大仙陵
履仲天皇陵
百舌八幡
金岡神社

庵はもと堺の人、紅屋某の別荘跡といふので紅谷庵の名がある。庵の北方に反正天皇百舌耳原北陵がある

方違神社——驛の東北六丁、反正帝陵の東北近くにある地は昔攝河泉の境であつたといふので三國ケ辻といはれてゐる、祭神神功皇后を祀る、古來方違の社として轉宅の際には厄除の神符を受けに來る人が多い

大仙陵——驛の東南八丁觸松村にある、仁德天皇の陵で、百舌鳥耳原中陵といふ、周圍二十餘丁、規模壯大、本邦第一の稱がある、その西南數丁に履仲天皇百舌耳原南陵がある。

▼百舌八幡（汐見橋より八哩四分、到着時間約三十一分）

百舌八幡——驛の西南五丁、西百舌鳥村字赤畑にある、萬代八幡といひ、欽明天皇の朝（凡そ千三百七十年前）の創建、鄕社、應神天皇、神功皇后を祀る、社域廣濶、樹木鬱蒼、幽雅な社である、

民やすく國をさまれと祈るかな、人のひざよりわが君のため。　二品親王

▼中百舌（汐見橋より八哩九分、到着時間約三十三分）

金岡神社——驛の東北十四丁、金田にある、巨勢金岡の住んでゐた所、社はその靈を祀る、昔此地に金岡の淵といつて透明な清水の池があつたが、今はない。次の▼西村▼萩原天神▼北野田省略。

狹山池
菅生神社
瀧谷不動
興通大師
長野遊園

▼狹山池（汐見橋より十二哩六分、到着時間約四十九分）

狹山池——驛の南八丁にある、崇神天皇の朝（凡そ二千二十年前）に田畝灌漑の爲めに開いた周圍三十二丁の大池で、我國水利工事の始めといふ。

菅生神社——驛の東北十八丁、字菅生にある、延喜式の古社、天兒屋根命を祀るともいひ、又一說には菅公の誕生で地其靈を祀るともいふ、社の四面は田圃で、菜の花の頃生は、美しい風致を添へる。次の▼河内半田省略。

▼瀧谷（汐見橋より十五哩三分、到着時間約五十八分）

瀧谷不動——驛の東廿五丁、瀧谷にある、詳しくは大阪鐵道其部參照。

興通大師——驛の西南八丁、字興通にある、眞言宗、諦觀和尙の中興、本尊厄除弘法大師を安置してゐる又境内に四國八十八ケ所に模した靈場がある。

▼長野（汐見橋より十七哩四分、到着時間約一時〇四分）

長野遊園——驛の東、石川の清流に臨んだ、三萬坪からの遊園地だ、茶店、料亭等の設備もあり、又近年

極樂寺
溫泉浴場
河合寺
觀心寺

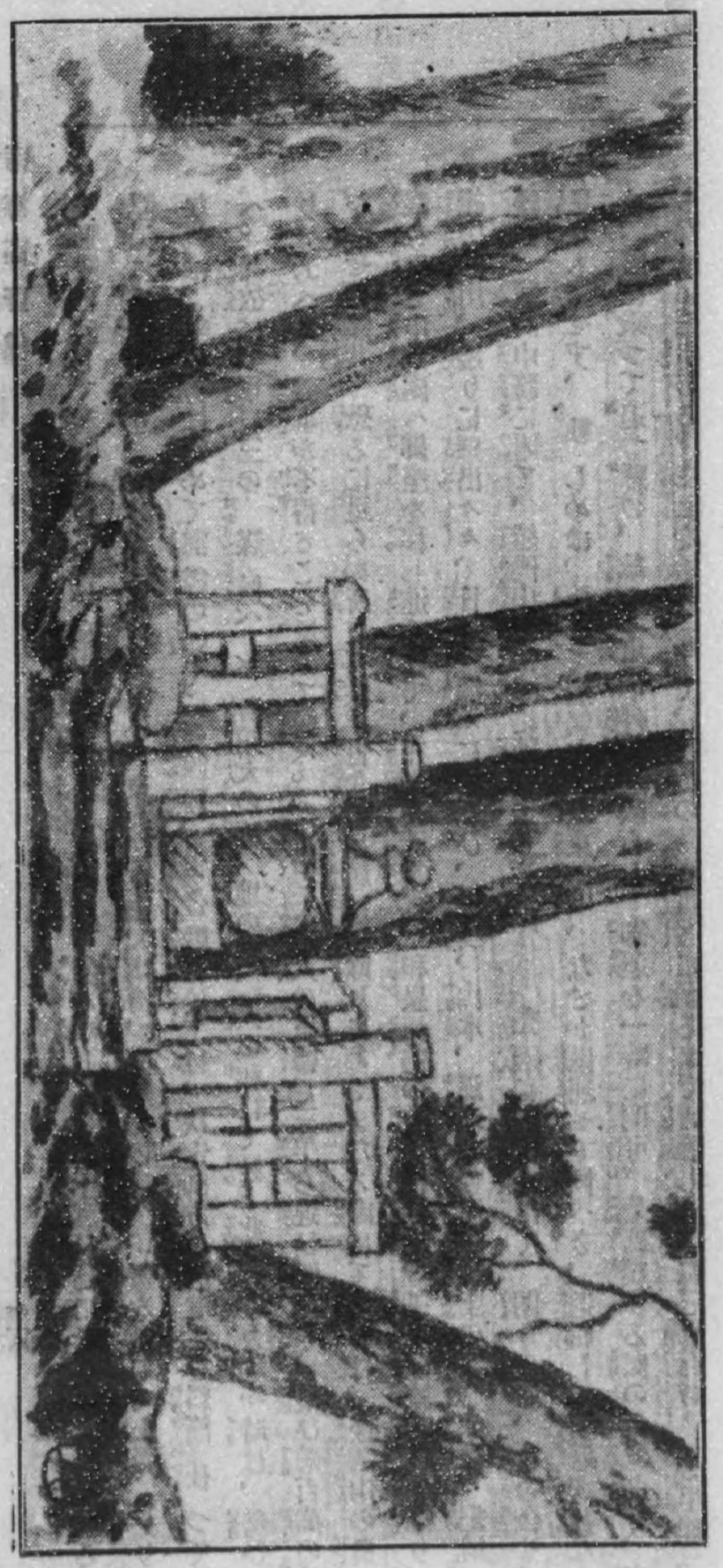
櫻樹を多く植附たれは花の頃は極めて美しい、驛の附近に、極樂寺、溫泉浴場等がある。

河合寺——驛の東南十丁、河合寺にある、眞言宗、寶珠山と號ふ、本尊十一面觀音は、楠正成公の念持佛さいひ毘沙天像をも安置してゐる、昔は觀心寺や天野山と共に數にられた巨刹だが今は二三の堂宇が存してゐるに過ぎない、境内に服部南郭の選した楠公の碑がある。

觀心寺——河合寺の東廿丁、字寺元にある、眞言宗、檜尾山と號ふ。弘法大師の高弟實惠上人の開基、本尊七星觀音を安置してゐる、楠の菩提寺で境内に正成公が建立した二層塔、及び開祖の廟、正成公の首塚、山内に後村上天皇檜尾陵がある、正平年間(凡そ五百七十年前)後村上天皇吉野行宮を出でゝ河内の天野山に行幸せられ、更に此處に遷らせ給ひ、觀心寺を行在所として、遂に崩御あらせられたのである、寺寶に南朝に關したる書類が多い、山中樹木繁茂、梅、櫻、楓等の樹木多く、紅葉瀧、戊亥瀧等があつて頗る風致に富んでゐる。

花に鐘くれて無常を觀心寺　西鶴

「此頃吉野の新帝は、河内天野と云ふ處を皇居にて御座有ければ、楠左馬頭正儀和田和泉寺正武二人



天野殿に奏じて奏聞しけるは、畠山入道道誓東八箇國の勢を率して、二十萬騎已に京都に着て候なる山陽道は播磨を限り、山陰道は丹波を境ひ、東海、東山、南海、北陸道の兵、數を盡して上落仕り候なれは、敵の勢は定めて雲霞の如くにぞ候段、但合戰に於ては、決定御方の勝こそ料簡仕つて候へ。其故は、軍に三の謀候べし。所謂天の時、地の利、人の和にて候。此内一も違ふ時は、勢ひありと云へ共、勝事を不得とこそ見るて候へ。（中略）天地人の三德、三乍ら違ひ候はゞ、縱ひ敵百萬の勢を併せて候共、恐るに足らぬ所にて候。但今の皇居は、餘りにあさまなる處にて候へは、金剛山の奥、觀心寺と申候處へ御座を移し進せ候て、正則正武等は、和泉河内の勢を相伴ひ、千早金剛山に引籠り、龍山石川、邊りに懸出々々、日々、澤々に相戰ひ、湯淺、山本、恩地、賀河、野上の兵共は、紀國守護代、鹽冶中務に附て、龍門山最初峰に陣を張らせ、紀伊川禿邊に野伏を出て、開き合せ、攻め合せ、息をも繼せず、戰しめは、極めて短氣なる坂東勢共、なとか退屈せで候べき、退屈して引返す者なら、勝に乘つて追つ懸け、敵を千里の外に追散らし、御運を一時に開可。是庶幾する處の合戰也と、事もなけにぞ申ける。主上を始め進て、近侍の月卿雲客に至るまで皆憑しき事にぞ思召ける（太平記）。

楠妣庵觀音寺

天野山金剛寺

楠妣庵觀音寺――觀心寺の東北十餘丁、東條村甘南備にある。地は大楠公夫人久子の方が落飾して一族の冥福を祈り、淋しき餘生をおくられた舊蹟で、夫人の功績は固より枚舉に遑あらずたが、大楠公をして後顧の憂ひ無からしめたのと、正行や正儀等の忠臣孝子を薫育せしは其最も大なるものである、寺は大正四年に再建されたもので境域に觀音堂、本堂、草庵、夫人の御墓、使用の井泉等がある、堂は何れも吉野時代の樣式によつたものといふ、山上から四邊を望んだ景色がよい。

天野山金剛寺――驛の西南一里半、天野村の内天野山にある、眞言宗、行基の開基、永萬年中（凡そ七百五十年前）阿觀法印の中興、本堂に弘法大師作大日如來、兩脇に不動明王、降三世明世明王を安置してゐる山門、食堂、多寶塔、觀月殿、御影堂等の諸宇がある、正平八年（凡そ五百七十年前）後村上天皇一時行在所となし給ひし處で食堂が其遺址であるといふ。

君すめは峰にも尾にも家居して深山ながらの都なりけり　（新葉集）

寺域二萬千餘坪、櫻樹頗る多く、天野山の名によつて著はれてゐる、門前の天野川を渡つて石段を登ると丹生、高野、水分の三神を祀る小祠がある。

槇尾山施福寺

光瀧寺

三日市

槇尾山施福寺——天野山の西南一里半、河内和泉の國境槇尾山の山上にある、天臺宗、欽明天皇の勅願によつて行滿上人が金堂を建立し、彌勒佛を安じたのが濫觴で、往昔は數百の坊舍があつたさいふ巨刹、光仁帝の御宇に住持してゐた法海上人が觀音の示現を拜して尊像を刻まれたのが今の本尊である、又弘法大師がこゝで研學し愛染堂で剃髮されたさいふ、西國第四番の靈場だ、

深山路やひはり松原わけゆけば、まきのを寺に駒ぞいさめる。　詠歌

境内に不動堂、大師堂、槇尾明神の祠等と、山中に如法嶽、卒都婆峰、捨身嶽、兜卒嶽等の勝區がある境域頗る深邃な所、櫻楓多く春秋共に風致を添へる。

光瀧寺——槇尾山の東南約一里瀧畑にある、天臺宗、行滿上人の草創、本尊の不動明王は常操大僧都に白炭を燒く秘術を敎へ給ふたさいふので炭燒不動の名がある、山中に四十八瀧さいふ位に澤山な飛瀑がある光の瀧、瓔珞の瀧等が著名だ、滿山彩る秋の頃は美しい。

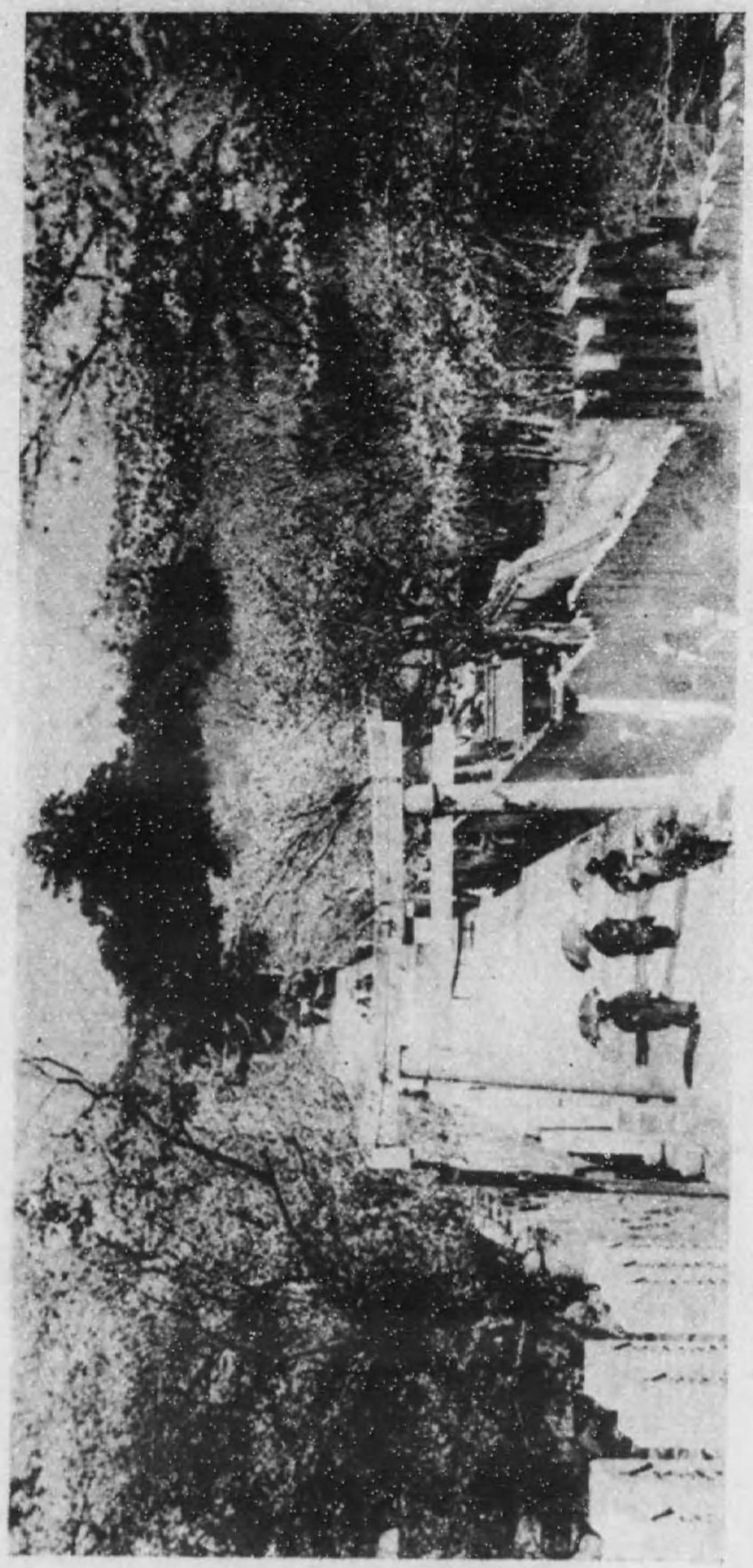
▼三　日　市

（汐見橋より十八哩五分、到着時間約一時十分）

三日市——高野街道の要衝で、昔は京阪地方から高野詣でや大峰入は此處を通つたものだ、大峰入の新客

淡山神社　（記事櫻井線）

（紀伊名所記）　社　肥　羅　比　金



錦溪温泉
延命寺
金剛山
千早城址
千早神社

が色を含んだ宿女の聲に、行塲の暫ひを忘れて精進落をやつた舊蹟だ、驛の近くに錦溪温泉がある。

延命寺――驛の東廿丁、鬼住にある、（觀心寺まで東北十五丁）梅、櫻、楓等の樹木多く殊に楓は名所になつてゐるだけに秋は頗る壯觀を呈する、寺内の紅葉庵を遊客の休憩所に充てゝゐる。

▼千　早　口　（汐見橋より二十哩八分、到着時間約一時十八分）

金剛山――驛の東方山路の、小徑を辿ること卅丁にして觀心寺より來る道と合する太井に着く、更に東廿五丁、千早洞を過つて赤坂城趾より來る道と合ふ山麓千早村に至る、山頂はこれより四十丁である、山は河内大和の兩國に跨がり、海拔三千七百尺、極めて峻しい坂路だ。

千早城址――千早村より三丁、金剛山道の右にある、楠正成が敵百萬の大軍を引受けて屢々之れを大破せし處、城趾に**千早城舊址**の銅碑及び楠公を祀る**千早神社**がある。三の丸址から臨むと、千早村は脚下に五條より富田林に通ずる街道は山の左に、周圍は重々たる峰巒、土地不案内の敵をして手古摺らした、要塞の往昔が偲ばれる、

川柳に　千早の奇手黄威に成つて逃げ。

正成は立て掛けて見てお可笑がり。

『千劍破城の寄手は、前の勢八十萬騎に、又赤坂の勢吉野の勢馳加はつて、百萬騎に餘りければ、城の四方二三里が間は、見物相撲の場の如く打圍んで、尺寸の地をも餘さず充滿たり。旌旗の風に飜つて靡く氣色は、秋の野の尾花が末よりも繁く、劍戟の日に映じて輝ける有樣は、曉の霜の枯草に布ける が如く也。大軍の近づく處には、山勢是が爲に動き、時の聲の震ふ中には、坤軸須臾に堆けたり。此勢にも恐れずして、纔に千人に足らぬ小勢にて、誰を憑み何をか待つ共なきに、城中にこらへて、防ぎ戰ける樓が心の程こそ不敵なれ。此城東西は谷深く切つて、人の上るべき樣もなし。南北は金剛山につゞきて、而も峰峙たり。されども高さ二町許りにて廻り一里に足らぬ小城なれば、何程の事か有るべきと、寄手是を見侮つて、初一兩日の程は、向ひ陣をも取らず、攻支度をも用意せず、我先にと城の木戸口の邊までかづきつれてぞ上りたりける。城中の者共少しもさわがず、靜まり返つて、高櫓の上より、大石を投懸投懸、楯の板を微塵に打碎いて、漂よふ處を差つめ差つめ射ける間、四方の坂よりころび落ち、落ち重なりて手を負ひ、死をいたす者、一日の内に五六千人に及べり。長崎四郎左衛門尉、

軍奉行に有ければ、手負死人の實檢をしけるに執筆十二人夜晝三日が間筆をも置かず註せり(中略)、正成、いでさらば又寄手をたばかりて、居眠りさまさんとて、芥を以て人長に人形を二三十作つて甲冑をきせ、兵仗を持たせて、夜中に城の麓に立置き、前に疊楯をつき箆べ、その後にすぐりたる兵五百人を交へて夜のほの〴〵と明ける霧の下より、同時に時をどつと作る。四方の寄手時の聲を聞いて、すはや城の中より打出でたるは、是こそ敵の運の盡る處の死狂ひよとて、我先にとぞ攻め合せける。城の兵衆て功たる事なれば、矢軍ちとする樣にして、大勢相近づけて、人形詐りを木がくれに殘し置いて兵は皆次第〳〵に城の上へ引上る。寄手人形を實の兵ぞと心得て、是を打たんと相集まる。正成所存の如く、敵をたばかり寄せて、大石を四五十、一度にはつと發す、一所に集まりたる敵三百餘人、矢庭に打殺され半死半生の者五百餘人に及べり、軍はて、是を見れば、哀れ大剛の者哉と思ひて一足も引かざりつる兵皆人にはあらで、藁にて作れる人形也。是れ討たんと相集まつて、石に當り矢に當つて死せるも高名ならず、又是を危みて進み得ざりつるも、臆病の程顯れて云ふ甲斐なし。唯兎にも角にも萬人の物笑ひとぞ成にける。(太平記)

大楠公の塚
葛木神社
建水分神社
橋本町
應其寺

千早城趾から一丁程も登ると、左に**大楠公の塚**がある、老松亭々としてその周圍を繞つてゐる、そこから峻しいつゞけの坂路三十五六丁で金剛山の山頂に至る、

葛木神社――金剛山の頂にある、一言主命及七座の神を祀る、一言主命が雄略天皇の朝に出現されて靈異を示されたことが古事記に見えてゐる、今の社殿は假殿だ、前の社は此處から右に二丁程もいつた所にあつたもので、老杉繁茂、頗る神嚴を極めたが今はその址が存してゐるに過ぎない、社の左、見晴らしのよい所を國見ケ岳といふ昔大楠公が本據を構へた所であるといはれてゐる、西北山麓建水分神社迄二里である、峻しい惡い山路だから、登山者は其準備を要する。次の▼天見▼紀見峠▼高野辻省略。

▼橋本（汐見橋より二十八哩一分到着時間約一時四十五分）

關西和歌山線（省線）の接續點。

橋本町――天正年中（凡そ三百五十年前）高野山木食應其上人（近江觀音寺の城主佐々木義秀）の開ける所で紀の川に長橋を架して高野往來の便を圖つたので町の名がある。驛の西三丁に應其寺がある、眞言宗、高野派、本尊十一面觀音を安置してゐる、開基は前記木食上人である。

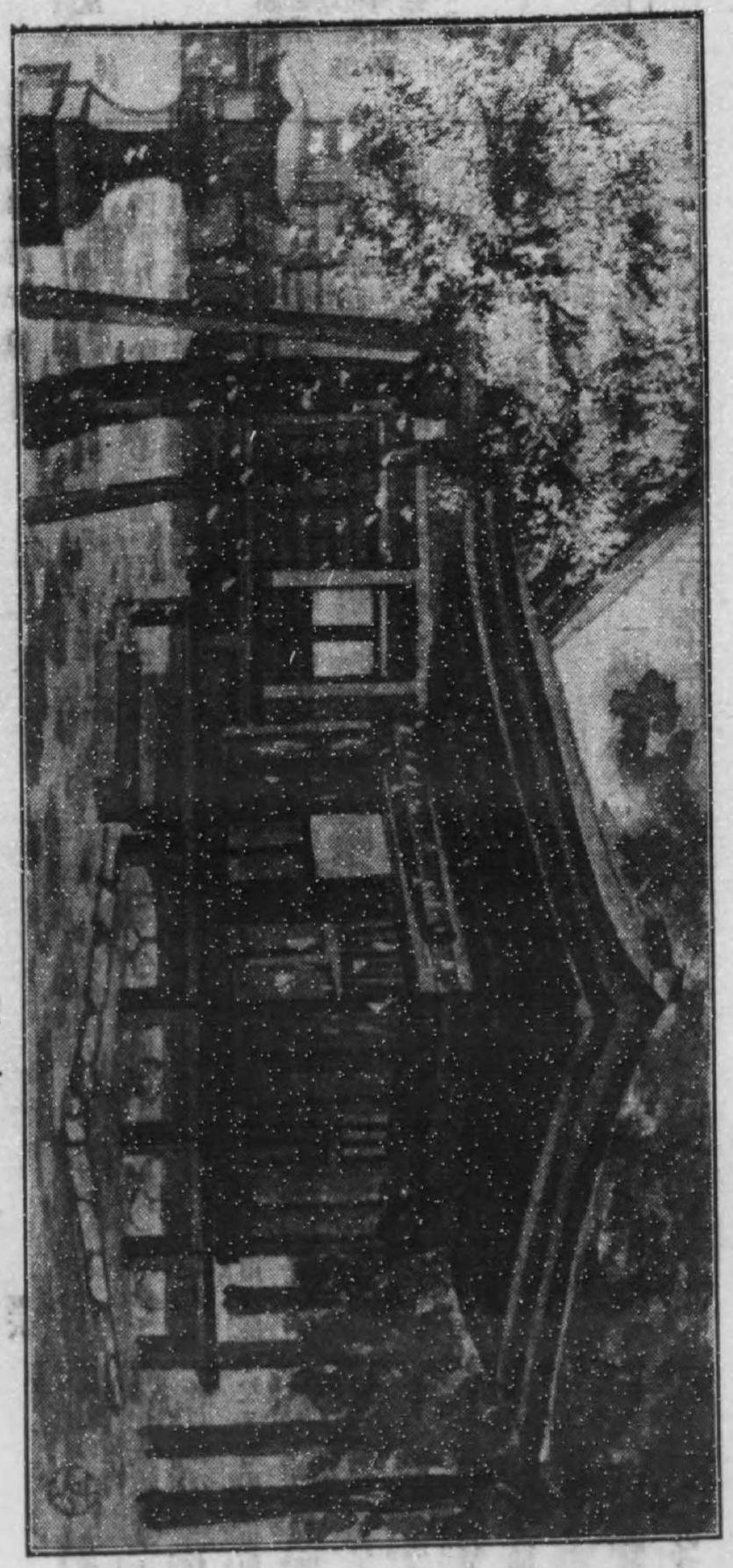
高野山
學文路
荊萱堂
產土神社
日輪寺
石橋
觀音茶屋
黑石
神谷
極樂橋
不動坂
萬丈嶽
岩不動

高野山――驛より山上迄四里半、人力車が通じてゐる、關西和歌山線高野口より遠いこと一里、登山道は驛の南、紀の川を渡つて西卅五丁（舟の便がある）で**學文路**に至る、旅館飲戸、石童丸母子が宿したといふ玉屋今尙存してゐる、學文路の出はづれにその石童丸親子の遺跡**荊萱堂**及び石童丸の母、千里の墓がある學文路から更に一里で河根に至る、此處には丹生、高野の兩明神を祀る**產土神社**及び其別當であつたといはれる**日輪寺**がある、河根川に架した卅一間の釣橋卽ち**千石橋**を渡つて廿五六丁程も行くと觀音茶屋に出る、其處から二三丁辿ると**黑石**といつて道の兩側に岩石がある、こゝは明治四年に赤穗の士村上兄弟が父の仇を報ゐた、我國仇討の最後といふ、更に進むと高野口から來る道と合する**神谷**に至る、人家五十餘戸、旅館料亭軒を列べ、高野登山の要衝に當つてゐる、數丁で**極樂橋**に出る、これからが高野山の境域になるのだ、橋を渡ると當山第一の峻路といふ**不動坂**弘法大師がいろは四十八文字を作られた處といふ、その坂の上が**萬丈嶽**で深い谷に臨んだ斷崖である、昔は此上から罪人を簀卷にして投げ込んだ所といふ、不動堂から五丁程も行くと**岩不動**がある、路上に臨んでゐる大巖石で、弘法大師が巖面へ爪で不動の種子を刻んだといはれてゐる、そんな大法螺を吹いても大師ないかへ岩不動がよいと思ふがと洒落て置かふ、そこ

から**児ヶ瀧**その上が**花折坂**更に八丁程で**女人堂**に着く、昔高野は結界の地で女は之より奥へは行くことが出來なかつたのであるから皆此堂で通夜したものだ、堂には大日如來を安置してゐる、「女嫌やる高野の山に、何故に女松は生るぞや。何故に女松が生まいならば、夜這星でも飛ぶまいか」と御剃染の近松の題材心中萬年草に此堂を扱つてゐる。**金剛峯寺**は弘仁七年（凡そ千百年前）弘法大師が嵯峨帝の勅允を得て創建した所、眞言宗の總本山、現寺域百卅三萬八千八百餘坪、僧坊百卅餘、昔は更に廣大なもので寺域七里四方に及び僧坊七千七百を數へたといふ、山上に**高野町**がある、商家軒を列べ繁榮してゐる。

金剛峯寺――金剛峯寺といふ名は、高野一山の總稱で、この寺だけの名ではなかつたのである、寺はもと眞然僧正の廟所のあつた所、文祿元年（凡そ三百卅年前）に豐太閤が母公の爲めに一寺を建立して、青巖寺と名稱けたのが濫觴である、德川時代に成つて此處に敎義宗務所を設け、一山の宗務を司どらした、明治初年に今の名に改め今尙數十の支院の宗務を執つてゐる、本殿に弘法大師の像を安じ、又殿中の柳の間は關白秀次が豐公の怒に觸れ遂に自刄した所である、輪奐の美、結構の精致を盡した巨刹だ、門前の鐘樓に吊した梵鐘は**六時の鐘**といつて有名なもので、寬永十二年（凡そ二百九十年前）の鑄造に係るものである。

児ヶ瀧
花折坂
女人堂
金剛峯寺
高野町
金剛峯寺
六時の鐘



金堂　不動堂　御影堂　西塔　孔雀堂　六角經藏　三鈷松　大門

金堂――金剛峰寺の西にある、高野一山の本堂、弘法大師が創建したものは焼失し、其後のものも、天保十四年（凡そ八十年前）に焼いて、今の堂は萬延元年（凡そ六十年前）に工を終へたものである、安置せる本尊藥師如來、金剛藏堂、普賢延命薩埵、不動明王、金剛王菩薩、虛空藏菩薩、五大力明王等は弘法大師作である、外に弘法大師と四所明神の影像を安じてゐる、堂は華麗に流れず結構壯重を極めたるもので世界一たとの稱がある、金堂の南に山内の古建築物、**不動堂**及び**御影堂**・**西塔**、**孔雀堂**、**六角經藏**等がある、御影堂の前にある**三鈷松**は大師が唐土にゐて、歸朝後の密教の靈地を占なはんとして、八祖相承の三鈷杵を明州といふ所から東に投げた、すると三鈷は遠く雲に入つて沒した、歸朝後此山に分け入られると、唐から投げた三鈷が此松の上にひつかゝつて光りを放つてゐた、大師卽ち其地を靈地と定め、松を此處に移して其跡へ大塔を建てたといふ、當初の松と二代目の實生は枯れて仕舞つて、今のは元祿三年（凡そ二百卅年前）に植ゑかへた三代目である。

大門――金堂の西五丁程にある、一山の總大門で高さ廿二間、表行十五間、奥行九間といふ宏大な二重の樓門である、寛永二年（凡そ二百九十年前）に創立したものは燒失して、今のはその後に再建したもので

苅萱堂　一の橋　高野の玉川　御廟橋　燈籠堂

兩脇の金剛力士は佛師法橋運長の作で名高い、此處から西方を臨むと郡山は脚下に、淡四の海山は遙かに淡く眸中に入る、本山第一の景觀だ、奥の院は山の東方、途路に**苅萱堂**がある、「月に叢雲花に風、散りて果敢なき世の習ひ、筑前筑後肥前肥後、大隅薩摩の六ケ國、探題守護を司どる、加藤左衛門重氏」と琵琶歌で御剃染の石童丸の親、重氏が剃髮し圓空と號つて出家得度した、堂は卽ち其圓空、苅萱道心が住せし所、小さな堂ではあるが、人に知られてゐる點は御廟に次ぐものである、溪河に架した**一の橋**を渡ると奥の院の境内で、路傍の左右は貴賤道俗の數多い石塔が立ちならんでゐる、中に豐太閤、明智光秀、多田滿仲、德川秀忠、親鸞上人、契仲阿闍梨、德川頼宣、淺野長矩など有名な人々の墓や諸藩諸侯の廟墓等がある、邊りは杉と檜の林で薄暗い道だ、二十丁程も行くと日本六玉川の一なる**高野の玉川**に架した**御廟橋**に出る、三十七枚の橋板に金剛界三十七尊の稱名を書いたもので、歌碑に

わすれても汲みやしつらん旅人の、高野おくの玉川のみづ　弘法大師

橋を渡ると、靈元、中御門、櫻町、光格、仁明、孝明の諸帝の寶塔が立ち並んでゐる。

燈籠堂――此堂は奥の院の拜殿といつた樣なもので、有名な長者の萬燈、貧者の一燈が此堂にあるのだ、

一千有餘年消ゑた事がないといはれてゐる、常燈夜燈が瀰々してゐる中央に、一大燈があるのが貧者の一燈で、他が長者の萬燈であるといふ。

御廟——燈籠堂の後にある、周圍玉垣をめぐらし、石壇の上に三間四面の寶形造りの堂が建つてゐる、御廟の三方は轉軸、揚柳、摩尼の三峰で御廟を護つてゐる、地は弘法大師が自ら點定して永く定身を留めたる靈境で、幽邃清淨、高潔なる所である。

たかの山迷ひの雲もさむるやそその曉をまたぬ夜ぞなき。　光嚴法皇

世をすてゝすまれぬ身こそかなしけれかゝる深山の跡を見ながら。（續後葉集）

花を見た顏をなかすや奥の院　野坡

高野山うき世の夢も覺めぬべし、その曉の松のあらしに。　元可

以上で山内の案内は大略盡した、山上での宿泊は旅館等も數多あるが前記女人堂の二丁許り手前の處にある、參詣人案内所へ行けば、そこから指定して寺院で泊めて呉れる、宿泊料は一定してない、高野口から登山する道は和歌山線高野口參照。

阪神電車　大阪——神戸間

淀川堤
西成大橋

此線は大阪梅田町（市電阪神前）を起點として西に野田停車場に至り、天神橋六丁目からする一支線と合して更に西し、大阪灣の沿岸を走つて尼ケ崎、西の宮、御影を經、神戸市三の宮（市電瀧道）に通じてゐる軌道で、大阪神戸間十九哩五分、阪急電車の山手と反對に此線は海岸近くの便宜を圖つてゐる。

▼梅田（起點）

大阪の名所及び詳細は卷頭大阪の見物の項參照。次の▼出入橋▼福島▼野田（野田から大阪市の北部天神橋六丁目に至る支線がある）以上各停車場省略。

▼淀川（梅田より一哩九分、到着時間約八分）

淀川堤——淀川改修のとき水害の憂ひが無い樣に、兩岸に廣大なる堤防を新に築いたものである、東方に三百八十間の西成大橋が見ゑる、海老江から稗島、尼ケ崎方面への通路に當つてゐる橋だ。次の▼稗島▼千船▼杭瀬省略。

大物主神社
大物浦

▼大物（梅田より四哩八分、到着時間約十五分）

大物主神社——停車場の西南一丁餘にある、大物主命市杵島姫を祀る、承安年間（凡そ七百五十年前）平清盛安、藝厳島に詣づる途路、此浦で暴風雨に遇ひ、遙かに厳島の神を祈つて無事なるを得た、後此處に社を建てゝ其神を勧請したものといひ、大物主命は地名に因んで後世此社に合祀したといふ、昔は此邊の濱を**大物浦**といつてゐた、元暦年間（凡そ七百卅年前）源義經が兄頼朝と不和となり、西海に奔らんとして此浦から船出した處が、此沖で颶風に遭遇し、又もこの濱へ船を引返したと傳へられ、諸曲船辨慶は其颶風のとき平家の一門の幽靈が現れて怨みを晴らさんと義經に迫つたことを扱つてゐる、

川柳に　やれ立つな〳〵と武蔵珠數をすり。

「抑も是は桓武天皇九代の後胤、平知盛幽靈なり。あらめづらしやいかに義經、思ひもよらぬ浦波の、聲をしるべに出舟の、〳〵、知盛が沈みし其有樣に、又義經をも海に沈めんと、夕浪に浮める長刀とり直し、巴浪の紋あたりを拂ひ、潮を蹴立て惡風を吹きかけ、眼もくらみ心もみたれて、前後を忘ずるはかりなり。その時義經少しも騒がず、その時義經少しも騒がず、打物拔き持ち、現の人に向ふが如く、言葉を交し戰ひ給へば、辨慶おし隔て、打物業にて叶ふまじと、珠數さら〳〵と押しもんで、東方降三世、南方軍荼利夜叉、西方大威德、北方金剛夜叉明王、中央大聖不動明王の索にかけて、祈られ、惡靈次第に遠ざかれば、辨慶舟子に力を合はせ、御船を漕ぎのけ汀によすれば、猶怨靈は慕ひ來るを、追つ拂ひ祈りのけ、又引く潮にゆられ流れ、また引く汐にゆられ流れて、跡白波ぞなりにける。（船辨慶）

尼ケ崎市
城址
櫻井神社
本興寺

▼尼ケ崎（梅田より五哩三分、到着時間約十七分）

尼ケ崎市——櫻井氏四萬石の舊城下で、阪神間の要衝に當り、神崎川を控へ、大阪灣に臨み、阪神電車の外に福知山線（省線）の便がある、諸曲雲林院に「芦屋の里を立ち出でゝ、我は東に赴けば、名殘の月の西の海、汐の蛭子の浦遠し、汐の蛭子の浦遠し、松陰に、煙をかづく尼ケ崎、煙をかづく尼ケ崎、暮れて見ねたる漁火の、あたりを聞へは難波津に、咲くや木の花冬ごもり、」と謠れてゐる、近年非常に發達して遂に市制が布かれる樣になつた、停車場の東南近くに城址がある、昔は琴浦城といつてゐた所、城址に櫻井氏の祖を祀る**櫻井神社**がある。

本興寺——停留所の西南五丁にある、日蓮宗八品派の本山、應永廿七年（凡そ五百年前）日隆上人の開基、

本尊は七字の御題目で、左右に釋迦、多寶の二佛を安置してゐる、昔は寺域八丁四方に及ぶといふ廣大な伽藍であつたさうだが、元和六年(凡そ三百年前)上地の命で今の地に移したものといふ、寺寶に後花園、後奈良兩帝の宸翰及び國寶になつてゐる蝶一丸の寶劍等を藏してゐる。

廣德寺

廣德寺——別所にある、明德元年(凡そ五百卅年前)言外和尚の開基、禪宗、瑞雲山と號ふ、本尊釋迦佛を安置してゐる、天正十年(凡そ三百四十年前)羽柴秀吉が明智の臣に追はれて此寺に逃げ込み、頭を丸めて僧侶に混じつて味噌を摺り、難を逃れた所といふ、寺寶に其摺鉢、及び秀吉の下知狀、清正の太刀等を藏してゐる。

「惟任日向守光秀は、羽柴筑前守を討取んと、吉川、小早川の兩將へ密使を通じ、手配りをなし置きぬれど、元來秀吉長閑の者にあらねば猶心を安んぜず、翌三日の朝、四王天但馬守、明石儀太夫兩人を招きて申けるは『秀吉を毛利の手に討たせん其手術をなし置きぬれども、彼猿冠者はいかなる計をめぐらし毛利と和睦し、不日に登り來らんもはかり難し。汝等雇卒數十人を引卒し秀吉が來るべき道に埋伏し、不意に起つて討取るべし。秀吉元來先を心に掛る者なれば、大軍を後に殘し、旗本の勢僅にて登るべし。必ずあやまる事なかれ』と下知しければ、四王天、明石の兩人畏まり、手勢勝つて七十餘人、いづれも百姓の體に出で立たせ、手拭にて頭を包み、或は菅笠蓑なんどを被り、鋤鍬を持て、尼ケ崎、西の宮の間を爰彼所に三人五人引別れ、上り下りの往來飛脚の類に、餘所ながら中國の容體を聞合すに、秀吉毛利家と和睦整ひ、急に上洛せる由申す者多かりければ、四王天も明石も、扨こそ主君の先見遠はざりけり、おのれ秀吉、手捕になして都へ引上ぐべしと、片唾をのんで待居たり。(繪本大閤記)

法圓寺

法圓寺——別所にある、淨土宗、天文年間(凡そ三百八十年前)法圓和尚の開基、本尊阿彌陀佛を安置してゐる、後陽成天皇の勅願所にもなつた古刹、天正十六年(凡そ三百四十年前)秀吉の爲めに此寺に幽せられた佐々成政の屠腹した遺跡で、境内に其成政の墓がある。

貴布禰神社

貴布禰神社——法圓寺の西南數丁にある、鄕社加茂明神を祀る、昔祭神が木船に乘つて當濱に來り、浦人に吾を祀らば幸を與へんと云ひて姿消失せた、浦人喜び地を選びて之を祀ると果して大漁があつた、で此處を海士の幸といつたのを後世尼が崎になつたのたといふ緣起を以てゐる、社殿壯嚴、附近第一の社たる。

次の▼出展數省略。

武庫川
鳴尾運動場
競馬場
福應神社

▼武　庫　川　（梅田より七哩二分、到着時間約二十二分）

武庫川——停車場の傍に流れてゐるのがそれだ、水源は丹波多紀郡より發し、三田川となつて生瀬に至り、武庫郡に入つて更に南流四里にして海に注いでゐる、青松一帶の堤は四季の散策に適し、礦で小學校の運動會などがよく催される。

武庫川に跡もとゞめぬかほよ鳥、なく日も見にぬさみだれの頃　家長

▼鳴　尾　（梅田より八哩一分、到着時間約二十四分）

鳴尾運動場——停車場の南方海近くにある、競馬場内五萬坪の理想的運動場で、大小野球試合がよく催される、又鳴尾の地は古の曾禰郷で、「月さろともに出で汐の、波の淡路の島陰や、遠く鳴尾の沖過ぎて、はや住の江に著にけり」と謠曲にある所だ。

常よりも秋に鳴尾の松風はわけて身にしむものにそありける。　西行

▼今　津　（梅田より九哩一分、到着時間約二十六分）

福應神社——停車場の南近くにある、縣社、事代主命を祀る、後陽成天皇から福應の神號を賜ふといふ

昌林寺
廣田神社
甲山社呪寺

古社で、海上の安全を護る神として世の信仰が篤い。

昌林寺——停車場の西北九丁にある、淨土宗、源賢僧都の創建、本尊の阿彌陀佛は國寶に編入されてゐる御影堂に不動明王の像と、自作といふ源頼光や幸壽丸の像を安じ、境内に大江山の鬼退治で御馴染の頼光以下の墓がある、傳說に昔多田滿仲の子美女丸の身代りとなつて死んだ幸壽丸の首を包む苞が此處に流れ來たので此寺に葬り、それで村の名前があるといふ、

天乙女いさりたく火のおほくして、都努の松原おもほゆるかな。　萬葉集

の詠がある都努の松原（津門ならん）は此邊の古名で、昌林寺の山號を松原といふは其遺名であるといふ。

▼西の宮東口　（梅田より十哩、到着時間約二十八分）

廣田神社——停車場の東十六丁字廣田にある、官幣大社、天照皇大神を祀る、神功皇后三韓より御凱旋のさき勸請せられた壯嚴な御社である、社域高燥、老樹多く、又近年櫻樹及躑躅等を植ゑ附け、榮の花の曉めと共に美しい景趣を添へるやうになつた。

甲山神呪寺——廣田神社の西北廿五丁、甲山の頂きにある、詳しくは阪神急行風川參照。

西の宮町
西の宮神社
香櫨園
香櫨園濱
六甲苦樂園
甲陽園

▼西の宮（梅田より十哩四分、到着時間約三十分）

西の宮町——灘五郷の一で、清酒と戎樣とで著はれてゐる處だ。

西の宮神社——停留所の南二丁にある、縣社、蛭兒命を祀る、創立年代は詳でないが、今の社殿は寛文三年（凡そ二百五十年前）に再建せるもので、頗る神嚴を極めてゐる、一月九日、十日、十一日の三日は宵戎、十日戎、殘り福等といつて特に福德を授け給ふ緣日たとて非常な雜沓を極める、社域廣濶、松樹多く社頭に神苑を築き優秀佳麗、清淨の地である。

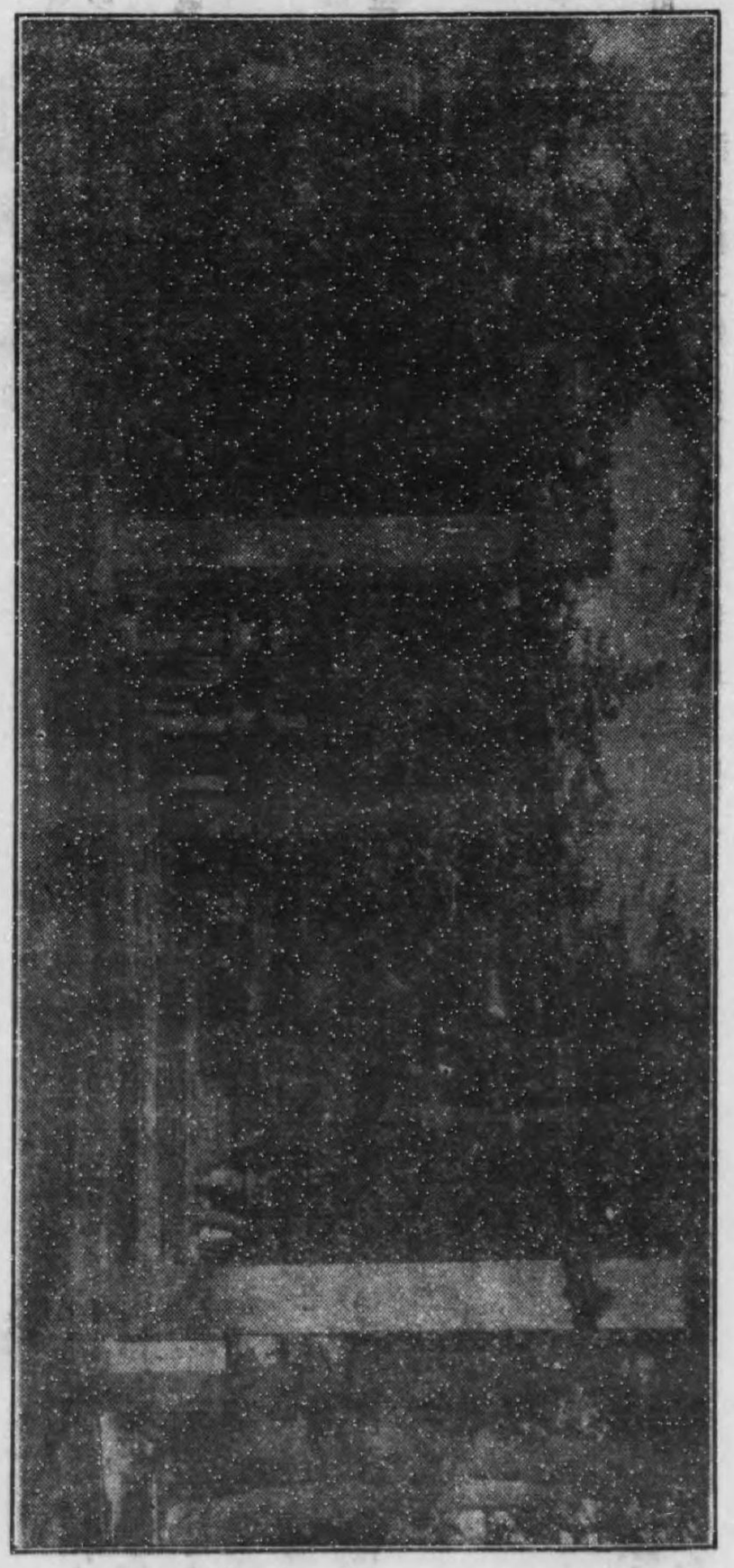
寶れ殘る十日戎や寶なり。　琅々

▼香櫨園（梅田より十哩九分、到着時間約三十一分）

香櫨園——阪神電車が客引の爲めに經營した遊園地だが今は廢園になつてゐる。香櫨園濱停留所の南五丁風光明眉、毎年夏季になると海水浴場の設備がされ、浴客で中々賑ふ。

六甲苦樂園——北廿餘丁。甲陽園東廿五丁共に自動車の便がある、阪神急行夙川參照。

▼打出（梅田より十一哩七分、到着時間約三十三分）



社神面

打出の濱
阿保親王の墓
芦屋遊園
御影町

打出の濱——夙川と芦屋川の間との濱をいふ、昔神功皇后三韓より御凱旋のとき、甕坂、忍熊の二皇子が皇居の軍を打たんと兵船で打つて出でられた所で、其名があるといふ。停車場の北五丁餘に平城天皇の皇子阿保親王の墓といふ古墳がある。此地は親王の別莊のあつた所といふが詳でない、阿保親王といへば其筋で有名な在原行平や業平の父君だ。川柳に「どらな子をあぼ親王は二人もち」。

▼芦　屋

（梅田より十二哩四分、到着時間約三十五分）

芦屋遊園——停留所の附近がそれだ、白砂青松の遊園で頗る風致がよい、又芦屋の地は昔在原業平が住んでゐた所、伊勢物語に「昔、男、津の國、芦屋の郡、芦屋の里に領るよしして、行きて住けり」と記し、

芦の屋の灘の鹽焼き暇なみ、黄楊の小櫛もさゝず來にけり。　業平

の歌は此處での詠といふ。次の▼**深江**▼**青木**▼**魚崎**、▼**住吉**省略。

▼御　影

梅田より十五哩四分、到着時間約四十四分）

御影町——灘郷屈指の大邑で、海濱を御影の濱といひ、古歌に「御影の松よ面かはりすな」の詠がある處、酒と石材とで知られてゐる、近年停留所から山手へさして澤山な別莊や住宅が建ち列び、大阪に於ける天

六甲登山
摩耶山
敏馬の浦
敏馬神社
神戸の名所

下茶屋といつた樣な趣がある。

▼石　屋　川

（梅田より十五哩八分、到着時間約四十五分）

六甲登山——此處から石屋川に沿ひ、赤松城の古址を經て山上迄一里半餘、東洋一のゴルフ遊戯場外人村落に出る。詳しくは東海道線住吉參照。次の▼**東明**▼**新在家**▼**大石**省略。

▼岩　屋

（梅田より十七哩七分、到着時間約五十三分）

摩耶山——停車場の北、上野村を經て至る行程約一里、詳しくは阪神急行神戸參照。

敏馬の浦——岩屋の海濱附近をいふ、萬葉集に「神の御代より、百船の、はつる泊りと、八州國、百船人の、定めてし、敏馬の浦は、朝風に、浦波騒ぎ、夕浪に、玉藻は來寄る、白眞砂」とある所だ、夏季になると海水浴場の設備がされる、岩屋の西端に**敏馬神社**がある、村社、素盞嗚尊を祀る、老松繁茂して頗る風致がある。次の▼**臨濱**▼**春日野道**▼**新生田川**▼**三の宮**の各停車場省略。

▼神　戸

（梅田より十九哩五分、到着時間約一時間）

神戸の名所及其他の詳細は東海道本線神戸市の部參照。

阪神急行電車

大阪—箕面—寶塚
大阪—伊丹—神戸

此線は大體に於て寶塚線と神戸線との二線よりなつてゐる。

寶塚線とは大阪（市電梅田車庫前）を起點とし北に走り、十三停車場に行つて吹田方面に至る北大阪電車に連絡し、神戸線と岐れて更に北し、石橋から東北箕面公園に通じてゐる二哩五分の箕面線を岐け、能勢口からは能勢妙見に通ずる能勢電車に連絡して西に走り、寶塚の終點に行つて神戸線西の宮北口からする西寶線に接續する十五哩五分をいふのである。

神戸線とは寶塚線と同じく大阪より十三に至り、同線と岐れて西に走り、塚口から北、伊丹に通ずる一哩八分の伊丹線を岐け、西の宮北口に行つて更に寶塚に至る四哩八分の西寶線を分岐し、本線は西に六甲山の麓を縫ふて神戸市（市電上筒井）に通ずる十八哩九分をいふのである。神戸線の案内は便宜上十三から詳述することにする。

▼梅　田（起點）

寶塚線と神戸線との起點である。大阪の名所及詳細は大阪見物の項參照。次の▼北野▼新淀川省略。

（梅田より一哩七分、到着時間約七分）

▼十　三（十三堤）

神戸線、寶塚線の分岐點で北大阪電車の接續點である。北大阪電車の沿線名所は同線の部參照。

十三堤——新淀川の堤をいふのである昔春の野がけと云へば此十三堤に先づ指を折つたものだ今は隨分附近に住宅が建ち列んで來たがそれでも、ポカ〳〵と溫かい陽氣になると辨當等を持つて出掛ける人が多い。

正通院——停車場の東十丁木川にある、曹洞宗、元弘年間（凡そ五百九十年前）の創建、本尊十一面觀音は聖德太子作、楠正成公の持佛であつたといふ、其外明から傳來したといふ、關羽、關平、周倉の三像を安置してゐる。

▼三　國（正通院）

南昌庵——停留所の北十二丁字野田にある、禪宗、寛永年間（凡そ二百九十年前）の創建、本尊は豐太閤の念持佛で、最も信仰が篤かつたといふ安阿彌作の如意輪觀音を安じてゐる。

▼服　部（南昌庵）

（梅田より三哩、到着時間約十一分）

服部天神
原田神社
瑞輪寺
寶珠寺

服部天神——停留所の東にある、少彦名命と菅原道眞公を祀る、創立年代は詳でないが、脚氣病に靈驗があるといつて祈願する人が多い、それで脚氣には轉地(天神)がよいといふのたらうが惡い文字合せた。次の▼曾根省略。

▼岡　町（梅田より六哩二分、到着時間約十九分）

原田神社——停留所の前、字櫻塚にある、天照大神外五座を祀る、創立年代は不詳、往昔は中々壯麗を極めた御社といふが、兵火に罹り今の社殿は、慶安四年(凡そ二百七十年前)の再建である、社域三千四百坪、樹木多く、毎年一月八日の菜摘祭、二月廿日の祈念祭には、風雅な古式の神事が行はれる。

瑞輪寺——原田神社の東にある、黄檗宗、和銅九年(凡そ千二百十年前)行基の開基、本尊藥師佛は行基作といふ、此寺も昔は堂塔頗る宏大な伽藍であつたが、元龜年間(凡そ三百五十年前)荒木、三好の兵火で燒失し、久しく衰廢してゐたのを、元祿年間(凡そ二百卅年前)に唐僧卽兆禪師に依つて再興されたのである

寶珠寺——停留所の東北十三丁、熊野田村にある、淨土宗、鎭守は當村の產土神牛頭天王である、花山法皇の御戒師佛眼上人が天皇の導者として、西國の靈場を經廻り、後、此地に堂宇を建立されたのであるといふ、境内に花山法皇と佛眼上人の塔等がある、寺の西方に佛眼寺がある、寶珠寺の奥の院といひ、惠心僧都作の阿彌陀佛を安置してゐる、佛眼上人の創建、上人西國靈場巡拜の後、此寺に閑居し入滅した所、今の堂は寶曆年間(凡そ百六十年前)の再建である、境内に楓櫻多く、春秋ともに美しい。

佛眼寺
豐中グランド
圓滿寺
梅林庵
安樂寺
箕面線

▼豐　中（梅田より六哩八分、到着時間約二十一分）

豐中グランド——停留所の西北にある、野球大會等が、よく開催される所だ。

▼螢　ケ　池（梅田より七哩六分、到着時間約二十三分）

圓滿寺——停留所の東近くにある、禪宗、本尊觀世音を安置してゐる、舊廉田藩主の菩提所で、境内に櫻楓の古木が多い。

梅林庵——停留所の東北九丁、字南刀根山にある、曹洞宗、文祿年中(凡そ三百卅年前)明仙禪師の開基、本尊觀世音を安置してゐる。梅林庵の東北三丁柴原に安樂寺がある、淨土宗の寺で圓譽上人の中興といふ

▼石　橋（梅田より八哩七分、到着時間約二十六分）

箕面線の分岐點、箕面公園に遊ぶ人は此處で乘替せねばならぬ。

千里山
釋迦院
常福寺
櫻ヶ丘
瀬川古戰場
阿比太神社

千里山——停留所の東南に連る丘岳がそれだ、蛻蟹三里、三島郡に亘り、山脈中に待兼山、玉坂等歌によく詠まれた所がある、

てしまなる名を玉坂のたまさかに思ひいでゝもあはれ問はなん。元良親王

釋迦院——停留所の西北十丁才田にある、眞言宗、行基の開基、本尊の釋迦佛は聖德太子一刀三禮の作で いつて名高い。常福寺停留所の西十四丁字神田にある、眞言宗、天平三年（凡そ千百九十年前）行基の開基本尊は行基作といふ千手觀音である、今の堂は慶長十一年（凡そ三百十年前）池田光重の再建といふ。

▼櫻井（石橋より一哩一分、到着時間約三分）——以下箕面線——

櫻ヶ丘——停車場の北三丁にある住宅地で、梅樹多く花の頃は美しい。

瀬川古戰場——停留所西四五丁瀬川の地をいふ、元弘三年（凡そ五百九十年前）に赤松圓心が六波羅軍と戰ひ、建武三年（凡そ五百八十五年前）には新田義貞が足利尊氏を追擊した激戰地だ。瀬川の北九丁新稻村に阿比太神社がある、延喜式の大社で、俗に牛頭天王といつてゐる。

萱野三平の墓

萱野三平の墓——停車場の東二十丁、萱野村大字芝にある、三平は赤穗義士の一人で、假名手本忠臣藏六段目に「夜前彌五郎殿の御目に懸り、別れて歸る闇紛れ、山越猪に出合、二つ玉に打留、駈寄つて探り見れば、猪ではあらで旅人。」と腹を切つて申開き、鄕右衛門から「思へば〳〵此金は島の財布の紫縨黃金、佛果を得よ」といはれ「佛果とは槭し、死ぬな〳〵。魂魄此地に留まりて仇討の御供する」と力味かつた色男の早野勘平の本尊たが、實際は「彼れ若し在命にて居申たらは、今座の一列に加はり申す可き者におざつた」と内藏之助が復讐後御預けとなつた細川家の臣に、三平のことをあけて嗟嘆したといふ偉丈夫だ、地は其三平が住んで居た所、邸宅たといふものも遺つてゐる、左に三平から大石内藏之助へ差出した遺書の手簡を記錄する。

爲二年始之御祝迄一　先達奉レ呈二愚札一候。然者薺冬以來、吉田忠左衛門、近松勘六申合、當春江戸ゑ可二羅下一と奉レ存候處、愚父七郎左衛門儀、不レ知二其主意一强制二止之一候。最本意を申聞候者、却而喜悅可レ仕とは存候得共、御手前樣ゑ差上置候神文之手前も御座候得者、假令父子之間にても、此儀口外難レ仕、君父忠孝之間に於て、聊當惑仕、依レ之自殺仕候。最吉田、近松ゑ以二別紙一不レ申候間

從ニ御手前様ニ可レ然奉レ憑候　恐惶謹言。

正月十三日

大石内蔵之介様

圓淨寺

圓淨寺——同所にある、眞宗、天正年中（凡そ三百四十年前）顯如上人の弟子となつた、越前の某が建立した所、後芝山和尚のごき大鹽中齋の師となつた關係から中富が寄進した學修塲の別莊が今に存してゐる。次の▼牧落省略。

箕面公園

▼箕　面　（石橋より二哩五分、到着時間約七分）

箕面公園——停留所の前が入口た、園域八十五町歩に餘る公園で、山に臨み、溪あり、翠巒溪流を挾んで景趣頗る絶佳である、全山錦を織る秋の楓は日本一といふも過言でない、又春の、楓の芽出しの頃、山櫻が溪のあちこちに點綴してゐる樣も云はれぬ風情がある、停車塲から一丁程行くと一の橋に出る、橋の手前を右に一丁登ると、日本最初歡喜天出現地といふ西江寺がある、昔は神宮寺と號ひ聖武天皇の勅願所にもなつた古刹で、役小角作といふ本尊觀音天を安置してゐる、寺傳によると大化年間（凡そ千二百八十年

箕面の瀧

前）役行者が當山の清瀧（箕面瀧）で苦行を積まれしが、一向に驗がなかつたので行場を金剛山に轉ぜんとせられる時、山嶽鳴動して異彩光明の裡に尊容を拝し、行者尊體に額き御名を問へば吾は大聖歓喜天なり萬民祈願成就の爲め茲に姿を現せりと曰ふ、行者刮然として尊容を仰き祈願を凝らして尊像を作るといふ境内にその對談石といふ念の入つたものがある。一の橋から四五丁程行くと瀧安寺がある、溪流に臨んだ所で、吉祥院ともいふ、白雉年間（凡そ千二百七十年前）役小角が靈木を以て辨財天の尊像を彫み、一宇を建立して安置したのが此寺の濫觴である、辨財天は竹生島、江の島、嚴島の三辨天と共に日本四辨天の稱がある有名なものだ、境域に觀音堂・神變大菩薩堂等の建物がある、辨天堂の裏手から溪流に沿ふて七八丁程も行くと唐人の戻岩といふ大巖石が路の右手に峭立してゐる、戻岩橋を渡つて尙二丁瀑聲を耳にして進むと路きはまる前面に高さ十六丈巾二間に餘る箕面の瀧が、樹木繁茂せる大日ケ嶽の上から奔下してゐる、壯大雄麗、豪宕塊偉、鳴動百雷と轟き、飛沫煙る美例ふるものがない、

これやこの天の川とぞ水くだり、雲より落つるたき津しら波。（遊京浸錄）

群巖與二衆楓一　到處爭二奇狀一　尤是一枝紅　倒懸飛瀑上。　旭莊

瀧安寺

唐人の戻岩

箕面の瀧

歸路をもとの戻岩橋から左に小徑即ち舊路を辿れば趣味が深い、天狗の鼻、地獄谷、搦秋臺、姫岩、躑躅ケ岩等の勝區がある、姫岩は巨巖相並び立つ間を通るもので一寸凄い感を起させる、そこを過ぎると程なく前記瀧安寺の下に出るのだ。

勝尾寺

勝尾寺——瀧の右側を登つて、溪流傳ひに卅餘丁にして至る、眞言宗、應頂山と號ふ、光仁天皇の御子開成皇子の創建、本尊は栴檀木の十一面千手觀音で化人妙觀の作といふ、西國廿三番の靈場だ、

おもしろて罪には法のかちを寺、佛をたのむ身こそやすけれ。　詠歌

寺傳によると寶龜元年（凡そ千百五十年前）開成皇子當山に御參籠あり、遂に剃髮染衣遊はされ當寺を開基し給ふ、其後妙觀なる沙門數人の僧侶を隨へて當山に來り、觀音の尊像を刻み、像なるに及び妙觀以下合掌して消失せたりといふ、それが今の本尊の緣起である、二階堂に惠心僧都作の阿彌陀佛を安置してゐる創建當初の堂は、靜水（凡そ七百四十年前）の兵火に罹り、今のは賴朝の再建といふ、境内東谷に勝尾寺陵がある、延元元年（凡そ五百八十年前）足利尊氏が擁立した光明院の御陵である、寺域廣濶、櫻、楓、萩等多く其頃は美しい、寺から東海道線茨木驛へは東南三里である。

池田町
呉服神社
伊居多神社

▼池田（梅田より十哩二分、到着時間約二十九分）

池田町——五月山の麓、猪名川の左岸にある、清酒の名産地、北摂唯一の物資集散地で、「在所なれども池田は名所、月に十二の市が立つ」と俗謡に唄はれてゐる町だ。

呉服神社——停留所西一丁室町にある、謡曲に「これは應神天皇の御宇に、めでたき御衣を織り初し、呉織漢織と申し、二人の者、」とある、呉媛を祀る、停留所の北七丁北新町に伊居多神社がある、前記呉媛と共に、呉國から來朝した漢織を祀る社で、仁德天皇七十九年（凡そ千五百卅年前）の創建といふ、謡曲呉服は、呉織漢織の女工が現れて、故事を語り御代を壽ぐ目出度曲である、

「それ綾と云へは、唐呉郡の地より織りそめて、女工のながき營みなり。しかるに神功皇后、三韓をしたがへ給ひしより、和國異朝の道廣く、人の國まで靡く世の、我日の本はのどかなる、御代の光は普くて、國富み民ゆたかなり。東南雲收まりて、西北に風靜かなり。應神天皇の御宇かさよ、呉國の勅使此地に、はじめて來り給ひしに、綾女糸女の女嬬を添へ、萬里の蒼波を渡り來て、西日影殘りなく、呉服の里に休らひ、連日に立つる機物の、錦を折々の、綾の御衣を奉る。勅使奏覽ありしかは、叡感殊に甚だし。それより名づけつゝ、哀龍の御衣の紋、いとなみも名高き、山鳩色を移しつゝ、氣色たつなり雲鳥の、羽ぶさをたゝむ綾となす、いとゞもかしこかりけり。しかれは萬代に、絶にせぬ御調なるべしと御定めありしより。呉神の文字をやはらけて、呉織漢織と、名づけさせ給へは、年を迎へて色をなす綾の錦の唐衣、かへすがへすも君が袖、古きためしを引き糸の、かゝる御世ぞめでたき。（謡曲呉服）

大廣寺——停留所の北九丁、五月山の半腹にある、曹洞宗、應永年間（凡そ五百十年前）の創建、本尊釋迦如來、脇士文殊、普賢の兩菩薩は運慶の作で國寶に編入されてゐる、名高い血天井は、池田光政三世の孫某が戰敗して屠腹した、その血が床板に浸み込んだのを、撤して天井にしたものである、境内に連歌で有名な牡丹花肖柏の舊趾がある、又五月山は

五月山花たちはなにほとゝぎすかくあふときはあへる君かも。　萬葉集

などの詠がある處で、織田時代に池田筑後守勝政の居城があつた址だ。

大廣寺

▼能勢口（梅田より十哩九分、到着時間約三十一分）

勢電車の接續點、沿線の名所及詳細は同線參照。

▼花屋敷（梅田より十一哩四分、到着時間約三十三分）

福知山線池田驛は停車場の南二丁にある。

滿願寺——停留所の西北十七丁字滿願寺にある、古義眞言宗、神秀山と號ふ、勝道法師の開基、本尊千手觀音を安置してゐる、天祿年間（凡そ九百五十年前）源滿仲此處に城を築き、當山の觀世音に歸依して大伽藍を營み、又後醍醐天皇の勅願所にもなり、中々盛大を極めたが、天正（凡そ三百四十年前）の兵火に燒失し、後慶安年間（凡そ二百七十年前）に再建したものである、幽邃閑雅い、境内だ。次の▼雲雀丘省略。

▼平井（梅田より十二哩三分、到着時間約三十五分）

最明寺瀧——停留所の北十丁（滿願寺の西南八丁）溪流に沿ふて登ると出る、昔最明寺時賴此處に遊び、此瀧を賞せしより其名がある、高さ五丈餘、頗る壯觀である、附近に躑躅が多い、又瀧の上に足跡石、菩薩頭、西方石の奇巖や金剛窟、龍女祠等の舊跡がある。次の▼山本省略。

▼中山（梅田より十三哩六分、到着時間約四十分）

滿願寺

最明寺瀧

中山寺

中山寺——停留所の前にある、御室派眞言宗別格本山、紫雲山と號ふ、用明天皇の御宇（凡そ千三百四十年前）聖德太子の創始で、本尊の十一面觀音は勝鬘夫人が釋迦佛の敎を受け女人濟度の爲めに自ら刻まれたと傳ふる靈像、脇佛二軀の十一面觀音は運慶滿慶の作で、合して三十三面卽ち卅三所統攝の意を現はしたるものといふ、昔邪慳なる女人が鐘の緒に卷上げられたといふ不可思議もある西國第廿四番の靈刹た、

野をも過ぎ里をもすぎて中山の、寺へ參るは後の世のため。　詠歌

今の堂は慶長八年（凡そ三百十年前）豐臣秀賴の再建である、毎年四月十五日より一週間の無緣經大法會、八月七日の星下り大會式には、遠近から數萬の參詣者が來るので非常な雜沓を極める、寺の西北十八丁に奥の院がある、仲哀帝の先妃、大仲姫及び皇子忍熊王を祀る、老樹繁茂、巨巖峭立、頗る閑寂な所である

奥の院

次の▼賓布神社省略。

伊澄寺

▼清荒神（梅田より十四哩八分、到着時間約四十三分）

清澄寺——停留所の北十丁にある、古義眞言宗、靜觀僧正の開基、本尊大日如來は弘法大師の作といふ、境内に宇多天皇より日本第一清荒神の勅號を賜つた、靈驗顯著なる三寶荒神を祀る、堂宇は寛永七年（凡そ二百九十年前）本覺大師の建立である、參詣者常に絶えず、別して節分には無數の賽者で群衆する。又停車場の附近は梅樹多く**米谷の梅林**、**八坂の梅林**等此附近である。

米谷の梅林
八坂の梅林

▼寶塚（梅田より十五哩五分、到着時間約四十五分）

西寶線の接續點。停車場の北一丁に**福知山線寶塚驛**がある。

福知山線
寶塚

寶塚——武庫川の兩岸一帶の地で、近年非常に發展し、料理屋、旅館等高樓軒を並べ、隱れ遊びの御誂へ場所として、首を切られるチウ實者が多いことだ。

寶塚新温泉

寶塚新温泉——停留所の西南近くにある。阪急電車が乘客引付策に經營したもので、宏大な洋風の建築物だ、中に蒸風呂、家族温泉、少女歌劇等と目新しいものを設備して遊客を呼んでゐる、新温泉から南に三四丁程も行くと**寶塚グランド**に出る。停留所から武庫川に架す寶來橋を渡ると舊温泉がある、鑛泉で今から廿五六年以前に發見されたものだ。舊温泉から北に三丁程行くと見返橋がある、橋を渡らずに左手に下ると**長壽の瀧**がある、附近は巖石重々たる處で、對岸から**見返り巖**、千歲橋等を眺めた武庫川の景色がよい。

寶塚新温泉
寶塚グランド
舊温泉
長壽の瀧
見返り巖